

薬害問題に対する各大学の取組状況調査結果（令和6年度）

<学部教育における取組状況>

○薬害問題に対する各大学の取組状況の推移（令和元年度～令和6年度）【総表】…………… 1

○医学部医学科

薬害問題に対する各大学の取組状況（医学部医学科）…………… 2

薬害問題に対する各大学の取組状況（医学部医学科）【再掲】…………… 5

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について
取り上げている授業科目

② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況(医学部医学科)………… 8

○歯学部歯学科

薬害問題に対する各大学の取組状況（歯学部歯学科）…………… 22

薬害問題に対する各大学の取組状況（歯学部歯学科）【再掲】…………… 23

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について
取り上げている授業科目

② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況(歯学部歯学科)…… 24

○看護学部等

薬害問題に対する各大学の取組状況（看護学部等）…………… 28

薬害問題に対する各大学の取組状況（看護学部等）【再掲】…………… 42

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について
取り上げている授業科目

② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況(看護学部等)………… 52

○薬学部

薬害問題に対する各大学の取組状況（薬学部）…………… 68

薬害問題に対する各大学の取組状況（薬学部）【再掲】…………… 71

① 薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について
取り上げている授業科目

② 被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況(薬学部)…………… 73

<附属病院における取組状況>

○カルテ開示請求の周知状況、医療情報の共有に向けた取組状況…………… 80

○カルテの保存年限運用状況…………… 81

（文部科学省高等教育局医学教育課）

薬害問題に対する各大学の取組状況の推移（総表）

学部 学科	設置区分 (R6の学部等数)	実施状況	1. 薬害被害について学ぶ授業						2. 薬害被害者の声を聞く授業（特別講義など）					
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
医学部 医学科	国立 (42)	実施している	42	42	42	42	42	41	32	29	30	31	31	29
		検討中	0	0	0	0	0	1	6	6	5	6	7	7
		実施していない	0	0	0	0	0	0	4	7	7	5	4	6
	公立 (8)	実施している	8	7	8	8	8	8	5	4	4	5	5	5
		検討中	0	0	0	0	0	0	2	1	2	3	3	1
		実施していない	0	1	0	0	0	0	1	3	2	0	0	2
	私立 (31)	実施している	30	31	30	30	30	29	16	16	15	16	19	19
		検討中	1	0	0	0	0	2	7	7	6	7	4	7
		実施していない	0	0	1	1	1	0	8	8	10	8	8	5
	計 (81)	実施している	80	80	80	80	80	78	53	49	49	52	55	53
		検討中	1	0	0	0	0	3	15	14	13	16	14	15
		実施していない	0	1	1	1	1	0	13	18	19	13	12	13
歯学部 歯学科	国立 (11)	実施している	11	11	11	11	11	11	7	6	6	7	7	7
		検討中	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	4	4
		実施していない	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0
	公立 (1)	実施している	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		検討中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実施していない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	私立 (17)	実施している	17	17	17	17	17	17	11	10	10	10	10	10
		検討中	0	0	0	0	0	0	3	3	3	4	4	4
		実施していない	0	0	0	0	0	0	3	4	4	3	3	3
	計 (29)	実施している	29	29	29	29	29	29	19	17	17	18	18	18
		検討中	0	0	0	0	0	0	6	6	6	7	8	8
		実施していない	0	0	0	0	0	0	4	6	6	4	3	3
看護 学部等	国立 (42)	実施している	39	39	40	40	40	41	26	22	25	24	24	23
		検討中	2	2	1	1	1	1	5	2	2	1	2	4
		実施していない	1	1	1	1	1	0	11	18	15	17	16	15
	公立 (52)	実施している	44	45	46	42	44	45	12	10	10	10	9	10
		検討中	4	3	3	3	4	5	16	17	18	14	17	17
		実施していない	2	2	1	6	3	2	22	23	22	27	25	25
	私立 (210)	実施している	160	165	166	172	171	188	40	33	39	40	50	53
		検討中	24	26	18	22	22	12	58	63	52	58	53	51
		実施していない	9	6	17	12	13	10	95	101	110	108	103	106
	計 (304)	実施している	243	249	252	254	255	274	78	65	74	74	83	86
		検討中	30	31	22	26	27	18	79	82	72	73	72	72
		実施していない	12	9	19	19	17	12	128	142	147	152	144	146
薬学部	国立 (14)	実施している	14	14	14	14	14	14	14	13	13	13	14	14
		検討中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実施していない	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0
	公立 (5)	実施している	4	4	5	5	5	5	4	4	5	4	4	3
		検討中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		実施していない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	私立 (62)	実施している	57	59	60	60	60	62	55	46	51	53	54	59
		検討中	0	0	0	0	0	0	2	2	3	2	1	2
		実施していない	0	0	0	0	0	0	0	11	6	5	5	1
	計 (81)	実施している	75	77	79	79	79	81	73	63	69	70	72	76
		検討中	0	0	0	0	0	0	2	2	3	3	1	3
		実施していない	0	0	0	0	0	0	0	12	7	6	6	2

薬害問題に対する各大学の取組状況（医学部医学科）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

NO	区分	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	国	北海道大学	○	検討中	薬理学Ⅱ、衛生学	
2	国	旭川医科大学	○	検討中	人間と行動（法学）、臨床薬剤・薬理・治療学	
3	国	弘前大学	検討中	検討中		
4	国	東北大学	○	×	基礎医学特別講義、外科・麻酔・救急・輸血ブロック、血液・免疫・アレルギー・感染症ブロック、臨床腫瘍ブロック	
5	国	秋田大学	○	×	生活習慣病と臨床研修	
6	国	山形大学	○	○	社会医学・医療学	薬害に関する特別講演会
7	国	筑波大学	○	○	クリニカル・クラークシップ準備学習、医学総括、医学の基礎	クリニカル・クラークシップ準備学習
8	国	群馬大学	○	○	臨床薬理学総論	臨床薬理学総論
9	国	千葉大学	○	○	チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）ユニット、薬理学総論、衛生学	チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）
10	国	東京大学	○	検討中	輸血学実習	
11	国	東京医科歯科大学	○	○	包括医療統合教育	包括医療統合教育
12	国	新潟大学	○	○	統合臨床医学コース（臨床医学入門）	統合臨床医学コース（臨床医学入門）
13	国	富山大学	○	○	医療学入門	医療学入門
14	国	金沢大学	○	○	薬理学、臨床薬理学	医薬保健学基礎Ⅰ、Ⅱ、臨床薬理学
15	国	福井大学	○	○	大学教育入門セミナー	大学教育入門セミナー
16	国	山梨大学	○	○	臨床薬理学・薬剤学	倫理学・プロフェッショナルリズム
17	国	信州大学	○	○	臨床実習前集中講義	臨床実習前集中講義
18	国	岐阜大学	○	○	医学概論	医学概論
19	国	浜松医科大学	○	○	医学概論Ⅰ、医療法学Ⅰ	医学概論Ⅰ
20	国	名古屋大学	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学
21	国	三重大学	○	×	チュートリアル教育	
22	国	滋賀医科大学	○	○	公衆衛生学、薬物医療学	医学概論Ⅱ
23	国	京都大学	○	○	薬理学、病理学各論、社会・環境・予防医学	初年次プログラム（特別講義）「サリドマイド薬禍から学ぶ」
24	国	大阪大学	○	×	現代の生命倫理・法・経済を考える	
25	国	神戸大学	○	○	薬理学および臨床薬理学、初期体験臨床実習	初期体験臨床実習
26	国	鳥取大学	○	検討中	医学史、基礎薬理学、社会環境医学、治療学	
27	国	島根大学	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学
28	国	岡山大学	○	○	ウイルス学、脳神経系（臓器・系別統合講義）	脳神経系（臓器・系別統合講義）
29	国	広島大学	○	○	社会医学	社会医学
30	国	山口大学	○	○	基盤系特別専門講義、臨床薬理学	基盤系特別専門講義
31	国	徳島大学	○	○	基礎医学（Ⅰ）、臨床実習入門	臨床実習入門
32	国	香川大学	○	○	医療プロフェッショナルリズムの実践	薬害被害者の声を聴く特別講義
33	国	愛媛大学	○	○	社会と医療、薬物治療・開発学、皮膚科学、薬理学	社会と医療
34	国	高知大学	○	×	臨床薬理学	

NO	区分	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
35	国	九州大学	○	○	薬害	薬害
36	国	佐賀大学	○	○	社会医学・社会法制	医療入門Ⅰ
37	国	長崎大学	○	○	感染系、消化器系	医と社会Ⅲ
38	国	熊本大学	○	○	消化器内科学	消化器内科学
39	国	大分大学	○	○	医療倫理学Ⅲ、皮膚	医療倫理学Ⅲ
40	国	宮崎大学	○	検討中	薬剤処方学・東洋医学、薬理学	
41	国	鹿児島大学	○	検討中	地域・総合診療・症候、社会医学・予防医学、呼吸器、感覚器	
42	国	琉球大学	○	×	臨床薬理学、皮膚結合組織系、臨床実習（皮膚科）	
43	国	札幌医科大学	○	○	社会学、薬理学	医学概論・医療総論4
44	公	福島県立医科大学	○	○	薬害から学ぶ、医療入門Ⅰ 医療と社会	医療入門Ⅰ 医療と社会
45	公	横浜市立大学	○	検討中	薬理学、アレルギー・膠原病学、皮膚科学、消化器内科学	
46	公	名古屋市立大学	○	○	医薬看連携地域参加型学習	医薬看連携地域参加型学習
47	公	京都府立医科大学	○	×	薬理学	
48	公	大阪公立大学	○	×	生体と薬物	
49	公	奈良県立医科大学	○	○	社会福祉と医療法規、薬理学、衛生学・公衆衛生学Ⅱ	VOP講座
50	公	和歌山県立医科大学	○	○	生体と薬物、薬害問題	薬害問題
51	私	岩手医科大学	○	○	医療入門、医療と法律	全人的医療基礎講義
52	私	東北医科薬科大学	○	○	医事法学、薬理学、医療薬学概論、医療安全・医療倫理学、衛生学、環境疾病学、ハンディキャップ体験演習	医療薬学概論、ハンディキャップ体験演習
53	私	自治医科大学	○	検討中	臨床薬理学	
54	私	獨協医科大学	○	○	メディカル・プロフェッショナリズムⅠ	メディカル・プロフェッショナリズムⅠ
55	私	埼玉医科大学	○	○	薬理総論、診療の基本	ヒトの病気コース消化器ユニット
56	私	国際医療福祉大学	○	○	医療プロフェッショナリズムⅢ	医療プロフェッショナリズムⅢ
57	私	杏林大学	○	○	生命倫理と医療安全	生命倫理と医療安全
58	私	慶應義塾大学	○	×	薬理学、臨床薬剤学	
59	私	順天堂大学	○	○	医学研究入門Ⅰ-薬害の歴史と研究開発について、感覚-6:局所麻酔薬、鎮痛薬、筋-3:神経筋接合部、最先端生化学-4:生理活性脂質、自律神経-1:副交感神経系、自律神経-2:交感神経系、心臓・循環-11:不整脈の治療(薬理)、心臓・循環-12:心不全治療薬(薬理)、心臓・循環-13:虚血性心疾患治療薬(薬理)、生殖-3:生殖器系に働く薬物、統合機能-5:全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、統合機能-6:抗てんかん薬、薬物の耐性と依存、統合機能-8:向精神薬、泌尿・体液-5:利尿薬(薬理)、泌尿・体液-9:抗高血圧薬(薬理)(統合講義)、薬理-1:薬の作用、薬理-2:薬物動力学の基礎、中毒-1:「法中毒学(1)」、中毒-2:「中毒学総論」、中毒-6:「急性中毒」、中毒-3:化学物質と社会-1、中毒-4:「法中毒学(2)」、中毒-8:化学物質と社会-2、中毒-10:化学物質と社会-4、臨床薬理学-3:消化器悪性腫瘍に対する化学療法の進歩、臨床薬理学-5:薬物相互作用、G2-麻酔 ^ハ の01 麻酔総論、G2-麻酔 ^ハ の02 全身麻酔と関連薬物、G2-麻酔 ^ハ の03、G3-腎臓04 ネフロローゼ症候群、G4-精神08 器質性精神障害・物質関連障害、G4-精神03 統合失調症・治療、G4-脳内16 代謝性疾患、中毒性疾患、G8-漢方02 漢方医学02、G8-救急01 中毒・災害1:中毒学総論、G9-臨床薬理01 臨床薬理:主な薬剤の副作用とリスクベネフィット評価、G9-特別講義 創薬研究-2 薬害-2、救急-01 「2次・3次救急患者の診察、治療」、症例から学ぶ周術期 管理	G9-特別講義 研究開発に関する授業・薬害被害者の声を直接聞く授業

NO	区分	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
60	私	昭和大学	○	○	地域医療入門、皮膚・運動器系の病態・診断・治療	地域医療入門
61	私	帝京大学	○	×	医療法学・医療倫理学の基礎、薬理学、医療法学・医療倫理学	
62	私	東京医科大学	○	○	薬理学、医療倫理	医療倫理
63	私	東京慈恵会医科大学	○	○	医学総論Ⅱ演習	医学総論Ⅱ演習
64	私	東京女子医科大学	○	○	「至誠と愛」の実践学修、治療の基礎「生体と薬物概論」、「薬害問題（薬害DVDの視聴）」	「至誠と愛」の実践学修 WS：薬害を考える 「看護学部生と考える」
65	私	東邦大学	○	○	全人1「倫理」	全人1「倫理」
66	私	日本大学	○	○	Pre.BSL社会医学（含実習）	Pre.BSL社会医学（含実習）
67	私	日本医科大学	○	○	医事法学、薬理学、呼吸器・感染・腫瘍・乳腺）ユニット①呼吸器、消化器	医事法学
68	私	北里大学	○	○	内科学総論（臨床実習入門）	内科学総論（臨床実習入門）
69	私	聖マリア医科大学	○	検討中	実践医学、薬理学	
70	私	東海大学	○	×	社会医学、臨床病態学1	
71	私	金沢医科大学	検討中	×		
72	私	愛知医科大学	○	検討中	薬理学	
73	私	藤田医科大学	検討中	検討中		
74	私	大阪医科薬科大学	○	○	多職種連携論2-医療と専門職	多職種連携論2-医療と専門職
75	私	関西医科大学	○	○	臨床実習入門P4c	臨床実習入門P4c
76	私	近畿大学	○	検討中	医学からみた現代社会と倫理、薬理学	
77	私	兵庫医科大学	○	○	医療入門、医療安全と薬害	医療安全と薬害
78	私	川崎医科大学	○	○	臨床入門、血液・造血器・リンパ系、皮膚系、呼吸器系、腎・尿路系、神経系、精神系、女性内分泌・妊娠、臨床実習入門	臨床実習入門
79	私	久留米大学	○	検討中	薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ	
80	私	産業医科大学	○	検討中	医療社会学、薬理学、公衆衛生学	
81	私	福岡大学	○	×	公衆衛生学、領域別集中講義Ⅱ（公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント）	

行っている	78	53
検討中	3	15
行っていない	0	13

薬害問題に対する各大学の取組状況（医学部医学科）

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業

大 学 名	①②両方	①に該当する科目名	②に該当する科目名
北海道大学		薬理学Ⅱ、衛生学	
旭川医科大学		人間と行動（法学）、臨床薬剤・薬理・治療学	
弘前大学			
東北大学	○	基礎医学特別講義、外科・麻酔・救急・輸血ブロック、血液・免疫・アレルギー・感染症ブロック、臨床腫瘍ブロック	基礎医学特別講義、外科・麻酔・救急・輸血ブロック
秋田大学	○	生活習慣病と臨床研修	生活習慣病と臨床研修
山形大学			
筑波大学	○	クリニカル・クラークシップ準備学習	クリニカル・クラークシップ準備学習
群馬大学	○	臨床薬理学総論	臨床薬理学総論
千葉大学	○	チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）ユニット、薬理学総論、衛生学	チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）ユニット、薬理学総論、衛生学
東京大学		輸血学実習	
東京医科歯科大学	○	包括医療統合教育	包括医療統合教育
新潟大学	○	統合臨床医学コース（臨床医学入門）	統合臨床医学コース（臨床医学入門）
富山大学	○	医療学入門	医療学入門
金沢大学	○	薬理学、臨床薬理学	臨床薬理学
福井大学	○	大学教育入門セミナー	大学教育入門セミナー
山梨大学	○	臨床薬理学・薬剤学	臨床薬理学・薬剤学
信州大学	○	臨床実習前集中講義	臨床実習前集中講義
岐阜大学	○	医学概論	医学概論
浜松医科大学	○	医学概論Ⅰ、医療法学Ⅰ	医学概論Ⅰ
名古屋大学	○	臨床薬理学	臨床薬理学
三重大学		チュートリアル教育	
滋賀医科大学	○	公衆衛生学、薬物医療学	公衆衛生学
京都大学	○	薬理学、病理学各論、社会・環境・予防医学	薬理学、社会・環境・予防医学
大阪大学			
神戸大学	○	薬理学および臨床薬理学	初期体験臨床実習
鳥取大学	○	医学史、基礎薬理学、治療学	医学史
島根大学	○	臨床薬理学	臨床薬理学
岡山大学	○	脳神経系（臓器・系別統合講義）	脳神経系（臓器・系別統合講義）
広島大学	○	社会医学、社会医学	社会医学、社会医学
山口大学	○	基盤系特別専門講義、臨床薬理学	基盤系特別専門講義、臨床薬理学

大 学 名	①②両方	①に該当する科目名	②に該当する科目名
徳島大学		臨床実習入門	
香川大学	○	医療プロフェッショナリズムの実践	医療プロフェッショナリズムの実践
愛媛大学	○	社会と医療、薬物治療・開発学、薬理学	社会と医療、薬物治療・開発学、薬理学
高知大学	○	臨床薬理学	臨床薬理学
九州大学	○	薬害	薬害
佐賀大学			
長崎大学		感染系	
熊本大学	○	消化器内科学	消化器内科学
大分大学	○	医療倫理学Ⅲ、皮膚	医療倫理学Ⅲ、皮膚
宮崎大学	○	薬剤処方学・東洋医学、薬理学	薬理学
鹿児島大学		地域・総合診療・症候、社会医学・予防医学	
琉球大学		臨床薬理学、皮膚結合組織系	
札幌医科大学	○	社会学、薬理学	社会学、薬理学
福島県立医科大学	○	薬害から学ぶ、医療入門Ⅰ 医療と社会	薬害から学ぶ、医療入門Ⅰ 医療と社会
横浜市立大学		薬理学	
名古屋市立大学	○	医薬看連携地域参加型学習	医薬看連携地域参加型学習
京都府立医科大学	○	薬理学	薬理学
大阪公立大学			
奈良県立医科大学	○	社会福祉と医療法規、薬理学、衛生学・公衆衛生学Ⅱ	社会福祉と医療法規、衛生学・公衆衛生学Ⅱ
和歌山県立医科大学	○	薬害問題	薬害問題
岩手医科大学	○	医療入門、医療と法律	医療入門
東北医科薬科大学	○	薬理学、医療薬学概論、医療安全・医療倫理学、衛生学	薬理学、環境疾病学、ハンディキャップ体験演習
自治医科大学			
獨協医科大学	○	メディカル・プロフェッショナリズムⅠ	メディカル・プロフェッショナリズムⅠ
埼玉医科大学			
国際医療福祉大学	○	医療プロフェッショナリズムⅢ	医療プロフェッショナリズムⅢ
杏林大学	○	生命倫理と医療安全	生命倫理と医療安全
慶應義塾大学	○	薬理学	薬理学
順天堂大学	○	医学研究入門Ⅰ-薬害の歴史と研究開発について、薬理-1:薬の作用、臨床薬理学-5:薬物相互作用、G9-臨床薬理01臨床薬理:主な薬剤の副作用とリスクベネフィット評価、G9-特別講義創薬研究-2薬害-2	薬理-1:薬の作用
昭和大学	○	地域医療入門、皮膚・運動器系の病態・診断・治療	地域医療入門、皮膚・運動器系の病態・診断・治療
帝京大学		医療法学・医療倫理学の基礎、薬理学、医療法学・医療倫理学	

大 学 名	①②両方	①に該当する科目名	②に該当する科目名
東京医科大学	○	薬理学、医療倫理	薬理学、医療倫理
東京慈恵会医科大学	○	医学総論Ⅱ演習	医学総論Ⅱ演習
東京女子医科大学	○	「至誠と愛」の実践学修、治療の基礎「生体と薬物概論」、「薬害問題（薬害DVDの視聴）」	「至誠と愛」の実践学修、治療の基礎「生体と薬物概論」、「薬害問題（薬害DVDの視聴）」
東邦大学	○	全人1「倫理」	全人1「倫理」
日本大学	○	Pre.BSL社会医学（含実習）	Pre.BSL社会医学（含実習）
日本医科大学	○	医事法学、薬理学	医事法学、薬理学
北里大学	○	内科学総論（臨床実習入門）	内科学総論（臨床実習入門）
聖マリアンナ医科大学	○	実践医学、薬理学	実践医学、薬理学
東海大学			
金沢医科大学			
愛知医科大学		薬理学	
藤田医科大学			
大阪医科大学	○	多職種連携論2-医療と専門職	多職種連携論2-医療と専門職
関西医科大学	○	臨床実習入門P4c	臨床実習入門P4c
近畿大学	○	医学からみた現代社会と倫理、薬理学	医学からみた現代社会と倫理
兵庫医科大学	○	医療安全と薬害	医療安全と薬害、医療安全と薬害、医療安全と薬害
川崎医科大学	○	臨床入門、皮膚系、腎・尿路系、女性内分泌・妊娠	臨床入門、血液・造血器・リンパ系
久留米大学		薬理学Ⅰ	
産業医科大学	○	医療社会学、薬理学、公衆衛生学	医療社会学、薬理学、公衆衛生学
福岡大学			

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況 (医学部医学科)

▼実施学部：81学部53学部

大学名	科目名等	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
山形大学	薬害に関する特別講演会	3年次（医学科）、 4年次（看護学科）	未定	未定	被害者の直接の声を聞くことで、安全確保の重要性を強く理解することができる。	今後実施予定のためなし	特になし
筑波大学	クリニカル・クラークシップ準備学習	4年次	本人	薬害スモン	薬害被害者から、直接薬害による苦痛（身体的・精神的・社会的）を聞くことができるので、インパクトが強い。学生が今後このような場面に直面することがあるため、将来医師として、責任意識を強く持つことができる	今後実施予定のためなし	実施なし
群馬大学	臨床薬理学総論	3年次	本人	サリドマイド	薬害が、被害者本人の身体的健康だけでなく、家族関係や社会との関係にも大きく影響することを実感できる。	実体験の話に強い印象を受ける学生が多い。医師としての責務について改めて考える機会になっている。	実施なし
千葉大学	チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）	1年次	本人	サリドマイド	専門職連携教育において薬害が生じていく社会的ダイナミクスを、各職種の（学生の）立場から考察することができる。将来現場で薬害の危険が予測されたとき、専門職としてのふるまい方を考察できる。	薬害が発生するに至った社会的状況、問題となった点、薬害発症による本人や家族への影響などが具体的に理解できた。実際に被害者の方のお話を間近で伺い、医療従事者は常に患者の立場で考えるということの重要性を再確認した。	実施なし
東京医科歯科大学	包括医療統合教育	6年次	本人	薬害一般	患者の立場からの生の声を聞くことができ、理解が一層深まること。	総じて有意義との感想を抱く学生が大変であった。	今後実施を検討中

大学名	科目名等	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
新潟大学	統合臨床医学コース（臨床医学入門）	3年次	本人	血友病薬害	薬物治療には副作用という負の側面が存在し、過去にも薬害という形でたびたび問題となっている。実際に薬害の被害にあわれた患者の声を直接聞くことにより、なぜこのような事態が起きたのか、再発をどうすれば防げるのか、学生自身の医学への取り組みを見つめ直す機会となる。	「何かを勉強するにあたって、実際に現地に赴くことや、当事者の話を聞くことができるのは、一番の勉強であるし、貴重なものでした。薬害被害の事実だけでなく、これからの医療を担う自分たちに向けて、望む医師のあるべき姿を聞けて、大変参考になりました。」「今はまだ臨床の現場にあまり関与していないため、医学の勉強をする上で病気について、文字での情報で知ることはあっても実際に病気にかかっている人の苦悩、さらに薬物被害の被害者となられた患者さんの苦しみを直接知り、また、想像するようなことがありますでした。講師の先生の実体験をもとに話された薬物被害の講義は、今まで考えていなかった薬物被害に遭われた患者さんの感情、不安、差別などを考えるいい機会となりました。本講義を経て、医療行為により患者さんに不利益が生じないためにも医療関連の職種で協力していくことで未然に薬物被害を抑えていく社会となること、また薬物被害に遭われた方々の苦しみを理解し、生きていきやすいより良い社会となることを願うとともに、自分自身でもできることは、たとえ小さなことであってとしてもやっていきたいと思いました。薬物被害に対して、深く考える機会をくれる実体験をもとにした講義をしてくださりありがとうございました。」といった感想があり、学生自身の医学への向き合い方を考え直す良い機会になっている。	実施なし
富山大学	医療学入門	1年次	本人	薬学エイズ	医療倫理の基本的原則を学ぶことができる。1）患者の立場を一般的に理解する態度を養う。無危害原則。2）一歩進んで、患者の悲しみを追体験し、他人の身になって考える態度を養う。善行原則 3）無思想性を脱却し、現代社会に対して、批判的に思考できる態度を培う。自律原則。4）社会正義の視野を培う。正義原則。5）弱者、マイノリティに対する理解。尊厳原則。5）友達の質問を聞いて、自分と同世代の人がいかに考えているかを学ぶ。連帯原則。	肯定的に評価できるものである。課題としてレポートを提出させているが、それぞれ皆、薬害が起こる構造について、おおむね理解している。	初学者のうちに、多面的な角度から薬害について、学び考えることができるのは、これから専門教育を受ける上での礎となることが期待できる。

大学名	科目名等	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
金沢大学	医薬保健学基礎 Ⅰ、Ⅱ	1年次	本人	サリドマイド	学生に医療・薬物療法・副作用など考えるきっかけを与えることに繋がり、学修効果が高まる。	医療者として正しい知識を持つこと、患者の気持ちを理解することの重要性を強く認識できた様子が伺われた。	薬害が繰り返されていること、薬害の種類によって患者が受ける影響の違い、国や医療者の対応の違いに気づき多面的な理解につながっている
	臨床薬理学	3、4年次	家族	イレッサ			
福井大学	大学教育入門セミナー	1年次	本人	サリドマイド	害者の方をお招きして直接話を聞くことにより、薬害の被害の大きさ、薬害の原因、実態、被害者やその家族に対する対応の歴史や偏見、人権問題等について具体的に知ることができ、医療従事者として薬害問題にどう向き合うか、考察する機会を得られる。	「今回の講義で実際に薬害を受けた当事者の方のお話を聞くことができ、自分の感情や価値観が大きく揺さぶられました。患者に寄り添う医療とは何なのかを考えさせられました。」、「今回初めて薬害にあった方の話を聞き、これまで乗り越えてきた苦労の数々のことを思うと、涙を抑えきれなかった。どれほど大変な思いをしてきたか、実際にはわからないが、想像するだけでも胸が痛くなる。今、自分に健康な体があることに感謝し、病気を抱えていたり障害のある方のサポートをしたいと強く思うようになった。」、「サリドマイド薬害が起こった背景や、そもそも薬害が起こる理由について知れて良かった。」等、被害者への思いや今後の医療のあり方、薬害への理解について率直な感想が多く寄せられた。	実施なし
山梨大学	倫理学・プロ フェッショナルリ ズム	3年次	本人	HIV	当事者の声を聴くことにより、薬害及びそれに伴う差別・偏見等についてより理解を深めることができる。	当事者の声を聴くことにより、薬害について関心を持つことができた。また、当時の医師の対応や、被害者の家族の状況等を知り、どのような医療者を目指すのか考える機会となったなど。	実施なし
信州大学	臨床実習前集中講 義	4年次	本人	C型肝炎	・二度と同じ過ちを繰り返さないために、医学生が単なる過去の出来事（他人事）として捉えるのではなく、どうして被害が出てしまったのか、どうすれば防げたのか、そこに自分がいたら何ができただろうか等を自分事として捉えることができる良い機会であること。 ・被害者から直接話を聞くことによって被害者の痛みや苦しみ、思いを知ることができ、二度とこのような被害者を出さないためにどのように医療に向き合っていくのかを考える良い機会であること。	現時点では未実施のため、回答不可。	現時点では未実施のため、回答不可。

大学名	科目名等	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
岐阜大学	医学概論	1 年次	本人	市販薬の薬害／サリドマイド	薬害の歴史や製薬会社、行政等の対応、社会的偏見や被害者の心情等に関する理解を深めることができる。 学生の医療に対する真摯な気持ちを喚起することができる。 医療従事者として、患者との関係や心構えを学ぶことができる。	今年度はまだ実施していないため、以下は昨年度の学生からの反応・感想を記載する。 ・薬害被害にあった方は、元々健康であっただけでなく、持病があった方もいて、より危険な状態になってしまうため、あってはならないと学んだ。 ・講義の中での体験談は薬害被害者であり、実際に感染していたわけではないため、医療従事者の未知のウイルスへのせざるを得ない対応と、受ける必要のなかった差別的ともとれる対応を受けた被害者の間では、割り切りがたい気持ちの違いがあるように感じた。	これまで、様々な薬害被害が繰り返されてきたこと、将来医療従事者となる学生に対し、将来の現場でこのような惨禍を起こさない心構えを学ばせることができる。
浜松医科大学	医学概論 I	1 年次	本人	HIV	薬害被害者の声を直接聞くことによって、医師となるうえでの心構えを学ぶ機会となった。実際に受けた差別や偏見がどのようなものか実感できた。	・私たちが目指す医療者は、このような歴史を振り返り、そこでの教訓を忘れないこと、薬について正しい知識をもち、患者に薬について十分な説明をしたうえで、患者が自分の治療を自由に選択できるような関わり・支援を大切にすることが必要であると思いました。 ・医療従事者として、薬剤について患者さんに適切な知識を提供する役割をしっかりと果たさなければならなと感じた。 ・ずっと病気とともに生きていかないといけない人は、治療も続けており、その副作用によって体調が悪かったりするので、医師として身体的にも精神的にも支えられるように勉強していきたいと思った。	今年は、HIV薬害であり、今まではワクチンや肝炎についても被害者をお招きしてお話を聞いてきた。一度に多くの方からお話を聞く機会はあまりなく、いろいろな被害があることを認識するためには効果的かもしれない。
名古屋大学	臨床薬理学	4 年次	本人	薬害肝炎	被害者の声を直接聞く授業はインパクトがあり、将来の医薬品適正使用の推進や薬害防止に有効である。	感想文を提出させているが、大半の学生が薬害の怖さを実感しており、薬害防止について真剣に考える良い機会となっている。	薬害肝炎以外の薬害については、担当教員が各薬害の概要を講義している。薬害被害者による講義と連続して実施することにより、薬害防止の重要性の認識が高くなっている。

大学名	科目名等	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
滋賀医科大学	医学概論Ⅱ	1年次	本人	血友病患者への血液製剤による薬害	医学部医学科入学初年次の学生は、血友病、血液製剤や薬害エイズといった単語について、新聞、テレビ等の報道によりキーワード的な知識としては知っているが、それらがどのような病気なのか、どのように感染するのか、日常生活を送るうえでどのような支障があるのか、社会の人々はどのように受け入れているのか等、深く掘り下げて知識を得る機会が少ない。しかしながら、実際の薬害被害者の生の声による特別講義を実施することで、学生の薬害被害の問題について自ら考える機会を得ることができ、将来医師として医療に携わることを想定すると有意義である。	例年、後期に当該特別講義を実施するため、令和6年度は未実施であるが、参考までに令和5年度までの講義実施後の学生へのアンケートにおいては、「医療人を目指すものとしての自覚が深まった。」、「被害者の方への意識を持つことの重要性を認識できた。」、「薬害問題についてさらに深く知ろうという意識が芽生えた。」等、真摯な姿勢による感想が多く、本学としては、当該特別講義の実施が学生にとって極めて有意義なものであったと理解している。	実施なし
京都大学	初年次プログラム（特別講義）「サリドマイド薬禍から学ぶ」	1年次	本人	サリドマイド	被害者本人が薬害によって強いられた自分や家族の人生・生活について直接話を聞くことにより、学生には、医療行為がもたらす可能性のある被害について、心に刻む機会になると思われる。	学生たちは真剣な態度で被害者の話に耳を傾けていた。学生からは、薬害の悲惨さを聴き、薬害は人災であり、医療従事者となる責任を喚起されたとの感想が多く見られた。また多くの学生が、この授業が有意義であったと評価している。	実施なし
神戸大学	初期体験臨床実習	1年次	本人	サリドマイド	医療行為の危険性を教えることによって患者中心の医療について学び、医師として医療に取り組む心構えを認識するとともに専門科目を学ぶための動機付けとする。	サリドマイドのような薬害事件は知識や対策が不十分だった過去の過ちという認識だったが、新しい薬や治療法が生み出されている現在において、いつ起こってもおかしくない身近なものだと分かった。	実施なし
島根大学	臨床薬理学	3年次	本人	HIV薬害訴訟	薬害という名前は知っていても実際の内容を知らない学生が多いので、実際の薬害を少しでも理解できるようになる、医学生が薬の怖さについて実感できる、将来の医療従事者としての自覚が持てる、等。	薬害について「初めて実情を知った」、「薬害を軽く考えていた、認識が改まった」、「被害者の方たちの気持ちや立場がよくわかった」、「薬害を決して繰り返してはならない」、「行政の犯した罪の重さ」、等々、これまで学生さんの意識の高さと純真さがあふれる感想が多かった。	実施なし
岡山大学	脳神経系（臓器・系別統合講義）	4年次	本人	スモン	将来、医師として薬を処方する立場となる学生に対し、薬害の影響の大きさをリアルに感じさせることができる。どのように患者さんと向き合っていくべきかを考えるきっかけとなる。	講義中は患者さんの声を真剣に聞いており、医師としての責任を考えるきっかけとなったようにうかがえる。	実施なし

大学名	科目名等	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
広島大学	社会医学	3年次	本人	薬害HIV感染、血液製剤によるC型肝炎ウイルス感染、輸血による感染、など	学生が医療の被害者となった患者の声を直接聞くことができ、より身近な問題として考えることができる。	自分が将来医者になった時を想定して、興味を持って聞いているように思う。	フィブリノーゲン、サリドマイド、肝炎など、複数の薬害の講義を行っており、学生にとってより多角的に考えることができる。
山口大学	基盤系特別専門講義	3年次	本人	サリドマイド	薬害の歴史を具体的に知ることができ、学生にとってよい考える機会となっている。	学生からは薬害の被害について真摯に受け止め、医療人として正しい知識を身につけて被害を減らしていきたいという積極的な意見が多くみられた。	毎年、異なる薬害被害のご本人にご講義を頂いており、学生は、講師の方との質疑応答も含め、ご当事者の思いを傾聴する姿勢や薬剤のさまざまな作用、さらに薬害に係る国の救済制度等への認識を深めている。
徳島大学	臨床実習入門	4年次	本人	B型肝炎	薬害被害者の方から直接話を聞くことによって、薬害の実態やその背景についてより深く考えることができる。	「医師として働く上で、ガイドラインばかりでなく、実際に目の前にいる患者に目を向けて、話を聞くことの重要性を改めて感じた。」「医師や医療従事者の責任、説明をしっかりとすることや気遣いといったささいなことが、患者にとっては治療に向き合う大きな力になるのだと思いました。」など医療人としての自覚が高まった。	実施なし
香川大学	薬害被害者の声を聴く特別講義	5、6年次	本人	HIV	薬害被害者本人の声を直接聞くことは、教科書的な講義とは異なるインパクトを与えることができる。また、近い将来医師となった際の責任の重大さ、患者との関わり方などを改めて考えさせる貴重な機会となる。	薬害当事者の方の薬害HIVに対する詳細な調査を、当時の時代背景と併せて学習することで大変勉強になった。現代医療に必要な視点が多数含まれた講義であり、5、6年次ではなくより早い段階に聴いておきたいと感じた。	5年次と6年次において、事例の異なる薬害の特別講義を受講することにより、より理解が深まるとともに、繰り返し聞かせることで薬害防止への意識を高めることができる。
愛媛大学	社会と医療	3年次	本人	予防ワクチンによるB型肝炎	薬害肝炎、B型肝炎感染者の生の声を聞くことで、その実態を具体的に把握してもらう良い機会となった。また、感染当時に医師より言われた一言に傷ついた体験、また精神的に救われた医師の一言、肝細胞がんの治療での様々な社会的負担、などの体験を語っていただき、将来医師になる学生にとって、実際の診療において患者さんの気持ちを考える必要性について理解する良い機会となる。	授業終了後に学生にアンケートを実施し、「今まで患者さんの声を直に聞く機会が無かったので、良かった」、「将来医師を目指す人間として、貴重な経験になった」などの感想が寄せられ、反響の大きさを感じた。	C型肝炎の血液製剤など、薬そのものの健康被害の他、B型肝炎のように薬は問題なくとも投与方法などによる集団感染など、様々な薬害があることを知ること、薬害に配慮することと対応することの複雑さを理解できる。
九州大学	薬害	4年次	本人・家族	薬害エイズ、サリドマイド、薬害ヤコブ病、薬害C型肝炎	被害者本人ならびにご家族の生の声、苦しみ、実際に受けた差別の話等を伺うことによって、薬害の真の意味での重大さを学べること。	被害者の声を聞くことができてよかったという声が多い。	それぞれの状況で対応の違い等も認められ、見識をより深めることができる。

大学名	科目名等	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
佐賀大学	医療入門Ⅰ	1年次	本人	サリドマイド	広い視野からの「薬」や「医療」に関する認識を深めることができたとともに薬害被害の現状に接することができた	薬害については、これまで講義を受ける機会があまりなかったため、実際に被害に遭った方にご自身の体験も含めて詳しくお話を聴かせていただいたことは、とても勉強になった。今後医師として多くの患者さんとコミュニケーションする上では、相手の立場に立って物事を考え、言葉を選んで思いを伝えていくことを心がけたい。	実施なし
長崎大学	医と社会Ⅲ	3年次	本人	サリドマイド	医療職ではない立場の人から見た場合の哲学・倫理・社会観から提訴される問題について、学生が考えることができる。	講義後に学生から講師（サリドマイド薬害の被害者）に個別質問や詳細のお話を伺うなどしており、学生に薬害をより身近に考える機会として機能を果たしていると考えられる。	実施なし
熊本大学	消化器内科学	3年次	本人	B型肝炎	B型肝炎患者さんの実際の体験談を聞くことができ、患者さんの苦労や社会に存在する差別などを学生にも伝えることができる。	B型肝炎患者さんの苦悩や努力を知ることができた。法律に基づいたB型肝炎訴訟について知ることができた。社会に存在する差別について知ることができ、今後の対応が重要なことがわかった。	薬害という言葉が適切かどうかはわからないが、それぞれ異なる社会背景があるかと思うので、正確に伝える必要がある。すなわち、当時のメリットとデメリットがあった点は重要である。
大分大学	医療倫理学Ⅲ	2年次	本人	大腿四頭筋短縮症	直接被害者の語りを聞くことで、生活、人生に及ぼす影響の大きさを学生が実感できる。	薬害への理解が深まったとする感想が多い。	実施なし
札幌医科大学	医学概論・医療総論4	4年次	本人	サリドマイド	薬害被害者の生の声を聴き、副作用被害の結果としての身体的特徴を目の当たりにすることにより、薬害の深刻さが直接学生に伝わる。 また、講師は、サリドマイド以外の薬害の歴史や薬事政策の変遷についても詳しく、薬害に関する基礎から実際の被害まで体系的な知識を得る貴重な機会となっている。	学生は初めて見る薬害被害者の姿に衝撃を受けている。 また、薬害は二度と起こしてはならないという自覚を得る格好の機会となっている。	複数の薬害を取り上げることで、薬害を引き起こす製薬過程、薬事行政過程に潜む原因・問題点に視点を掘り下げた考察をすることができる。

大学名	科目名等	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
福島県立医科大学	医療入門Ⅰ 医療と社会	4年次	本人・家族	薬害エイズ	薬害被害者とその家族のお話を直接伺うことにより、受講生に薬害被害の実態について理解を深めてもらえること。 医師として、薬害被害をうけた患者にどのように向き合うのかを考えさせる授業をしていただけること。 医療者として最新の情報を収集し、的確な判断を下したことで薬害を未然に防いだ医師が存在したことを知ることが出来る。	「医療を行う者は、常に論文や最新の知見を取り入れて医療を提供すべきであると感じた」、「無知、正しい知識を持っていないことが差別や偏見を生むのだということを学び、将来医療従事者になる者として、正しい知識をしっかりと身につけるよう努力したいと思った」、「薬害や医療過誤などに直面した時に、目の前の患者さんに背を向けるのではなく、共に歩んでいく覚悟を持てる医師になろうと思う」、「薬害被害者の方にとって、家族の献身的なサポートが大切であることを実感したので、患者も家族も支えられるような人間的な医師でありたいと思う」、「講義を聴いている中で、いろいろな思いがこみ上げてきて、涙が出そうになりました。憤りであったり、無力感であったり、悔しさであったり、これから先の責任の大きさがのしかかってきたりと本当に様々な思いでした。今日のお話を胸に刻んで、私は医師として正しく生きていきたいです」といった感想があった。	実施なし
名古屋市立大学	医薬看連携地域参加型学習	1年次	本人	薬害エイズ	毎年同じ方に来ていただいております、とても有意義な講演をしていただいている。	真摯に聞いており、質問も活発に出ていた。	実施なし
奈良県立医科大学	VOP講座	2年次	家族	陣痛促進剤	ご家族の話・意見を聞いて、患者家族側の視点を学ぶことができる。医師の適切な対応の仕方を学ぶことができる。	患者の声を直接聞くことで医師としての対応の仕方等通常の授業だけでは得られない医療人として大切なことを学ぶことができたという反応が多い。	実施なし
和歌山県立医科大学	薬害問題	6年次	家族	陣痛促進剤	・過去の薬害について、患者の視点に立った授業を展開することができた。 ・よりよい医療者となるための動機付けの一助となった。 ・患者と向き合うにあたって、医師と患者間のコミュニケーションが重要であることを示唆することができた。 ・座学とは異なった視点で考える機会を得ることができた。	・医療安全の重要性を再認識できた。 ・患者のことを第一に考えて、寄り添う医療を目指したい。 ・患者の視点に立った授業は新鮮であった。 ・患者にしっかり説明して、医療を行っていきたい。 ・医療者は正しい知識を患者に提供した上で、患者が選択した治療を施行することが大事である。 ・薬害のことを知らないと、加害者になるだけでなく、被害者にもなりうる。 ・医療者が薬について、よく理解することが、薬害の防止につながる。 ・どんな時も患者のことを第一に考えて、治療を行う医師になりたい。 ・医師、医療者として持つべき学問的良心・職業的良心について教えていただき、勉強になった。 ・薬は使う人の使い方次第で変わるということがわかった。	薬害の授業を実施することにより、薬害はそれぞれの時代的背景や課題・問題点などが異なるため、しっかりとした説明が必要となるが、よりよき医療人となるための礎とすることができる。

大学名	科目名等	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
岩手医科大学	全人的医療基礎講義	1年次	本人	薬害エイズ	薬害エイズの被害者の実体験を直接聞くことができる。	未成年者として初の日本人HIV感染者として実名を公表し、実際に活動をされている方の生の声を聴くことによって、学生もより身近に薬害を考えることができたとの意見が多かった。 また、将来、自分たちが担う医療人として、医療とその周辺にある諸問題への関わり方について考える契機として意味のある講義であるとの意見が多い。	実施なし
東北医科薬科大学	医療薬学概論	3年次	家族	MMRワクチン	学生が被害者から直接話を聞けるので、熱心に話に耳を傾けてくれる。目の前にご本人がいるので、自分も当事者になる可能性を実感できる。テキストや資料では伝わらないリアリティを学生に感じてもらうことができ、直接心に響く教育が可能である。	学生の感想の多くが、薬害の被害の重大さ、副作用（副反応）との違いを認識したようで、自身の将来の姿勢に言及し、襟を正すものが多かった。	薬害が多様あり、予期せず発生することが多く、対応を誤ると重大な結果を招くこと、その中で医師が果たす役割の重要性（一歩間違えると加害者となること）を認識でき効果的ではないか。
	ハンディキャップ体験演習	1年次	本人	サリドマイド			
獨協医科大学	メディカル・プロフェッショナリズムⅠ	1年次	本人	サリドマイド	実体験に基づく講義により、学生が将来のあるべき医師像へ反映できる機会となる。	薬害を知らなかった学生が、問題に向き合うことで自身の将来の医師像を考えるきっかけとなった。	実施なし
埼玉医科大学	ヒトの病気コース 消化器ユニット	3年次	本人	未定	薬害訴訟の経緯等を、患者さん自らお話くださることで、薬害が身近な問題であることを理解できる。	薬害について、身近な問題として理解することができた。	実施なし
国際医療福祉大学	医療プロフェッショナリズムⅢ	3年次	家族	陣痛促進薬（子宮収縮薬）	実際に体験し、お子さんを失った方からのお話を聞くことで、現実感を持って理解できる。琴線に触れるお話をいただいています。	毎年講師への手紙を書かせていますが、非常に学びの深いものになっています。この事実を共有いただいたことへの感謝、被害者への共感ももちろんのこと、自分たち将来医師になる立場として改めて戒める、勉強に励む、ことを伝える内容となっています。	講師からほかの薬害についても触れてお話されていますので、知識としては学んでおります。
杏林大学	生命倫理と医療安全	1年次	本人	薬害HIV感染	薬害被害者の持っていきようのない怒り・悔しさや悲しみの声を直に聞くことで、薬禍および反医療行為の重大性を学生に実感してもらえる。過去の薬害事件の教訓が、社会の仕組みや薬事制度を改善してきた現状を考えるよい機会となる。	薬害被害者の方から直接、話を聞くことができ、今まで学校で教科書だけの学びでは感じる事ができなかった深刻さやリアリティを学ぶことができている様子です。また、今後同様なことが起きないように、勉学に励む意気込みが一層強くなった印象があります。	実施なし

大学名	科目名等	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
順天堂大学	G9-特別講義 研究開発に関する 授業・薬害被害者 の声を直接聞く授 業	4年次	本人	薬害エイズ	被害者から直接その体験と当時の社会情 勢を聞くことにより、過去の出来事では なく、将来の医師、医学研究者として常 に意識しておくべきものであることを理 解する貴重な機会になったと思われる。	・薬害は過去のことであって自分にはあまり関係ない と思っていた考えが変わった。薬害の恐れがあるかも しれないということを常に念頭に置こうと思った。 ・医療者として、医薬品が完全ではないことを認識し ながら、慎重に治療にあたる重要性を改めて感じた。 ・歴史の一部として聞く薬害の話とは重みが全く違い ました。薬害の被害は健康被害だけではなく、差別や 偏見にまで及ぶということはわかっていたようで理解 はできていなかったと感じます。 など、学生にとって極めて有意義なものであったと考 えられる。	実施なし
昭和大学	地域医療入門	1年次	家族	イレッサ	薬害被害者遺族の話聞くことで、医薬 品適正使用の重要性や、医療従事者の責 任を深く考える貴重な機会となっている。	「医薬品は病を治すという点がかなりの印象を占めて いる一方で副作用といったデメリットとももっと向き 合っていかなければならないと改めて思った。さら に、医薬品の開発が進められていく中で健康被害が生 じないかという点をより重要視したうえで医薬品の開 発研究を進めていくべきであると感じた。」	実施なし
東京医科大学	医療倫理	3年次	本人	薬害エイズ	被害者側の心情やその後の経緯にも具体 的に触れていただくことで、学生たちが 薬害というものを一過的な「事件」とし てではなく、いまもつづく継続性を持っ た「問題」として捉えることができてい るように感じる。	講義で十分に触れられなかった事象を自ら調べ、感想 やコメントに記載している学生も見られる。また、授 業内容から薬害防止における医師の役割を考える学生 も多い。	実施なし
東京慈恵会医科大学	医学総論Ⅱ演習	2年次	本人	薬害肝炎	医原性疾患、医師の治療で薬害が発生す ることを知ること、およびC型肝炎が長 期にわたって患者の生活に大きな影響を 与えることが実感できる。	実際に薬害肝炎の被害を受けた患者さんのお話を聞 き、将来医療者として働く際は少しでも疑問に思った ことがあったらそのままにしておかないことを心がけ ようと感じた。 薬害について詳しく知らなかったが、患者さんの病氣 を治すための薬が、患者さんの一生を望ましくない方 向に変えてしまうこともあると気付かされた。	実施なし

大学名	科目名等	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
東京女子医科大学	「至誠と愛」の実践学修 WS：薬害を考える「看護学部生と考える」	3年次	家族	イレッサ薬害	当該授業は薬害被害者の家族を交え、多職種でのワークショップ形式を取り入れている。薬害を二度と繰り返さないためには自らが医療従事者としてどのようにすればよいのか、患者や家族との信頼関係をどのように築いていくのかなどについて医学生、薬学生がともに考えることを目的としている。薬害被害者の家族の話を通じて、同様の背景にある患者の治療に関わるというシチュエーションを設定しており、医療現場においてどのようにすべきかを自発的に考える中で、被害者家族の声があるからこそと思える意見が多く出されており、自らの医療人としての使命を強く意識させることができた。	「実際に被害に遭われた方のご遺族のお話を聞き、薬に対しての知識は少しでも多く知っておく必要があると思いました。なぜなら、周りがもっと知識を持っていれば、危険を最小限にできるからです。本人はもちろん、周りの家族も苦しかったんだと感じました。お話を聞き、2度と同じような苦しみを出してはいけなかったと思います。これから医療従事者として医療に関わる者として、今回の学びを忘れないようにしたいです。」「座学で薬害の事象などは学んでいましたが、実際に被害に遭われた方のご家族からお話を聞くことで、より強く、薬害被害は起こしてはならないと思いました。被害に遭われた患者さんはもう亡くなってしまわれましたが、その方のために私たちができることは今後の医療でこういった薬害の被害に遭う患者さんを少しでも減らすことだと思います。看護師、薬剤師、そのほかの医療従事者との連携を大事にし、患者さんの家族とも信頼関係を築いてどんな小さなことでも話をしやすい環境を作る姿勢も必要だと思いました。患者とその家族に寄り添い、患者さんのことを1番に考えた医療を提供できる医師になればいけない、と、本当に強く思いました。」といった感想があった。	実施なし
東邦大学	全人1「倫理」	1年次	依頼団体 ・薬害肝炎全国原告団（C型肝炎） ・全国B型肝炎訴訟原告団・弁護団 ・はばたき福土事業団相談員 東京HIV訴訟原告団	・B型肝炎 ・C型肝炎 ・薬害HIV	学生が直接被害者の方からお話を伺うことで、薬害の問題を他人事ではなく、医師を目指す自分に関係するものだとして理解できる。また、薬害の問題を学ぶことは、患者-医療者関係を考えるきっかけとなり、医療者として正しい知識と態度を身につけることの重要性を改めて認識する。	「7回行ったインターフェロン治療の壮絶さに非常に驚きました。ひどい副作用の症状を聞いてこれを毎日行うなどとても考えられませんでした。たった1回、有害な薬を投与されただけで人生を大きく変えてしまう薬害は恐ろしく、非常に理不尽であると思います。治療の過程で、同じC型肝炎の患者さんとの交流や、主治医の方とのコミュニケーションが支えになったと聞いて、医師自身が積極的に同じ病気をもち患者さんとの交流の紹介を行ったり、話しやすい雰囲気作りをしてコミュニケーションを取ることで患者さんの不安を無くしていくことが大切であると考えさせられました。また、C型肝炎に対する偏見や差別をなくしていくことも、非医療者の方々にも正しい知識を広げていくことが重要であると感じました。直接患者さんからこうしてお話を伺うことは中々ないと思うので、大変貴重な体験になりました。」	一口に薬害と言っても、その経緯や被害の実態はそれぞれ異なる。学生は複数の薬害について学ぶことで、この問題を多面的に捉えることができる。

大学名	科目名等	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
東邦大学	全人1「倫理」	1 年次	依頼団体 ・薬害肝炎 全国原告団 （C型肝炎） ・全国B型肝炎訴訟原告団・弁護団 ・はばたき 福土事業団 相談員 東京HIV訴訟原告団	・B型肝炎 ・C型肝炎 ・薬害HIV	学生が直接被害者の方からお話を伺うことで、薬害の問題を他人事でなく、医師を目指す自分に関係するものだ理解できる。また、薬害の問題を学ぶことは、患者-医療者関係を考えるきっかけとなり、医療者として正しい知識と態度を身につけることの重要性を改めて認識する。	「私は医学部に通っているにも関わらず、薬害とはなんだろうと考えたとき、はっきりとはよくわかりませんでした。なので、今回の機会を通して薬害とは何かを知ることができて良かったです。出産したときに、フィブリノゲンを投与したというだけでこんなにも人生が変化してしまうという事実にとっても驚きました。それが自然発生のような病気であればまだ理解することができても、薬害のような人為的なミスの場合は本当に辛いだろうなと思いました。自分が医師になった際には、薬害で苦しむ患者さんがいないように、様々なことに疑問を持ちながら、仕事をしたいと思いました。また、感染症であるとはやりうつるのではないかななどの偏見や差別がまだいまだに、存在してることを知りました。これらの偏見や差別は周囲のその病気に対する理解が足りていないため起こるので、もっとこの病気に対する理解を広めていくことが大切だなと思いました。薬害の発生を防ぐには、国、製薬会社、医療従事者、国民が、お互いに、薬の副作用や安全性に関する情報を共有し、それぞれが役割を果たすことが重要だと聞き、それぞれが努力することが大切だと感じました。」「私は歴史的な事実としてHIVの薬害事件があったということしか知りませんでした。しかし、実際に薬害被害を受けた方のお話を聞き、被害を受けた方の想像を絶するような苦しみや危険な薬品を使用させてしまった製薬会社・行政・医療機関の責任について深く考えさせられました。また、薬害HIVの被害を受けた方々が健康面だけでなくその他にも多くの苦しみを抱えていらしかったことを知り、このような事件を二度と起こしてはいけないと思いました。また、当時被害を受けた方々が一致団結し、無責任な企業や医療に対して怒りの声をあげたことは、将来同じような薬害で苦しむ人をなくすために大きな働きかけをしたことを知りました。これは当事者ではない私の推測でしかありませんが、自身が薬害エイズ事件の被害者であることを公表することには苦難が多くあられたと思います。しかし、当事者の方々の言葉の重みはとても深く、私の医療に対する意識を大きく変えてくださいました。私は今回のお話を聞き、医療従事者として自分が一人一人の患者さんの将来に責任をもっていることを忘れないようにしようと思います。	一口に薬害と言っても、その経緯や被害の実態はそれぞれ異なる。学生は複数の薬害について学ぶことで、この問題を多面的に捉えることができる。

大学名	科目名等	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
東邦大学	全人1「倫理」	1 年次	依頼団体 ・薬害肝炎 全国原告団 （C型肝炎） ・全国B型 肝炎訴訟原告団・弁護団 ・はばたき 福土事業団 相談員 東京HIV訴訟原告団	・B型肝炎 ・C型肝炎 ・薬害HIV	学生が直接被害者の方からお話を伺うことで、薬害の問題を他人事ではなく、医師を目指す自分に関係するものだ理解できる。また、薬害の問題を学ぶことは、患者-医療者関係を考えるきっかけとなり、医療者として正しい知識と態度を身につけることの重要性を改めて認識する。	患者さんの病気に対して淡々と既存の治療を行うのではなく、治療の意義について深く勉強し、治療法に疑問を感じた時にはこれは違うと声をあげられる医師になろうと思います。これは、苦しむ人を1人でも多く助け、また苦しむ人を自らの失態で増やしてはならないという医師としての義務を全うすることだと思います。そのために自分が将来救うだろう患者さんのことを思いながら今後も勉学に励んでいこうと思います。」「今回、講演をお聞きし、さらに事前学習や学生討論を通して過去に起きた薬害HIVを知ることができました。また、薬害HIVなどの薬害の被害者に対して私たちは何ができるのかを深く考える機会になりました。薬害HIVでは、被害者は健康被害だけでなく偏見や差別にも大変苦しまれてきたということを知りました。薬害HIVの被害者は様々な健康被害を受け、30年以上経った現在でも合併症に苦しんでいる人がいるという事実には衝撃を受けました。さらに、薬害の被害者が偏見によって危険な加害者と社会に認識されてしまったという過去には胸を衝かれました。このような偏見、差別はき疾患に対する恐怖から生まれるものだと思います。偏見、差別をなくすには社会がそうした疾患に対して正しい理解をすることが必要不可欠だと考えます。そのためには、今回の発表会で学んだように、医師や薬剤師などの医療従事者間だけでなく、教育分野との連携をはかり、社会が正しい知識を得る機会をつくることが大事になります。このような考えは1人で調べ、考えるだけでは決して思い付かなかったと思います。」	一口に薬害と言っても、その経緯や被害の実態はそれぞれ異なる。学生は複数の薬害について学ぶことで、この問題を多面的に捉えることができる。
日本大学	Pre.BSL社会医学（含実習）	4 年次	本人	サリドマイド	薬害当事者の実体通じて、単なる副反応による被害ではないことを強調されている。	教科書で学んだ薬害の被害を現実のものとしてとらえている。	薬害は繰り返し起こることが理解できる。
日本医科大学	医事法学	2 年次	本人	サリドマイド	書籍やDVD視聴だけでは把握が困難な、薬害被害の実情や被害者の苦しさ等について理解を深めることができることがメリットとして挙げられる。	当該授業に係わるレポートには、前述のメリット（薬害の実情や被害者の苦しさの理解促進）を伺わせる学生の感想の記載が多く散見されている。	実施なし

大学名	科目名等	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
北里大学	内科学総論（臨床実習入門）	4年次	本人	サリドマイド	薬害被害の当事者から直接お話を聞くことができる。その人自身が、何を考え、どう思っているかを知ることができる。	・他人から聞いたり動画で聞くのと実際に経験した方からの話は重みが違った。「生きる」力強さを感じた。何が患者さんのためになるのか、自分には何ができるのか、何が正しくて何がそうでないのかをよく考えてこうどうする必要があると思った。 ・長く生きられないと言われ、立つことすらまんなかった状態から成長し、家族と再会し、自立されていた増山さんの体験談から人間の力強さというものを感しました。病気だけでなく、それによって受ける社会的不利益や生きることの困難さを実体験に基づいてお話いただき、薬害という問題について勉強させていただきました。感謝致します。 ・これからも実際に薬害は起こりうるものとして、審査基準が厳しくなっているとはいえ新薬などは疑ってかかる必要があると感じた。	実施なし
大阪医科薬科大学	多職種連携論2-医療と専門職	2年次	家族	B型肝炎	医学部、薬学部、看護学部の学生が聴講する3学部合同の授業であり、医師、薬剤師、看護師を目指す学生が患者さまから診断時、治療時などの思いを伺い、そのような経過の中で各専門職の役割と連携の在り方を考えることができる。	ご遺族の方の話を聞いて涙が止まりませんでした。国が安全性よりも経済を重視したことによって、注射器の使い回しで苦しみ亡くなってしまった人がたくさんいらっしゃることを知り、二度とこのようなことを繰り返してはならないと思いました。	実施なし
関西医科大学	臨床実習入門P4c	4年次	本人	サリドマイド	過去の被害、事実を学ぶことで学生への薬害の啓発になり、将来、医師になったときに同様の事例を繰り返さないという意識を持たせることができる。	学生により反応は様々であるが、真摯に被害者の言葉を受け止めようとする学生が多く見られる。	「薬害」にも様々な種類があり、それぞれがたどった経緯などを広く知ることができる。
兵庫医科大学	医療安全と薬害	4年次	本人	肝炎	薬害の存在を知り、薬を処方する責任、薬害発生後の医師の行動を考えることができる。	・はじめてその存在を知り驚いた。 ・国、企業、医師の姿勢に問題があると思った。 ・被害者の方のお人柄に感動した（これまでは偏見があった）	次のような多彩な角度から考えることができる。・陣痛促進剤（患者さんが我が子を殺すことになる残酷さ）・スモン（患者さん自身が障害を持つ）・サリドマイド（服用した母親だけでなく、生まれてくる子供に障害）・肝炎（患者さん自身が障害を持つ）
	医療安全と薬害	4年次	本人	スモン			
	医療安全と薬害	4年次	家族	陣痛促進剤			
	医療安全と薬害	4年次	本人	サリドマイド			
川崎医科大学	臨床実習入門	4年次	本人	HIV	臨床実習開始前に患者さんの声を聞くことで医師としての心構えを持つことができる。	今年度未実施のため学生の反応は確認できていない。	実施なし

薬害問題に対する各大学の取組状況（歯学部歯学科）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

NO	区分	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	国	北海道大学	○	○	薬理学・歯科薬理学Ⅰ・Ⅱ、口腔診断内科学、臨床講義Ⅰ、臨床講義Ⅱ、内科学、フロンティア発展科目（予定）	フロンティア発展科目（予定）
2	国	東北大学	○	○	くすりの科学、社会歯科学、医の倫理・社会の倫理	医の倫理・社会の倫理
3	国	東京医科歯科大学	○	検討中	生体と薬物（薬理学概説（薬理Ⅰ））、包括臨床実習（PhaseⅡ）、包括医療統合教育	
4	国	新潟大学	○	検討中	微生物学Ⅰ、微生物学Ⅱ、薬理学、早期臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅰ	
5	国	大阪大学	○	○	総合歯科学	総合歯科学
6	国	岡山大学	○	検討中	薬理学総論	
7	国	広島大学	○	○	医療倫理学、歯科薬理学Ⅰ	医療倫理学
8	国	徳島大学	○	○	社会と歯科医療	新入生オリエンテーション
9	国	九州大学	○	○	医療系統合教育科目「薬害」	医療系統合教育科目「薬害」
10	国	長崎大学	○	○	薬理学及び同実習	医哲学、医療倫理
11	国	鹿児島大学	○	検討中	歯科医療倫理学、歯科薬理学Ⅰ、薬理学・歯科薬理学Ⅱ、微生物学Ⅱ	
12	公	九州歯科大学	○	○	歯学概論Ⅱ、薬理学・歯科薬理学Ⅰ、薬理学・歯科薬理学Ⅱ、薬理学・歯科薬理学Ⅲ、社会歯科学Ⅲ	歯学概論Ⅱ
13	私	北海道医療大学	○	○	医薬品の科学	特別講義（薬の有害性を知る）【「医薬品の科学」関連】
14	私	岩手医科大学	○	○	歯科医学概論、医療と法律	歯科医学概論
15	私	奥羽大学	○	○	歯科薬理学Ⅰ、小児歯科学	総合演習ⅠD
16	私	明海大学	○	○	公衆歯科衛生学（衛生学含む）、医療倫理、薬理学、感染免疫制御学	医療倫理
17	私	東京歯科大学	○	×	微生物学、衛生学、薬理学、社会歯科学、内科学、病院実習	
18	私	昭和大学	○	○	地域医療入門、生体と薬物（薬理総論）	地域医療入門
19	私	日本大学	○	検討中	生体機能制御学、薬物療法学、歯科学統合演習Ⅵ	
20	私	日本大学（松戸）	○	検討中	医療行動科学Ⅰ、薬理学Ⅰ	
21	私	日本歯科大学	○	検討中	薬理学、薬理学、薬理学	
22	私	日本歯科大学（新潟）	○	×	歯科薬剤学、臨床実習、地域口腔保健学、感染微生物学、健康科学、薬物療法学	
23	私	神奈川歯科大学	○	○	臨床医科歯科概論	臨床医科歯科概論
24	私	鶴見大学	○	○	薬物の種類と薬理作用	薬物の種類と薬理作用
25	私	松本歯科大学	○	×	歯科薬理学	
26	私	朝日大学	○	○	薬理学総論	基礎・臨床歯科学演習（薬害被害者に関する特別講義～薬害被害者の声を聞く～）
27	私	愛知学院大学	○	○	歯科医師としてのプロフェッショナリズム、臨床医学（外科Ⅱ）、社会と歯学Ⅲ	歯科医師としてのプロフェッショナリズム
28	私	大阪歯科大学	○	検討中	歯科薬理学、医療安全管理学、内科学、内科学	
29	私	福岡歯科大学	○	○	現代文明論、臨床薬理学	現代文明論
行っている			29	18		
検討中			0	8		
行っていない			0	3		

薬害問題に対する各大学の取組状況（歯学部歯学科）

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業

大 学 名	①②両方	①に該当する科目名	②に該当する科目名
北海道大学	○	薬理学・歯科薬理学Ⅰ・Ⅱ、口腔診断内科学、臨床講義Ⅰ、臨床講義Ⅱ、内科学、フロンティア発展科目（予定）	薬理学・歯科薬理学Ⅰ・Ⅱ、口腔診断内科学、臨床講義Ⅰ、臨床講義Ⅱ、内科学、フロンティア発展科目（予定）
東北大学	○	くすりの科学、社会歯科学、医の倫理・社会の倫理	くすりの科学、社会歯科学、医の倫理・社会の倫理
東京医科歯科大学	○	生体と薬物（薬理学概説（薬理Ⅰ））、包括医療統合教育	生体と薬物（薬理学概説（薬理Ⅰ））
新潟大学	○	微生物学Ⅰ、微生物学Ⅱ、薬理学、臨床実習Ⅰ	微生物学Ⅱ、薬理学、早期臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅰ
大阪大学	○	総合歯科学	総合歯科学
岡山大学	○	薬理学総論	薬理学総論
広島大学	○	医療倫理学、歯科薬理学Ⅰ	医療倫理学、歯科薬理学Ⅰ
徳島大学		社会と歯科医療	
九州大学	○	医療系統合教育科目「薬害」	医療系統合教育科目「薬害」
長崎大学	○	薬理学及び同実習	薬理学及び同実習
鹿児島大学		歯科医療倫理学、歯科薬理学Ⅰ、薬理学・歯科薬理学Ⅱ、微生物学Ⅱ	
九州歯科大学	○	歯学概論Ⅱ、薬理学・歯科薬理学Ⅰ、薬理学・歯科薬理学Ⅱ、薬理学・歯科薬理学Ⅲ、社会歯科学Ⅲ	歯学概論Ⅱ、社会歯科学Ⅲ
北海道医療大学	○	医薬品の科学	医薬品の科学
岩手医科大学	○	歯科医学概論、医療と法律	歯科医学概論
奥羽大学	○	歯科薬理学Ⅰ、小児歯科学	歯科薬理学Ⅰ、小児歯科学
明海大学	○	公衆歯科衛生学（衛生学含む）、医療倫理、薬理学	公衆歯科衛生学（衛生学含む）、医療倫理、薬理学
東京歯科大学	○	薬理学、社会歯科学、病院実習	薬理学、社会歯科学
昭和大学	○	地域医療入門、生体と薬物（薬理総論）	地域医療入門
日本大学		歯科学統合演習Ⅵ	
日本大学（松戸）	○	医療行動科学Ⅰ、薬理学Ⅰ	医療行動科学Ⅰ、薬理学Ⅰ
日本歯科大学	○	薬理学（２年次、４年次、６年次）	薬理学（２年次、４年次、６年次）
日本歯科大学（新潟）	○	歯科薬剤学、臨床実習、地域口腔保健学、感染微生物学、健康科学、薬物療法学	地域口腔保健学、健康科学
神奈川歯科大学	○	臨床医科歯科概論	臨床医科歯科概論
鶴見大学	○	薬物の種類と薬理作用	薬物の種類と薬理作用
松本歯科大学	○	歯科薬理学	歯科薬理学
朝日大学	○	薬理学総論	薬理学総論
愛知学院大学	○	歯科医師としてのプロフェッショナリズム、臨床医学（外科Ⅱ）、社会と歯学Ⅲ	歯科医師としてのプロフェッショナリズム、臨床医学（外科Ⅱ）、社会と歯学Ⅲ
大阪歯科大学	○	医療安全管理学、内科学、内科学	医療安全管理学
福岡歯科大学	○	現代文明論	現代文明論

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（歯学部歯学科）

▼実施学部：29学部中18学部

大学名	科目名等	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
北海道大学	フロンティア発展科目（予定）	5年次	本人	薬害エイズ	学生が被害者の方の生の声を聞け、共感することができる。薬害エイズの歴史を風化させることなく、次世代の歯科医療従事者に確実に伝えていくことができる。	学生さん達からも、薬害被害当事者からの話だけではなく、一番近くにいる家族からの話を聞いて、自分に引き寄せて共感したなどの感想が寄せられ、手前味噌ではありますが、毎回好評をいただいております。講師にも学生の感想アンケートを読んでいただき、フィードバックをしています。	実施なし
	フロンティア発展科目（予定）	5年次	家族	薬害エイズ			
東北大学	医の倫理・社会の倫理	5年次	本人	薬害肝炎	薬害被害者の声を直接聞く授業の受講を、倫理観および職業観について深く考え、将来の歯科医師としての自覚をもつ機会とすることができる。	多くの学生が、講義を受けて感銘を受けたとの感想を寄せた。 学生の感想の例「医療に携わる人間は、免許をとるのがゴールではなく、医療人になった後も日々勉強し、新たに学ばなければならないと思った。それを怠らなければ、このような薬害も防げるのではないかと思う。」「今後、歯科医師となって患者さんの口の中を見る時に、病気を診るのではなく、患者さんを診るということがいかに大切かということを感じた。」	実施なし
大阪大学	総合歯科学	1、5年次	本人	HIV	医療人としての道を歩み始めた1年次学生への講義の一環として例年どおり企画する。 薬害被害者等の方の声を直接聞く機会を持つことにより、医療における安全性の実態と知識はもとより、医療人としての薬害防止に対する意識付けを行う。 また、臨床実習開始直後の5年次学生にも受講させ、臨床の現場における医療の安全に対する重要性を再認識させる機会となる。	薬害被害者の方から直接話を伺うことで、薬害防止に関して、医療人および国民の理解と努力が如何に大切かということを再確認することができ、今後の歯科医学教育修得の心構えを新たにすることができた、など、例年、受講した学生から狙いどおりの感想を得ることができている。	実施なし

大学名	科目名等	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
広島大学	医療倫理学	2年次	本人	サリドマイド	将来歯科医療に携わる学生が、薬害の被害者の方から実体験を聞き、薬害の実態を知ったこと、特に根治療法のない薬害肝炎で、講演者本人を始め苦しんでいる被害者が多数おられることを知ったことはもちろんであるが、薬害の原因、行政の対応の不備（対応の遅れや不十分な被害者救済措置）、社会、特に製薬会社や医療従事者が加害者となったばかりでなく、中傷や差別を行っていたことについて理解したことは、医療に関わる職に就いた場合、大変役立つと考えられる。	学生が主に評価した点は、①薬害の歴史は古く、様々な薬害があることを知ったこと、②薬害がどのようにして起こったか、特になぜ多くの被害者が生まれたかを学んだこと、③薬害の被害者やその家族が、身体への障害のみならず、社会からの差別や偏見によって、大変な苦勞をしており、十分な救済措置がとられていない現状を知ったこと、④医療従事者として、薬害は起こりうることを念頭に置いて診療に当たる必要性を学んだこと、⑤不幸にして薬剤の副作用による被害が起こった場合は、被害者の救済に向けた努力を惜しまないことが医療従事者に求められていることを理解したこと、だった。	薬害の種類の違いによって、患者さんの症状の違い、厚生労働省の認可の責任、製薬会社の責任が異なっており、医療人として何ができるのか、何をすべきかを学ぶよい機会となっている。
徳島大学	新入生オリエンテーション	1年次	本人	B型肝炎	生命の尊さを自覚させ、医療事故防止の重要性を認識させる	医療事故防止の重要性を学ぶ良い機会になっている	実施なし
九州大学	医療系統合教育科目「薬害」	4年次	本人及びその家族	サリドマイド、エイズ、C型肝炎、ヤコブ病	被害者本人やその家族の生の声、苦しみ、実際に受けた差別の話等を聞くことによって、薬害の真の意味の重大さを知ることができる。	被害者の声を直接聞けて良かったという声が多い。	薬害の種類やそれぞれの状況での対応の違い等を学ぶことにより、見識をより広めることができる。
長崎大学	医哲学、医療倫理	3年次	本人	サリドマイド薬害	学生に薬学被害の現状を認識してもらう。	今後実施予定のためなし	実施なし
九州歯科大学	歯学概論Ⅱ	1年次	本人	サリドマイド	薬害の実態を正確に理解して、対応等について考える機会を与えることができる。	例年、真剣に受講し、患者さんの生の声から薬害というものを考えているようである。	実施なし
北海道医療大学	特別講義（薬の有害性を知る）【「医薬品の科学」関連】	2年次	本人	薬害エイズ	医療における感染の問題、薬害被害者の実情、薬害が生じた原因や責任の所在および医療における差別の問題を学生に考えさせる機会となっている。	講演について、意欲的に聴講している学生がほとんどであり、また終了後の質疑応答も活発に行われている。また、講義内容のまとめと感想を書いたレポートを提出させているが、素晴らしい内容のレポートが多い。	実施なし

大学名	科目名等	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
岩手医科大学	歯科医学概論	1年次	本人	薬害エイズ	薬害エイズ被害者の実体験を直接聞くことができる。	・自分が現場に立った際には、正しい知識と情報を伝え、最善の治療を提供できるようになりたい。 ・テレビや新聞等の情報が全て真実だとは限らないと感じた。 ・家族（親戚等）も大変な苦勞をしており、薬害の被害者のみではなく、その家族にも生活しやすい環境を作ってあげるべきと感じた。 ※実施済みの年度の反応・感想を参考として記入しました。	実施なし
奥羽大学	総合演習ⅠD	1年次	本人	サリドマイド	薬害の原因、健康被害、社会的影響を考察する。	大いに関心あり	実施なし
明海大学	医療倫理	5年次	本人	薬害エイズ、薬害肝炎	最近の医療の現場では、医療水準の向上だけでなく、医療従事者に、高い責任感、人権意識、倫理感、並びに危機管理意識が求められるようになっている。薬害被害者の方の声を直接聞くことによって、学生は、『共感力と倫理観の向上』、『医療過誤やリスク管理の重要性』、並びに『薬害問題の歴史と社会の理解』などに関しての意識が向上するのではないかと思われる。	「被害者の話を直接聞くことで、その苦しみや困難が実感として伝わってきた。心に深く響いた。」「薬害の恐ろしさを実際に被害に遭った方から聞くことで、言葉では表せない強いショックを受けた。」等の強い衝撃を受けたといった感想を持つ学生がいた。また、「自分が将来医療従事者としての責任を果たすために、薬害を防ぐ努力を惜しまないことを誓いたい。」「患者の安全を最優先に考える姿勢が求められていることを再認識した。」等の責任感の向上につながるような意見を持つ学生もいた。	本学の医療倫理の講義を行ってくださっている方は、薬害エイズ（HIV）だけでなく、薬害肝炎（C型肝炎ウイルス）の被害者でもあるので、結果的に、複数の種類の薬害についての講義を行っていると考えている。複数の薬害を学ぶことによって、薬害問題の多様性を理解し、単一の事例に限られない広範な知識を得ることができると考えられる。また、薬害事例を比較して、共通する問題点があることを認識することができて、薬害の原因や背景、影響についての深い理解が得られると思われる。
昭和大学	地域医療入門	1年次	家族	イレッサ	薬害被害者遺族の話を聞くことで、医薬品適正使用の重要性や、医療従事者の責任を深く考える貴重な機会となっている。	今年度の講義後アンケートを実施した結果、学生からは以下のような反応が得られた。 「医薬品は病を治すという点がかなりの印象を占めている一方で副作用といったデメリットとももっと向き合っていかなければならないなと改めて思った。さらに、医薬品の開発が進められていく中で健康被害が生じないかという点をより重要視したうえで医薬品の開発研究を進めていくべきであると感じた。」	実施なし

大学名	科目名等	履修年次	講師区分	取り上げた薬害等の名称	メリット（有意義な点・利点等）	授業等に対する学生の反応・感想	複数の種類の薬害について授業等を実施している場合の効果
神奈川歯科大学	臨床医科歯科概論	1年次	本人	サリドマイド	直接被害者から話を伺うことで、机上の学問ではなく、現実問題として身近に薬害問題をとらえることが出来る。	薬害は人災であること、医療従事者の責任の重さが理解できました。医療は人の命を救うが、使い方を間違えると人を殺すこともできる。医療人は責任を追う覚悟を持った方がいい。 上記のような感想が寄せられており、薬害を通し、医療人の責任の重さを痛感した学生が多くみられた。	実施なし
鶴見大学	薬物の種類と薬理作用	2年次	本人	HIV 薬害エイズ	・薬害被害者のこれまでの経験した被害、現状、原因と対策等これからの問題点がご本人の生の声として聞くことができる。 ・薬剤を処方する医療従事者の責任について、学生の理解が進んだ。また、患者さん側に立つ医療の重要性についても認識できる。	生の声を聞くことで非常に勉強になった、という感想が毎年多く寄せられている。	-
朝日大学	基礎・臨床歯科学演習（薬害被害者に関する特別講義～薬害被害者の声を聞く～）	4年次	本人	サリドマイド	薬害問題の実態に関して、その被害者本人から生の声を聞くことで、その被害や言われ無き偏見・差別の実態、社会としての対応のあり方のみならず、医療従事者として患者に寄り添う意識を一層高めるとともに、薬の為害性や倫理観についても理解を深めることができる。	薬害に対する恐ろしさ、薬害被害者本人との意思疎通方法、薬害被害者の家族の気持ち等を改めて考えることができたとの感想が聞かれた。また、薬害被害者ご本人が話された「薬害を起こすのは薬剤ではなく「人」であるということ」の言葉が印象に残ったとの感想も聞かれた。	実施なし
愛知学院大学	歯科医師としてのプロフェッショナリズム	1年次	本人	薬害C型肝炎	薬害の被害にあわれたご本人から直接お話をうかがうことで、学生が患者中心の医療の大切さに気づくことができ、学生の授業に対する受講態度が良好になる。 また、授業終了時(後)に学生からの疑問点について、後日、授業担当者から講師（薬害被害者本人）に確認することができるため、学生へのフィードバックが効果的に図ることができる。	・国は責任を持って、治療体制の確立、生活支援を今後続けるべきだと感じた。 ・肝炎は予防接種での注射器の使い回しや輸血、血液製剤といった医療行為を介して感染する、という問題は医療従事者を目指す自分にとって重大な問題だと感じた。 ・絶対に薬害が起こらないよう、医療者は、十分に気をつけて行くことが大切であると考え。薬害が起こらないようにするためには、薬の使い方、医療器具を使うときに感染に十分に注意して、患者さんに使っていくことが大切である。	実施なし
福岡歯科大学	現代文明論	1年次	本人	C型肝炎	薬害被害を受けた方の意見を聞くことにより、被害者を深く理解することなどを通して、医療人として必要なプロフェッショナルリズムが身につく。	学生から提出されたレポートにて、「薬害について理解が深まった」、「被害者感情についての感想」および「政府の対応への疑問」という内容の記載が多くみられた。	これまでの薬害被害事例を学ぶことを通して、将来医療関係の業務をする際に、同様の事例を発生させないという意思が醸成される。

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和6年度 看護学部等）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
北海道大学	○	×	成人看護学援助論Ⅰ、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅱ	
旭川医科大学	○	検討中	人間と行動（法学）	
弘前大学	○	○	薬理学	薬害防止に関する講演会（講演テーマ：薬禍サリドマイドから学ぶ（仮））
東北大学	○	×	臨床薬理学	
秋田大学	○	○	薬理学	薬理学
山形大学	○	○	生命倫理	生命倫理（薬害被害者による特別講演会）
筑波大学	○	○	看護生命倫理	看護生命倫理
群馬大学	○	×	臨床医学総論、基礎医学Ⅲ（薬理学）	
千葉大学	○	○	連携協働実践Ⅰ、病態生理学Ⅰ（病理学総論）、感染看護学（微生物学・免疫学）	連携協働実践Ⅰ
東京大学	○	×	長期ケア看護学	
東京医科歯科大学	○	○	薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、性と生殖と健康と看護、周産看護学Ⅰ、周産看護学Ⅱ	薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ
新潟大学	○	検討中	医療の倫理、疾病の原因と成り立ち、治療法概説、疾病の予防と治療、病態論	
富山大学	○	○	医療学入門、母性看護学総論、母性看護論、疾病学	医療学入門
金沢大学	○	○	臨床薬学論、医薬保健学基礎Ⅱ	臨床薬学論、医薬保健学基礎Ⅱ
福井大学	○	○	大学教育入門セミナー	大学教育入門セミナー
山梨大学	○	○	疾病・治療論Ⅲ	医療チームの中の看護（医学科看護学科合同授業）
信州大学	○	○	健康科学概論	健康科学概論
岐阜大学	○	○	医学概論	医学概論
浜松医科大学	○	○	医療概論、医療法学Ⅰ	医療概論
名古屋大学	○	×	公衆衛生学	
三重大学	○	×	医療倫理Ⅱ	
滋賀医科大学	○	○	薬物治療学、保健医療行政論、診断と治療Ⅰ	保健医療行政論
京都大学	○	×	薬剤・薬理学概論	

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
大阪大学	○	×	現代の生命倫理・法・経済を考える、薬理作用と臨床適用	
神戸大学	○	○	薬と生体反応、感染看護論、看護管理論、周産母子健康障害論、疾病の成り立ちと治療Ⅳ（こども）、新生児健康障害論、地域看護論、公衆衛生学	初期体験実習
鳥取大学	○	○	くすりと作用、公衆衛生看護学Ⅱ	公衆衛生看護学Ⅱ
島根大学	○	×	病理学の基礎、薬理と薬剤、地域看護学活動論	
岡山大学	○	×	臨床薬理学	
広島大学	○	○	周産期健康障害看護	周産期健康障害看護
山口大学	○	×	臨床薬理学、基礎看護方法論Ⅱ、基礎看護方法演習Ⅱ、小児保健医療論、小児看護学概論	
徳島大学	○	○	看護技術Ⅲ、薬理学、学校保健論	薬害講演
香川大学	○	○	看護薬理学	薬害被害者の声を聴く特別講義
愛媛大学	○	○	医療被害と看護	医療被害と看護
高知大学	○	検討中	薬の効用と看護	
九州大学	○	○	医療系統合教育科目「薬害」	医療系統合教育科目「薬害」
佐賀大学	○	○	臨床薬理学、基礎看護技術Ⅲ	コミュニケーション論
長崎大学	○	×	看護倫理	
熊本大学	○	○	臨床薬理学、母子援助論、助産診断・技術学Ⅱ、病理学Ⅰ、感染看護学	薬害被害講演会【特別講演会】
大分大学	○	×	保健学、保健政策論	
宮崎大学	検討中	検討中		
鹿児島大学	○	×	解剖生理学Ⅰ、病理学総論	
琉球大学	○	×	保健福祉政策論、薬理学	
小計（国立）			42学部中41学部	42学部中23学部

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
札幌医科大学（保健医療学部看護学科）	○	○	看護学概論、社会と健康史	社会と健康史
札幌医科大学（専攻科公衆衛生看護学専攻）	○	×	環境保健論	
札幌市立大学	○	×	臨床薬理学	
名寄市立大学	○	×	公衆衛生看護学概論、感染微生物学、統計学、公衆衛生学、成人看護学概論、臨床治療学Ⅰ、地域看護学概論、地域看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅰ	
旭川市立大学	検討中	×		
青森県立保健大学	○	×	感染免疫学、母性疾病治療論、成人看護援助論Ⅲ、看護関係法規	
岩手県立大学	○	×	生物学の世界、感染免疫学、感染看護学、臨床病態治療学、薬理代謝学	
宮城大学	○	×	薬理学	
山形県立保健医療大学	○	×	臨床薬理学	
福島県立医科大学	○	×	病態診断治療学、地域看護学Ⅱ	
茨城県立医療大学	○	検討中	衛生・公衆衛生学	
群馬県立県民健康科学大学	○	検討中	環境科学、人間集団と健康（疫学）、地域健康看護学各論Ⅱ、保健医療チーム連携論Ⅰ	
埼玉県立大学	○	検討中	看護薬理学	
千葉県立保健医療大学	○	×	地域看護学方法論Ⅱ、助産診断・技術学Ⅱ、病態学Ⅰ	
東京都立大学	○	○	慢性期看護学演習、総合臨地看護学実習（在宅）、母性看護学概論、周産期学、母性看護学演習、小児看護学概論、公衆衛生看護実践論、精神看護学演習	慢性期看護学演習
神奈川県立保健福祉大学	○	×	看護倫理、人権とジェンダー、精神保健看護学Ⅱ、小児看護学、公衆衛生看護活動論、成人看護学（慢性期）Ⅱ	
川崎市立看護大学	○	×	臨床薬理学	
横浜市立大学	○	検討中	看護倫理学	
新潟県立看護大学	検討中	×		
富山県立大学	○	検討中	薬理学、成人看護方法論Ⅱ（慢性）、保健医療福祉行政論、感染看護学	
石川県立看護大学	○	検討中	生命倫理学	
公立小松大学	○	×	保健医療福祉法制度論	
敦賀市立看護大学	○	検討中	臨床薬理学、公衆衛生学、保健医療福祉行政論、看護倫理学、看護学概論	
福井県立大学	○	○	臨床薬理学	臨床病態学Ⅱ

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
山梨県立大学	○	検討中	疾病治療総論	
長野県看護大学	検討中	検討中		
岐阜県立看護大学	○	×	環境保健学、日本国憲法（法と人権）	
静岡県立大学	×	×		
愛知県立大学	○	×	病因論	
名古屋市立大学	○	○	疫学・保健統計学Ⅰ	疫学・保健統計学Ⅰ
三重県立看護大学	○	×	臨床薬理学	
滋賀県立大学	○	検討中	生命・人権・倫理、人間と病気、微生物学／免疫学、看護管理学、基礎看護技術Ⅲ（フィジカルアセスメント・臨床看護）、災害看護学、差別と人権（同和問題）	
京都府立医科大学	○	×	看護と法律	
大阪公立大学	○	○	看護学概論、危機管理論	看護学概論
兵庫県立大学	○	×	感染免疫学、成人健康看護論（急性）、母性看護援助論	
神戸市看護大学	検討中	検討中		
奈良県立医科大学	○	×	社会福祉と医療法規、基礎薬理学、臨床薬理学	
和歌山県立医科大学	○	○	ケアマインド教育、慢性期病態学Ⅰ、基礎薬理学	ケアマインド教育
島根県立大学	○	×	成人看護学援助論Ⅰ（慢性・終末期）	
岡山県立大学	○	×	臨床病態学Ⅰ、医学概論（看護学科）、医学概論（栄養学科）、臨床病態学Ⅳ、病理学	
新見公立大学	検討中	検討中		
県立広島大学	○	×	看護倫理	
山口県立大学	○	検討中	看護倫理	
周南公立大学	○	○	看護学概論	看護学概論
香川県立保健医療大学	○	検討中	疾病と治療Ⅱ、臨床薬理	
愛媛県立医療技術大学	○	検討中	薬と健康	
高知県立大学	○	○	助産技術論Ⅱ、母性の健康と看護、治療援助論、地域の健康と看護、病態と治療Ⅰ、健康管理論、グローバル社会と看護Ⅰ、グローバル社会と看護Ⅱ	グローバル社会と看護Ⅰ
福岡県立大学	○	○	看護薬理学、看護倫理学	看護倫理学
長崎県立大学	○	検討中	薬理代謝学	

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
大分県立看護科学大学	○	×	薬理学Ⅰ、病理学総論	
宮崎県立看護大学	○	○	人権論、人間常態学Ⅰ-3、人間常態学Ⅲ	人権論、人間常態学Ⅰ-3
沖縄県立看護大学	×	×		
名城大学	○	検討中	看護学概論、薬理学、保健医療と法、成人看護学方法論Ⅰ、成人看護学方法論Ⅱ、国際看護学Ⅱ 海外研修、感染看護学、公衆衛生学、公衆衛生看護活動論	
小計（公立）			52学部中45学部	52学部中10学部

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
札幌保健医療大学	×	×		
天使大学	×	×		
日本赤十字北海道看護大学	○	○	薬理学、病態治療学Ⅱ(消化・代謝・ライフステージ)、病態治療学Ⅳ(頭頸部・皮膚・血液・泌尿・小児)、成人慢性看護学演習	成人慢性看護学演習
日本医療大学	○	×	臨床薬理学、形態機能学Ⅳ(人体解剖実習)	
北海道医療大学	○	○	微生物学、医療概論、公衆衛生学Ⅰ	医療概論
北海道科学大学(保健医療学部看護学科)	○	検討中	医療概論、感染免疫学、病態生理学	
北海道科学大学(公衆衛生看護学専攻科)	○	×	健康課題別活動論	
北海道文教大学	検討中	×		
青森中央学院大学	○	検討中	薬理と薬剤	
八戸学院大学	○	×	病態学Ⅱ、薬理学、医療安全論	
弘前医療福祉大学	×	×		
弘前学院大学	○	×	薬理学	
岩手医科大学	○	○	医療と法律	看護学概論 (全人的医療基礎講義含む)
岩手保健医療大学	○	×	臨床薬理学	
東北福祉大学	○	×	臨床薬理学	
東北文化学園大学	○	検討中	解剖生理学Ⅱ、薬理学	
仙台青葉学院大学	検討中	×		
秋田看護福祉大学	○	検討中	公衆衛生学	
日本赤十字秋田看護大学	○	×	老年看護学Ⅱ、成人看護学Ⅱ－2慢性看護	
医療創生大学(看護学部看護学科)	○	検討中	健康と薬、薬理学、自然科学のあゆみ	
茨城キリスト教大学	○	○	生と死の倫理、公衆衛生看護学概論	生と死の倫理
つくば国際大学	○	×	生命倫理	
常磐大学	○	○	母性看護援助	母性看護援助
足利大学	○	検討中	臨床薬理学、公衆衛生学	
国際医療福祉大学(保健医療学部看護学科)	○	検討中	対象別保健活動論Ⅰ(発達段階別)、対象別保健活動論Ⅱ(障害別)、早期体験実習、衛生化学Ⅱ(毒性・代謝)、OTC医薬品概論、薬学演習Ⅲ、医薬品安全性学、医薬品情報学Ⅰ	

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
自治医科大学	○	×	保健医療福祉システム論、実践基礎看護学概論Ⅲ、公衆衛生看護活動論、臨床薬理学、小児実践看護学Ⅰ	
獨協医科大学	○	○	生命倫理学、薬理学	生命倫理学
桐生大学	○	検討中	臨床薬理学、看護専門職論Ⅴ（感染看護）	
群馬医療福祉大学	○	検討中	公衆衛生学	
群馬パース大学	○	×	公衆衛生看護学概論、薬理学	
上武大学	○	×	疾患の治療と看護Ⅰ、病理学、生命倫理、公衆衛生学、臨床薬理学、リスクマネジメント論	
高崎健康福祉大学	○	×	臨床医学Ⅰ（内科学・外科学）、薬理学	
埼玉医科大学	○	○	病むことの心理	病むことの心理
西武文理大学	○	検討中	臨床薬理学	
大東文化大学	○	○	疾病・治療学Ⅵ（精神医療）	Daito 'Green 'Ceremony -Reflection on a Nursing Journey-
東京家政大学	○	×	薬理学、公衆衛生学、地域・在宅看護学概論Ⅰ	
東都大学（ヒューマンケア学部看護学科）	×	×		
日本医療科学大学	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学
日本保健医療大学	○	検討中	薬理学、病態治療学Ⅰ（総論、神経、呼吸器、循環器、血液）、病態治療学Ⅱ（消化器、腎、内分泌、感染症、免疫）	
人間総合科学大学	○	検討中	薬理学、薬と健康	
目白大学	○	○	医療概論、薬理学	総合看護学セミナー
日本赤十字看護大学（さいたま看護学部看護学科）	○	検討中	看護関係法規	
亀田医療大学	○	×	ウィメンズヘルス看護学概論	
国際医療福祉大学（成田看護学部看護学科）	○	検討中	感染看護論	
三育学院大学	○	×	保健医療社会学	
秀明大学	○	検討中	薬理学、薬理学、母性看護学概論、病理学、免疫・微生物学	
淑徳大学	○	検討中	病態学（医学概論・病理学・症候学）	
順天堂大学（医療看護学部看護学科）	○	×	薬理学	
城西国際大学	○	○	公衆衛生看護学概論、感染症学、臨床薬理学、周産期医学B、慢性疾患看護方法論	公衆衛生看護学概論 （薬害エイズ事件の被害と現在、今後の課題～薬害エイズ事件を教訓に、二度と薬害を繰り返さないために～）

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
聖徳大学	○	×	成人・老年看護学方法論Ⅱ、母性看護学総論、小児看護学総論	
千葉科学大学	○	×	公衆衛生看護学方法論Ⅰ	
帝京平成大学（健康医療スポーツ学部看護学科）	○	検討中	人間と社会と看護	
東京医療保健大学（千葉看護学部看護学科）	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学
東京情報大学	○	検討中	臨床薬理学	
東都大学（幕張ヒューマンケア学部看護学科）	○	×	看護関係法規	
東邦大学（健康科学部看護学科）	○	×	トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ、薬剤学	
SBC東京医療大学	○	検討中	疾病・治療Ⅴ（小児・母性・精神疾患等）、成人看護学概論、母性看護学概論、小児看護学概論	
和洋女子大学	○	○	成人看護援助論Ⅱ（慢性期看護）	成人看護援助論Ⅱ（慢性期看護）
医療創生大学（国際看護学部看護学科）	検討中	×		
共立女子大学	○	○	ヘルスアセスメント論	ヘルスアセスメント論
杏林大学（保健学部看護学科看護学専攻）	○	×	生命倫理学	
杏林大学（保健学部看護学科看護養護教育学専攻）	○	×	精神看護学概論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学概論、看護基本技術Ⅲ	
駒沢女子大学	○	○	薬害問題を語る（特別講演・4年次生参加必須）	薬害問題を語る（特別講演）
上智大学	○	×	薬理学	
聖路加国際大学	○	×	薬理学	
創価大学	○	×	薬理学、臨床薬理、公衆衛生入門、健康生活看護学概論Ⅱ（集団・予防）、健康生活看護学概論Ⅲ（地域社会における多様な場の看護）	
帝京大学（医療技術学部看護学科）	○	○	医療社会学	ライフデザイン演習Ⅲ「看護の対象者の理解」
帝京科学大学	○	○	基礎看護技術Ⅲ（診療の補助技術）	基礎看護技術Ⅲ（診療の補助技術）
帝京平成大学（ヒューマン学部看護学科）	○	×	薬の科学、看護臨床薬剤学	
東京有明医療大学	○	○	臨床薬理学概論	入門ゼミナール、基礎ゼミナール
東京医科大学	○	○	キャリアデザインⅠ（基礎）	キャリアデザインⅠ（基礎）
東京医療学院大学	○	○	看護倫理学	看護倫理学
東京医療保健大学（医療保健学部看護学科）	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
東京医療保健大学（東が丘看護学部看護学科）	○	×	看護政策論、医療安全学、小児看護実践論、母性看護学概論、母性看護実践論、医療と法（看護関係法規）	
東京医療保健大学（立川看護学部看護学科）	○	×	慢性期看護論、公衆衛生学、臨床薬理学演習	
東京工科大学	○	×	公衆衛生学、保健指導論	
東京慈恵会医科大学	○	○	看護と倫理、地域看護方法論Ⅰ	看護と倫理
東京純心大学	○	×	薬理学	
東京女子医科大学	○	○	薬理学	薬理学
東邦大学（看護学部看護学科）	○	×	人体と薬物	
日本赤十字看護大学（看護学部看護学科）	○	検討中	看護関係法規、公衆衛生看護活動論	
武蔵野大学	○	○	薬理学、薬物療法学	薬効安全性学（薬学部）
文京学院大学	○	検討中	看護倫理学	
神奈川工科大学	○	×	看護倫理、診療の補助技術、老年看護援助論、臨床薬理学	
関東学院大学	○	○	基礎看護技術Ⅲ	基礎看護技術Ⅲ
北里大学（看護学部看護学科）	×	×		
慶應義塾大学	○	×	環境論、看護のための薬理学	
国際医療福祉大学（小田原保健医療学部看護学科）	○	×	成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅱ（慢性期看護）、薬理学	
松蔭大学	○	検討中	薬物や放射線による人間の反応	
湘南医療大学（保健医療学部看護学科）	○	○	薬と毒性学入門	薬と毒性学入門
湘南医療大学（専攻科公衆衛生看護学専攻）	○	×	公衆衛生看護学Ⅱ	
湘南鎌倉医療大学	○	×	薬理学	
昭和大学	○	○	地域医療入門、薬理学、コミュニティヘルス看護活動論、看護研究	地域医療入門
東海大学	○	×	看護学概論、母性看護学、小児看護学概論、人体の構造と機能Ⅰ、保健医療関係法規	
横浜創英大学	○	○	看護管理学、看護管理学	看護管理学
長岡崇徳大学	○	×	薬理学	
新潟医療福祉大学	○	○	診療看護論演習、臨床薬理学	診療看護論演習
新潟青陵大学	検討中	検討中		

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
新潟薬科大学	○	×	医療と看護の歴史、薬と健康、薬理学と薬剤管理	
北里大学（健康科学部看護学科）	×	×		
金沢医科大学	○	検討中	臨床薬理学	
金城大学（看護学部看護学科）	○	×	感染防御	
金城大学（公衆衛生看護学専攻科）	検討中	検討中		
福井医療大学	○	×	薬理学	
健康科学大学	×	×		
佐久大学	○	×	生命倫理、健康障害と治療Ⅰ、健康障害と治療Ⅱ、健康障害と治療Ⅲ、薬理薬剤学、看護リスクマネジメント	
清泉女学院大学	○	×	薬理学	
長野保健医療大学	○	×	保健医療福祉行政論	
松本看護大学	検討中	×		
朝日大学	○	○	薬理学、病理学	「薬害被害者の声を聞く」特別講演
岐阜医療科学大学	○	○	薬学概論	薬学概論
岐阜協立大学	×	×		
岐阜保健大学	×	×		
中京学院大学	○	×	感染看護論、臨床薬理学	
中部学院大学	○	×	公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論	
岐阜聖徳学園大学	○	検討中	薬理薬剤学	
順天堂大学（保健看護学部看護学科）	○	×	医療の歴史、薬理学、保健学概論、地域生涯保険活動論、保健医療福祉行政論、臨床薬理学	
聖隷クリストファー大学	○	検討中	薬理	
常葉大学	○	×	健康増進論	
東都大学（沼津ヒューマンケア学部看護学科）	○	×	いのちと倫理、公衆衛生学、病態学、疾病治療論Ⅰ（呼吸・循環器系）、看護倫理、感染と免疫	
愛知医科大学	○	×	薬理学、感染看護学Ⅱ、母性看護学Ⅰ、小児看護学Ⅰ、成人看護学Ⅲ、療養生活支援論Ⅱ	
一宮研伸大学	○	○	法学、公衆衛生学、公衆衛生学	公衆衛生学、公衆衛生学
金城学院大学	○	検討中	疫学	

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
修文大学	○	×	健康危機管理論、公衆衛生学、感染看護学Ⅱ	
椋山女学園大学	○	×	薬理学	
中部大学	○	○	薬理学	薬理学
豊橋創造大学	○	○	看護学原論、臨床薬理学、看護倫理、在宅看護学原論Ⅱ	在宅看護学原論Ⅱ、在宅看護学原論Ⅱ
名古屋学芸大学	○	検討中	医療概論、社会保障制度	
名古屋女子大学	○	×	臨床薬理学	
日本赤十字豊田看護大学	○	×	微生物学、公衆衛生看護管理	
日本福祉大学	○	×	成人看護学概論	
人間環境大学（看護学部看護学科）	検討中	×		
藤田医科大学	○	検討中	地域・在宅看護学概論	
鈴鹿医療科学大学	○	○	臨床薬理学	臨床薬理学
四日市看護医療大学	○	検討中	薬理学、診断・治療学概論	
聖泉大学	○	検討中	人権論、微生物学、病理学、薬理・薬剤学、疾病・障害論Ⅰ、疾病・障害論Ⅱ	
京都先端科学大学	○	検討中	看護治療支援技術論	
京都看護大学	検討中	×		
京都光華女子大学	○	検討中	薬理学、生命倫理	
京都橘大学	○	○	キャリア開発演習Ⅳ	キャリア開発演習Ⅳ
同志社女子大学	○	○	母子保健看護概論、看護と法律	母子保健看護概論
佛教大学	○	×	薬理学、病と人間の歩み、慢性看護学Ⅰ、成人看護学概論	
明治国際医療大学	○	検討中	疾病治療論Ⅳ、薬理学	
藍野大学	○	×	薬理学	
大阪青山大学	検討中	×		
大阪医科薬科大学	○	×	健康科学論	
大阪信愛学院大学	○	×	臨床薬理学	
大阪成蹊大学	○	×	化学、公衆衛生看護活動論、基礎看護学方法論Ⅲ	
大手前大学	○	×	医療関係法規	
関西医科大学	○	×	薬理学	
関西医療大学	○	検討中	総合看護学演習	

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
四條畷学園大学	○	○	薬理学	看護倫理
四天王寺大学	○	×	薬理学、生活健康論、在宅療養生活支援論	
摂南大学	○	○	看護倫理	看護倫理
千里金蘭大学	○	×	臨床薬理学、共生社会と人権	
太成学院大学	○	×	薬理学、疾病論Ⅰ、病理学、衛生・公衆衛生学	
宝塚大学	○	○	公衆衛生学、医療ジャーナリズム論	公衆衛生学
梅花女子大学	○	×	臨床病理・病態学Ⅱ、臨床病理・病態学Ⅱ、臨床病理・病態学Ⅲ、薬理学、公衆衛生看護学Ⅱ	
森ノ宮医療大学	○	×	母性看護援助論Ⅰ	
大和大学	○	×	公衆衛生学	
大阪歯科大学	○	×	老年看護援助論、小児看護援助論、老年看護援助論、小児看護援助論	
関西看護医療大学	○	○	薬理学Ⅰ	感染と免疫
関西国際大学	○	×	看護倫理Ⅰ	
関西福祉大学	○	×	薬理学	
姫路大学	○	検討中	保健医療福祉制度論、公衆衛生学	
甲南女子大学	○	×	成人看護学方法論Ⅰ	
神戸常盤大学	○	検討中	生命と倫理	
神戸女子大学	○	○	看護倫理、医療ケアシステム論	看護倫理
園田学園女子大学	○	検討中	看護病態学	
姫路獨協大学	○	×	公衆衛生学、公衆衛生看護学概論	
兵庫大学	○	検討中	薬理学、免疫・微生物学、公衆衛生学(疫学を含む)、リスクマネジメント論、看護学概論	
武庫川女子大学	○	○	看護薬理学	成人看護学概論
兵庫医科大学	○	○	公衆衛生学、慢性看護援助論、免疫学(含微生物学)、母性看護学概論	母性看護学概論
畿央大学	○	○	薬と健康、看護倫理、診療課程援助技術、感染・免疫学、公衆衛生学、看護管理論、医療安全論	保健医療福祉システム論Ⅰ
天理大学	○	×	保健医療概論	
奈良学園大学	○	×	看護技術の基礎Ⅱ、環境化学の基礎	
宝塚医療大学	検討中	検討中		

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
東京医療保健大学（和歌山看護学部看護学科）	○	検討中	看護倫理	
鳥取看護大学	×	×		
川崎医療福祉大学	○	×	薬理学、保健指導論、健康危機管理論	
吉備国際大学	○	×	医療安全、成人看護学Ⅲ（がん看護）、成人看護学Ⅳ（周手術期看護）、公衆衛生看護学Ⅱ、精神看護学概論、精神看護学Ⅱ（援助論）、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ（母児関係論）、母性看護学Ⅱ（援助論）	
山陽学園大学	○	×	衛生学・公衆衛生学Ⅰ、感染看護学	
日本赤十字広島看護大学	○	検討中	日本国憲法	
広島国際大学	○	×	臨床病態学Ⅲ、臨床病態学Ⅰ	
広島都市学園大学	○	検討中	臨床薬理学	
広島文化学園大学	○	検討中	人間発生・発達学、薬理学、病態微生物学、公衆衛生学	
福山平成大学	検討中	検討中		
安田女子大学	○	○	公衆衛生看護学、共通教育「人間論B」、疾病論Ⅱ、疾病論Ⅲ、病理病態学、特別科目「まほろば教養ゼミ」	まほろば教養ゼミ
宇部フロンティア大学	○	○	薬理・薬剤学、微生物・免疫学、公衆衛生看護活動論、基礎ゼミナールⅡ（キャリアデザイン）	特別授業（薬害被害者講演会）
四国大学	○	×	女性と胎児の薬理学、薬理学、小児看護学概論、母性看護方法論	
徳島文理大学	○	検討中	薬理学、感染学、老年看護学概論	
聖カタリナ大学	○	検討中	感染管理看護論、生命倫理学、地域生活支援論、地域看護学Ⅱ	
人間環境大学	○	○	陣痛促進剤事故について知ろう（講演会）	陣痛促進剤事故について知ろう（講演会）
久留米大学	○	○	生命・看護倫理	生命・看護倫理
国際医療福祉大学（福岡保険医療学部看護学科）	○	○	看護倫理学	看護倫理学
福岡国際医療福祉大学	○	×	生命倫理	
産業医科大学	○	○	看護倫理学、健康危機管理論、内科系病態治療学、成人看護学方法論（慢性期）、産・婦人科系病態治療学、医療社会学、小児系病態治療学、感染症学	看護倫理学
純真学園大学	○	×	臨床薬理学	
西南女学院大学	○	×	医療と倫理	
聖マリア学院大学	○	×	薬理学、精神看護学ケア論Ⅱ、保健医療福祉行政論	

大学名	1	2	1. に該当する授業科目	2. に該当する授業科目又は特別講演
帝京大学（福岡医療技術学部看護学科）	○	×	臨床薬理学、公衆衛生学、公衆衛生看護援助方法論	
日本赤十字九州国際看護大学	○	×	人体と薬物	
福岡看護大学	○	検討中	薬理学	
福岡大学	○	○	感染看護、薬のはたらきと薬物療法	薬のはたらきと薬物療法
福岡女学院看護大学	○	検討中	基礎看護学方法論Ⅱ、成人看護援助論Ⅰ（慢性期）、クリティカルケア	
第一薬科大学	検討中	×		
令和健康科学大学	○	○	看護倫理	看護倫理
西九州大学	○	検討中	臨床薬理学、療養支援看護学方法論Ⅱ	
活水女子大学	○	×	看護倫理、看護医療と法規	
九州看護福祉大学	○	×	薬理学、感染症学、病態生理学Ⅰ	
熊本保健科学大学	検討中	検討中		
鹿児島国際大学	○	×	保健医療福祉行政論、健康をまもる法律	
鹿児島純心大学	○	×	看護薬理学、社会保障制度と健康、助産診断・技術学	
小計（私立）			210学部中188学部	210学部中53学部
合計（国公私立）			304学部中274学部	304学部中86学部

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和6年度 看護学部等）

薬害問題に関する授業等のうち以下の①②を実施

①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目

②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	①	②	①② 両方を実施している
	薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
北海道大学	成人看護学援助論Ⅰ、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅱ	成人看護学援助論Ⅰ、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅱ	○
旭川医科大学	人間と行動（法学）		
弘前大学	薬理学		
東北大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
秋田大学	薬理学	薬理学	○
山形大学	生命倫理	生命倫理	○
筑波大学	看護生命倫理	看護生命倫理	○
群馬大学	臨床医学総論、基礎医学Ⅲ（薬理学）	臨床医学総論	○
千葉大学	連携協働実践Ⅰ	連携協働実践Ⅰ	○
東京医科歯科大学	薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、特別講義「薬害被害に関する特別講演」（仮）	特別講義「薬害被害に関する特別講演」（仮）	○
新潟大学	医療の倫理、疾病の原因と成り立ち、治療法概説、疾病の予防と治療	医療の倫理	○
富山大学	医療学入門、母性看護学総論、母性看護論、疾病学	医療学入門	○
金沢大学	臨床薬学論、医薬保健学基礎Ⅱ	臨床薬学論、医薬保健学基礎Ⅱ	○
福井大学	大学教育入門セミナー	大学教育入門セミナー	○
山梨大学	疾病・治療論Ⅲ	疾病・治療論Ⅲ	○
信州大学	健康科学概論	健康科学概論	○
岐阜大学	医学概論	医学概論	○
浜松医科大学	医療概論、医療法学Ⅰ	医療概論	○
名古屋大学	公衆衛生学		
三重大学	医療倫理Ⅱ	医療倫理Ⅱ	○
滋賀医科大学	薬物治療学、保健医療行政論、診断と治療Ⅰ	薬物治療学、保健医療行政論、診断と治療Ⅰ	○
京都大学	薬剤・薬理学概論	薬剤・薬理学概論	○
大阪大学	現代の生命倫理・法・経済を考える、薬理作用と臨床適用	現代の生命倫理・法・経済を考える、薬理作用と臨床適用	○
神戸大学	疾病の成り立ちと治療Ⅳ（こども）、地域看護論、公衆衛生学	感染看護論、地域看護論	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	①	②	①② 両方を実施している
	薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
鳥取大学	くすりと作用、公衆衛生看護学Ⅱ	公衆衛生看護学Ⅱ	○
島根大学	地域看護学活動論		
岡山大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
広島大学	周産期健康障害看護	周産期健康障害看護	○
山口大学	臨床薬理学、小児保健医療論、小児看護学概論	臨床薬理学	○
香川大学	看護薬理学	看護薬理学	○
愛媛大学	医療被害と看護	医療被害と看護	○
高知大学	薬の効用と看護		
九州大学	医療系統合教育科目「薬害」	医療系統合教育科目「薬害」	○
長崎大学	看護倫理	看護倫理	○
熊本大学	臨床薬理学、母子援助論、助産診断・技術学Ⅱ、病理学Ⅰ、感染看護学	母子援助論、助産診断・技術学Ⅱ、病理学Ⅰ、	○
大分大学	保健学、保健政策論	保健学	○
鹿児島大学	解剖生理学Ⅰ、病理学総論	解剖生理学Ⅰ	○
琉球大学	保健福祉政策論、薬理学		
札幌医科大学（保健医療学部看護学科）	看護学概論、社会と健康史	社会と健康史	○
札幌医科大学（専攻科公衆衛生看護学専攻）	環境保健論	環境保健論	○
名寄市立大学	公衆衛生看護学概論、統計学、公衆衛生学、成人看護学概論、臨床治療学Ⅰ、地域看護学概論、地域看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅰ	公衆衛生看護学概論、成人看護学概論、臨床治療学Ⅰ、地域看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅰ	○
青森県立保健大学	成人看護援助論Ⅲ、看護関係法規		
岩手県立大学	薬理代謝学	薬理代謝学	○
宮城大学	薬理学	薬理学	○
山形県立保健医療大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
福島県立医科大学	病態診断治療学、地域看護学Ⅱ	病態診断治療学、地域看護学Ⅱ	○
茨城県立医療大学	衛生・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	○
群馬県立県民健康科学大学	環境科学、人間集団と健康（疫学）、地域健康看護学各論Ⅱ、保健医療チーム連携論Ⅰ	人間集団と健康（疫学）	○
埼玉県立大学	看護薬理学	看護薬理学	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	①	②	①② 両方を実施している
	薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
千葉県立保健医療大学	地域看護学方法論Ⅱ	地域看護学方法論Ⅱ	○
東京都立大学	慢性期看護学演習、総合臨地看護学実習（在宅）、母性看護学概論、周産期学、公衆衛生看護実践論	慢性期看護学演習、総合臨地看護学実習（在宅）	○
神奈川県立保健福祉大学	看護倫理、人権とジェンダー、小児看護学、成人看護学（慢性期）Ⅱ	看護倫理、人権とジェンダー、精神保健看護学Ⅱ、小児看護学、公衆衛生看護活動論	○
川崎市立看護大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
横浜市立大学	看護倫理学	看護倫理学	○
富山県立大学	薬理学、保健医療福祉行政論、感染看護学	保健医療福祉行政論、感染看護学	○
石川県立看護大学	生命倫理学		
公立小松大学	保健医療福祉法制度論	保健医療福祉法制度論	○
敦賀市立看護大学	臨床薬理学	臨床薬理学、看護倫理学	○
福井県立大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
山梨県立大学	疾病治療総論	疾病治療総論	○
岐阜県立看護大学	環境保健学、日本国憲法（法と人権）	環境保健学、日本国憲法（法と人権）	○
愛知県立大学	病因論		
名古屋市立大学	疫学・保健統計学Ⅰ	疫学・保健統計学Ⅰ	○
滋賀県立大学	差別と人権（同和問題）	差別と人権（同和問題）	○
大阪公立大学	看護学概論	看護学概論	○
兵庫県立大学	感染免疫学	感染免疫学	○
奈良県立医科大学	社会福祉と医療法規、基礎薬理学、臨床薬理学	社会福祉と医療法規、基礎薬理学、臨床薬理学	○
和歌山県立医科大学	ケアマインド教育、基礎薬理学	ケアマインド教育	○
島根県立大学	成人看護学援助論Ⅰ（慢性・終末期）	成人看護学援助論Ⅰ（慢性・終末期）	○
県立広島大学	看護倫理	看護倫理	○
山口県立大学	看護倫理	看護倫理	○
周南公立大学	看護学概論	看護学概論	○
愛媛県立医療技術大学	薬と健康	薬と健康	○
高知県立大学	助産技術論Ⅱ、グローバル社会と看護Ⅰ、グローバル社会と看護Ⅱ	地域の健康と看護、グローバル社会と看護Ⅰ、グローバル社会と看護Ⅱ	○
福岡県立大学	看護薬理学、看護倫理学	看護薬理学、看護倫理学	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	①	②	①② 両方を実施している
	薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
長崎県立大学	薬理代謝学	薬理代謝学	○
大分県立看護科学大学	薬理学Ⅰ、病理学総論		
宮崎県立看護大学	人権論、人間常態学Ⅰ-3	人権論、人間常態学Ⅰ-3	○
名桜大学	感染看護学、公衆衛生学	国際看護学Ⅱ 海外研修、感染看護学	○
日本赤十字北海道看護大学	薬理学、病態治療学Ⅱ(消化・代謝・ライフステージ)、病態治療学Ⅳ(頭頸部・皮膚・血液・泌尿・小児)、成人慢性看護学演習	成人慢性看護学演習	○
日本医療大学	臨床薬理学、形態機能学Ⅳ(人体解剖実習)		
北海道医療大学	医療概論、公衆衛生学Ⅰ	医療概論	○
北海道科学大学(保健医療学部看護学科)	医療概論		
青森中央学院大学	薬理と薬剤	薬理と薬剤	○
岩手医科大学	医療と法律		
東北福祉大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
秋田看護福祉大学	公衆衛生学		
日本赤十字秋田看護大学	成人看護学Ⅱ－2 慢性看護		
医療創生大学	健康と薬、薬理学、自然科学のあゆみ	健康と薬、自然科学のあゆみ	○
茨城キリスト教大学	生と死の倫理、公衆衛生看護学概論	生と死の倫理、公衆衛生看護学概論	○
つくば国際大学	生命倫理	生命倫理	○
常磐大学	母性看護援助	母性看護援助	○
足利大学	臨床薬理学、公衆衛生学		
国際医療福祉大学(保健医療学部看護学科)	対象別保健活動論Ⅰ(発達段階別)、早期体験実習、衛生化学Ⅱ(毒性・代謝)、OTC医薬品概論、薬学演習Ⅲ、医薬品安全性学、医薬品情報学Ⅰ	対象別保健活動論Ⅰ(発達段階別)、薬学演習Ⅲ	○
自治医科大学	保健医療福祉システム論、実践基礎看護学概論Ⅲ、公衆衛生看護活動論、臨床薬理学	公衆衛生看護活動論	○
獨協医科大学	生命倫理学、薬理学	生命倫理学	○
桐生大学	臨床薬理学、看護専門職論Ⅴ(感染看護)		
群馬医療福祉大学	公衆衛生学	公衆衛生学	○
群馬パース大学	公衆衛生看護学概論		

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	①	②	①② 両方を実施している
	薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
上武大学	公衆衛生学、臨床薬理学	生命倫理、臨床薬理学	○
高崎健康福祉大学	薬理学		
埼玉医科大学	病むことの心理	病むことの心理	○
大東文化大学	疾病・治療学Ⅵ（精神医療）	疾病・治療学Ⅵ（精神医療）	○
東京家政大学	薬理学、公衆衛生学、地域・在宅看護学概論Ⅰ	薬理学、公衆衛生学、地域・在宅看護学概論Ⅰ	○
日本医療科学大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
日本保健医療大学	薬理学		
目白大学	医療概論、薬理学	薬理学	○
日本赤十字看護大学	看護関係法規	看護関係法規	○
亀田医療大学	ウィメンズヘルス看護学概論		
国際医療福祉大学（成田看護学部看護学科）	感染看護論	感染看護論	○
秀明大学	薬理学、母性看護学概論、病理学、免疫・微生物学	薬理学、病理学、免疫・微生物学	○
淑徳大学	病態学（医学概論・病理学・症候学）	病態学（医学概論・病理学・症候学）	○
順天堂大学（医療看護学部・看護学科）	薬理学	薬理学	○
城西国際大学	公衆衛生看護学概論、臨床薬理学、周産期医学B、慢性疾患看護方法論	公衆衛生看護学概論、感染症学、周産期医学B、慢性疾患看護方法論	○
聖徳大学	成人・老年看護学方法論Ⅱ、母性看護学総論、小児看護学総論	成人・老年看護学方法論Ⅱ、母性看護学総論、小児看護学総論	○
千葉科学大学	公衆衛生看護方法論Ⅰ	公衆衛生看護方法論Ⅰ	○
帝京平成大学	人間と社会と看護	人間と社会と看護	○
東京医療保健大学（千葉看護学部）	臨床薬理学	臨床薬理学	○
東都大学（幕張ヒューマンケア学部看護学科）	看護関係法規		
東邦大学（健康科学部看護学科）	トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ	トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ	○
SBC東京医療大学	疾病・治療Ⅴ（小児・母性・精神疾患等）、成人看護学概論	成人看護学概論	○
和洋女子大学	成人看護援助論Ⅱ（慢性期看護）	成人看護援助論Ⅱ（慢性期看護）	○
共立女子大学	ヘルスアセスメント論	ヘルスアセスメント論	○
杏林大学（保健学部看護学科看護学専攻）	生命倫理学	生命倫理学	○
杏林大学（保健学部・看護学科・看護養護教育学専攻）	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学概論、看護基本技術Ⅲ	精神看護学概論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学概論	○
駒沢女子大学	薬害問題を語る（特別講演・4年次生参加必須）	薬害問題を語る（特別講演・4年次生参加必須）	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	①	②	①② 両方を実施している
	薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
聖路加国際大学	薬理学		
創価大学	薬理学、臨床薬理、健康生活看護学概論Ⅲ（地域社会における多様な場の看護）	公衆衛生入門、健康生活看護学概論Ⅱ（集団・予防）、健康生活看護学概論Ⅲ（地域社会における多様な場の看護）	○
帝京大学（医療技術学部 看護学科）	医療社会学	医療社会学	○
帝京平成大学		薬の科学	
東京有明医療大学	臨床薬理学概論	臨床薬理学概論	○
東京医科大学	キャリアデザインⅠ（基礎）	キャリアデザインⅠ（基礎）	○
東京医療学院大学	看護倫理学（令和3年度以前カリキュラム）、看護倫理学（令和4年度以降カリキュラム）	看護倫理学（令和3年度以前カリキュラム）、看護倫理学（令和4年度以降カリキュラム）	○
東京医療保健大学（医療保健学部看護学科）	臨床薬理学	臨床薬理学	○
東京医療保健大学（看護学部看護学科）	看護政策論、医療安全学小児看護実践論、母性看護学概論、母性看護実践論、医療と法（看護関係法規）	看護政策論、医療安全学小児看護実践論、母性看護学概論、医療と法（看護関係法規）	○
東京医療保健大学（立川看護学部看護学科）	慢性期看護論、臨床薬理学演習	慢性期看護論、臨床薬理学演習	○
東京工科大学	公衆衛生学、保健指導論	公衆衛生学、保健指導論	○
東京慈恵会医科大学	看護と倫理、地域看護方法論Ⅰ	看護と倫理	○
東京純心大学	薬理学	薬理学	○
東京女子医科大学	薬理学	薬理学	○
日本赤十字看護大学	看護関係法規、公衆衛生看護活動論	看護関係法規	○
文京学院大学	看護倫理学	看護倫理学	○
神奈川工科大学	看護倫理、臨床薬理学	看護倫理	○
関東学院大学	基礎看護技術Ⅲ	基礎看護技術Ⅲ	○
国際医療福祉大学（小田原保健医療学部・看護学科）	薬理学	成人看護学方法論Ⅱ（慢性期看護）、薬理学	○
松蔭大学	薬物や放射線による人間の反応	薬物や放射線による人間の反応	○
湘南医療大学（保健医療学部看護学科）	薬と毒性学入門		
湘南医療大学（専攻科公衆衛生看護学専攻）	公衆衛生看護学Ⅱ	公衆衛生看護学Ⅱ	○
昭和大学	地域医療入門、コミュニティヘルス看護活動論、看護研究	地域医療入門、コミュニティヘルス看護活動論	○
東海大学	看護学概論、保健医療関係法規	保健医療関係法規	○
横浜創英大学	看護管理学	看護管理学	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	①	②	①② 両方を実施している
	薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
新潟医療福祉大学	診療看護論演習、臨床薬理学	診療看護論演習	○
新潟薬科大学	医療と看護の歴史	医療と看護の歴史	○
金沢医科大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
金城大学	感染防御		
佐久大学	看護リスクマネジメント	生命倫理、看護リスクマネジメント	○
長野保健医療大学	保健医療福祉行政論		
朝日大学	薬理学、病理学	薬理学	○
岐阜医療科学大学	薬学概論	薬学概論	○
中部学院大学	公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論	公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論	○
岐阜聖徳学園大学	薬理薬剤学	薬理薬剤学	○
順天堂大学（保健看護学部看護学科）	薬理学		
常葉大学	健康増進論	健康増進論	○
東都大学（沼津ヒューマンケア学部看護学科）	いのちと倫理、病態学、疾病治療論Ⅰ（呼吸・循環器系）	いのちと倫理、病態学、疾病治療論Ⅰ（呼吸・循環器系）	○
愛知医科大学	薬理学、感染看護学Ⅱ、母性看護学Ⅰ、小児看護学Ⅰ、成人看護学Ⅲ、療養生活支援論Ⅱ	感染看護学Ⅱ、成人看護学Ⅲ	○
一宮研伸大学		公衆衛生学	
金城学院大学	疫学	疫学	○
修文大学	健康危機管理論、公衆衛生学	公衆衛生学、感染看護学Ⅱ	○
中部大学	薬理学	薬理学	○
豊橋創造大学	在宅看護学原論Ⅱ	在宅看護学原論Ⅱ	○
名古屋学芸大学	医療概論、社会保障制度		
名古屋女子大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
日本赤十字豊田看護大学	微生物学	微生物学	○
日本福祉大学	成人看護学概論	成人看護学概論	○
藤田医科大学	地域・在宅看護学概論	地域・在宅看護学概論	○
鈴鹿医療科学大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
聖泉大学		人権論	

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	①	②	①② 両方を実施している
	薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
京都先端科学大学	看護治療支援技術論	看護治療支援技術論	○
京都光華女子大学	生命倫理	生命倫理	○
京都橘大学	キャリア開発演習Ⅳ	キャリア開発演習Ⅳ	○
同志社女子大学	母子保健看護概論、看護と法律	母子保健看護概論、看護と法律	○
佛教大学	慢性看護学Ⅰ	慢性看護学Ⅰ、成人看護学概論	○
明治国際医療大学	薬理学		
大阪医科薬科大学	健康科学論		
大阪成蹊大学	化学、公衆衛生看護活動論、基礎看護学方法論Ⅲ	公衆衛生看護活動論、基礎看護学方法論Ⅲ	○
大手前大学	医療関係法規	医療関係法規	○
関西医療大学	総合看護学演習	総合看護学演習	○
四天王寺大学	薬理学、在宅療養生活支援論	生活健康論	○
摂南大学	看護倫理	看護倫理	○
千里金蘭大学	臨床薬理学、共生社会と人権	臨床薬理学、共生社会と人権	○
太成学院大学	薬理学、疾病論Ⅰ、病理学、衛生・公衆衛生学	薬理学、衛生・公衆衛生学	○
宝塚大学	公衆衛生学、医療ジャーナリズム論	公衆衛生学、医療ジャーナリズム論	○
梅花女子大学	薬理学、公衆衛生看護学Ⅱ	薬理学、公衆衛生看護学Ⅱ	○
大和大学	公衆衛生学	公衆衛生学	○
大阪歯科大学	小児看護援助論	小児看護援助論	○
関西看護医療大学	薬理学Ⅰ		
関西福祉大学	薬理学		
甲南女子大学	成人看護学方法論Ⅰ	成人看護学方法論Ⅰ	○
神戸常盤大学	生命と倫理	生命と倫理	○
神戸女子大学	看護倫理、医療ケアシステム論	看護倫理	○
園田学園女子大学	看護病態学	看護病態学	○
姫路獨協大学	公衆衛生学、公衆衛生看護学概論	公衆衛生学	○
兵庫大学	薬理学、免疫・微生物学、公衆衛生学(疫学を含む)、リスクマネジメント論、看護学概論	薬理学	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	①	②	①② 両方を実施している
	薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
武庫川女子大学	看護薬理学	看護薬理学	○
兵庫医科大学	母性看護学概論	慢性看護援助論、母性看護学概論	○
畿央大学	公衆衛生学	公衆衛生学	○
天理大学	保健医療概論	保健医療概論	○
東京医療保健大学（和歌山看護学部看護学科）	看護倫理		
川崎医療福祉大学	保健指導論、健康危機管理論	保健指導論、健康危機管理論	○
吉備国際大学	成人看護学Ⅲ（がん看護）、成人看護学Ⅳ（周手術期看護）、公衆衛生看護学Ⅱ、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ（母児関係論）、母性看護学Ⅱ（援助論）	医療安全、成人看護学Ⅲ（がん看護）、成人看護学Ⅳ（周手術期看護）、公衆衛生看護学Ⅱ、精神看護学概論、精神看護学Ⅱ（援助論）、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ（母児関係論）、母性看護学Ⅱ（援助論）	○
山陽学園大学	衛生学・公衆衛生学Ⅰ、感染看護学	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	○
日本赤十字広島看護大学		日本国憲法	
広島都市学園大学	臨床薬理学	臨床薬理学	○
広島文化学園大学	病態微生物学、公衆衛生学	病態微生物学	○
安田女子大学	公衆衛生看護学、疾病論Ⅱ、疾病論Ⅲ、病理病態学、特別科目「まほろば教養ゼミ」	共通教育「人間論B」、特別科目「まほろば教養ゼミ」	○
宇部フロンティア大学	薬理・薬剤学、公衆衛生看護活動論、基礎ゼミナールⅡ（キャリアデザイン）	基礎ゼミナールⅡ（キャリアデザイン）	○
四国大学	小児看護学概論、母性看護方法論	小児看護学概論、母性看護方法論	○
徳島文理大学	薬理学、感染学、老年看護学概論	薬理学、感染学	○
聖カタリナ大学	感染管理看護論、生命倫理学、地域生活支援論、地域看護学Ⅱ	生命倫理学	○
久留米大学	生命・看護倫理	生命・看護倫理	○
国際医療福祉大学（福岡保健医療学部看護学科）	看護倫理学	看護倫理学	○
福岡国際医療福祉大学	生命倫理	生命倫理	○
産業医科大学	看護倫理学、内科系病態治療学、成人看護学方法論（慢性期）、医療社会学、感染症学	看護倫理学、健康危機管理論、医療社会学、感染症学	○
純真学園大学	臨床薬理学		
西南女学院大学	医療と倫理		
聖マリア学院大学	保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政論	○

大学名 (薬害問題に関する授業を実施している大学)	①	②	①② 両方を実施している
	薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目	被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目	
帝京大学（福岡医療技術学部・看護学科）	臨床薬理学、公衆衛生学、公衆衛生看護援助方法論		
日本赤十字九州国際看護大学	人体と薬物	人体と薬物	○
福岡看護大学	薬理学	薬理学	○
福岡大学	感染看護、薬のはたらきと薬物療法	感染看護、薬のはたらきと薬物療法	○
福岡女学院看護大学	基礎看護学方法論Ⅱ	基礎看護学方法論Ⅱ	○
令和健康科学大学	看護倫理	看護倫理	○
西九州大学	臨床薬理学、療養支援看護学方法論Ⅱ	臨床薬理学	○
活水女子大学	看護倫理、看護医療と法規	看護倫理、看護医療と法規	○
九州看護福祉大学	薬理学、感染症学、病態生理学Ⅰ	薬理学、感染症学	○
鹿児島国際大学	保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政論、健康をまもる法律	○
鹿児島純心大学	社会保障制度と健康	社会保障制度と健康	○

薬害被害者の声を直接聞く授業(特別講義など)又は特別講演等の実施状況（令和6年度 看護学部等）

▼実施学部：304学部中86学部

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につ いての授業実施におけ る効果
弘前大学	薬害防止に関する講演会 (講演テーマ:薬禍サリド マイドから学ぶ(仮))	4年次	本人	サリドマイ ド	直接被害に遭われた本人から話を聞き、医療の現場で起こりうる 「薬害リスク」を実感することで、関心を高める機会になること。	令和6年度は10月に実施予定。 過去の講演会においては、「薬害への理解を深めることができた」「医療従事者として正しい知識を身につけること、疑問点や不安点を共有しやすい職場環境というのが大事であると感じた」等の感想が寄せられている。	
秋田大学	薬理学	2年次	家族	陣痛促進 剤被害	薬害被害者の方の声を直接伺うことにより、薬害被害の背景や 問題点について正しく理解することが出来る。医療従事者として 働く上で持つべき責任感や倫理観の醸成に資する。	「医療従事者は専門知識を学んでいるが、患者の多くは専門分 野について知らないことがあるので、私たちが信頼して治療を受 けている。その信頼に反して知識不足や投与量を誤るととても ない医療事故につながる。責任をもって仕事に取り組むこと、医 療従事者内での情報共有、患者への治療や服用する薬の説明 と同意の大切さを理解できた。」「今回の講義を通して、患者さん の大切な命を預かることの責任の重さを再認識した。薬の処方 を行うのは医師であるが、実際に点滴で投与したりその経過を観 察したりするのは看護師であるため、異変に気付く力を養うと同 時に、医師の判断を過信せず何かおかしいと感じたら声をあげら れる医療従事者になりたいと思う。」といった感想があった。受講 学生には全員にレポート提出させ、その内容を講演いただいた 講師と共有している。	
山形大学	生命倫理(薬害被害者に よる特別講演会)	4年次	本人	未定	薬害被害者から、直接、自分が被った薬害の実態や今後の医療 への期待等の話を伺うことは、学生にとっては自分の今後を考 える上で貴重な機会である。	薬剤は、人間に大きな影響を与えるため、薬が承認するまでにき ちんとした過程を踏み、安全性を確認することが重要であること が分かった。 障害のある方と出会うのも一人の人間としてとらえ、相手の立場 に立って物事を考えられる医療者になりたい。 薬害において家族も被害者であるということを知った。	複数の薬害を取り上げることにより、医療の歴史について深く学ぶことができ、薬害を防止するために正しい知識や倫理観を身につけることの必要性や、薬害被害者との向き合い方を考える機会となっている。
筑波大学	看護生命倫理	1年次	本人	非加熱製 剤による HIV感染	薬害被害者の当事者の経験と、薬害訴訟についての経緯を聴く ことは非常に貴重な経験である。	非常によい。医療者を志すものとして身が引き締まるおもしろい というようなコメントを多くの学生が感想として残している。	
千葉大学	連携協働実践Ⅰ	1年次	本人	サリドマイ ド	薬害被害の当事者の経験が赤裸々に語られ、医療を受ける患者 からみた医療の問題点が学生に伝わること。 そこから、自分たちが未来の医療人としてどうあればよいかを考 える機会となること。	講師から薬害は「人が起こすものである」という結論が述べられ、 そのことを未来の医療人である学生が、自分自身の責任として 認識できていることが授業後のリフレクションシートから伺われ る。 当事者の視点から述べられた治療や検査の苦痛、無意識の偏 見などの話を聞き、「診察や治療」「医療機器の開発」「看護ケア」 「安全な創薬や調剤」など将来自分たちが担う役割に活かしたい という展望と、そのためには専門職連携が必要であるという認識 ができています。	
東京医科歯科大学	特別講義「薬害被害に関 する特別講演」(仮) ※看護学専攻においては 薬理学Ⅰ及びⅡの関連講 義として実施。	2年次	本人	未定	薬理学の授業はあるが、国家試験のための必須事項の学習が 主のため、薬害が患者の生活に及ぼす影響を学び考える時間が 不足しがちであるなか、薬害被害者の生の声を通して、看護の あり方を考える貴重な機会となる。	薬害についての意識がより一層深まったという印象。熱心に耳を 傾ける学生が殆どである。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につ いての授業実施におけ る効果
富山大学	医療学入門	1年次	本人	薬害エイ ズ	医療倫理の基本的原則を学ぶことができる。 1) 患者の立場を一般的に理解する態度を養う。無危害原則。 2) 一歩進んで、患者の悲しみを追体験し、他人の身になって考える態度を養う。善行原則。 3) 無思想性を脱却し、現代社会に対して、批判的に思考できる態度を培う。自律原則。 4) 社会正義の視野を培う。正義原則。 5) 弱者、マイノリティに対する理解。尊厳原則。 6) 友達の質問を聞いて、自分と同世代の人がいかに考えているかを学ぶ。連帯原則。	大変良い。課題としてレポートを提出させているが、それぞれが皆、薬害が起こる構造について、おおむね理解しているようだ。	
金沢大学	臨床薬学論、医薬保健学基礎Ⅱ	1年次、1 年次	家族、本 人	イレッサ、 サリドマイ ド	将来医療従事者となる立場から、薬害問題を自分自身の問題としてとらえることができる。 薬剤裁判の当事者から話を聞くことにより、紙面上(教科書上)のものではなく現実のものとして受け止めることができる。	昨年度は、医療制度や規制のあり方についても考えさせられた患者の安全を守るためには、医療機関や製薬会社、政府などが連携する必要がある、などの感想があった。	
福井大学	大学教育入門セミナー	1年次	本人	サリドマイ ド	被害者の体験談を直接聞くことによって、薬害の原因、実態、被害者やその家族に対する対応の歴史、偏見等の人権問題等について具体的に知ることができ、医療従事者として薬害問題にどう向き合うのか考察する機会を得ることができる。	「サリドマイドの薬害について聞いたことがあるくらいだったが、実際に被害にあった方の話を聞いて事態の深刻さを感じた。辛い目にあっても生きがいを見つけたたりして一生懸命生きていることを知り、感動した。自分のこれからの医療者として生きていくということを考え直す機会を与えてもらえたと感じた。患者を思う気持ちについてもう一度考えたい。」「実際に被害にあわれた方の話を聞けることはすごく貴重な機会だと思いました。最初、レジュメでサリドマイド薬害という名称を見たときは、聞いたことはあるけど、詳しくはわからない状態でした。しかし、まだ障害への理解があまり進んでいない時代に生きることの難しさをお話から感じました。人生について語っていただいた時に、想像以上に壮絶すぎて、涙が流れてきそうでした。正直なところ、薬害などは昔の話で今の時代に起きないだろうと最初は思っていました。今日のお話を聞いて、他人事ではなく、医療者を志す身としても、1人の人間としても、甘く考えてはいけなと思いました。また、医療者は病気や障害などの人生を大きく変化させてしまう出来事と関わるため、その人にしかわからない辛さもあり、簡単に言葉をかけるべきでもなく、人の人生に関わるという自覚を持つことが必要だというお話は念頭に置いておきます。このような機会がないと、あまり深く考えることができないと思うので、授業が自分の医療者としての自覚や考えを持つ良いきっかけとなりました。」等の率直な声が多く寄せられた。	
山梨大学	医療チームの中の看護 (医学科看護学科合同授業)	3年次	本人	AHF製剤 による非A 非B型肝炎 (C型肝炎 感染。輸 入血液製 剤による HIV感 染。	基本的な事柄を授業で学んだ上で当事者の声を聞くことにより、理解を深めることができる。	当事者の声を聞くことにより、薬害についてより関心を持つことができ、医療者を目指す者としては授業の内容をより深く理解していきたいと思ったなどの意見、感想があった。	「疾病・治療論3」では附属病院薬剤部で業務を担当する教員より薬剤を処方する立場から薬害についての授業を行い、「医療チームの中の看護」では薬害被害者の立場からの授業を行うことにより、薬害について複数の視点から考えるきっかけになった。

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につ いての授業実施におけ る効果
信州大学	健康科学概論	1年次	本人	薬害エイズ	●薬害に対する正しい知識が得られる。●単なる「副作用」とは異なる被害者・親族の身体・心理・社会的影響の甚大さをリアルに理解できる。●薬害が派生する背景を制度や経済などの幅広い視点から考えることができるようになる。●1年次から「薬物製剤」「薬物療法」等の背景にある社会的課題を視野にいれながら学ぶことができる。	●代表的な反応・感想を列記する:「薬害は医薬品の不完全性によってもたらされ、将来的にそれを扱う医療従事者になる者として、真剣に考えていくべき問題だと思った。」「今まで、薬害を各種感染症に比べて軽く考えていたが、薬害はその人の一生を狂わせてしまう可能性もあると知り、看護師としてどのように患者に寄り添うべきか考えさせられた。」「薬害エイズに関しては、調査や報道によって患者の人権が侵される例もあったため、薬害について正しい知識を得ながら、患者・家族の人権を守っていくことについても考えていきたい。」「薬害とは何かについてあまり知らなかったがよくわかった。」「薬害は通常の副作用ではないこと、薬は服用者自身が命をとして育てているものであることなど、新しく知ったことが多かった。」「特にHIV感染については治療薬等の向上により感染しにくくなっていると聞いてとても驚いた。」「エイズやその他薬害による病気について医療にかかわっていくものとして知識と理解を持ち、差別やそれに関する裁判等が起こらないようになるといいと強く感じた。」など。	複数の種類の薬害については実施していない(「薬害エイズ」以外の「サリドマイド薬害」「薬害スモン」「薬害ヤコブ病」などの薬害の歴史の経緯の説明のみ)。
岐阜大学	医学概論	1年次	本人	サリドマイド	薬害の歴史や行政の対応、社会的偏見に対する知見を深めることができる。学生の医療に対する真摯な気持ちを喚起することができる。医療従事者を志す者として心構えを学ぶことができる。	実際の薬害被害者からの声を聴くことができ、心が痛むと同時に学ぶことが多かったと、学生からは高評価である。	
浜松医科大学	医療概論	1年次、 編入3年 次	本人	HIV	薬害被害者の声を直接聞くことによって、看護師となるうえでの心構えを学ぶ機会となった。実際に受けた差別や偏見がどのようなものか実感できた。	・私たちが目指す医療者は、このような歴史を振り返り、そこでの教訓を忘れないこと、薬について正しい知識をもち、患者に薬について十分な説明をしたうえで、患者が自分の治療を自由に選択できるような関わり・支援を大切にすることが必要であると思いました。 ・医療従事者として、薬剤について患者さんに適切な知識を提供する役割をしっかりと果たさなければならないと感じた。 ・ずっと病気とともに生きていかなければいけない人は、治療も続けており、その副作用によって体調が悪かったりすると思うので、看護師として身体的にも精神的にも支えられるように勉強していきたいと思った。	今年は、HIV薬害であり、今まではワクチンや肝炎についても被害者をお招きしてお話を聞いてきた。一度に多くの方からお話を聞く機会はあまりなく、いろいろな被害があることを認識するためには効果的かもしれない。
滋賀医科大学	保健医療行政論	2年次	本人	血友病患者への血液製剤による薬害 サリドマイド薬害、ソリブジン薬害、陣痛促進剤薬害、スモン	学生は、血友病、血液製剤や薬害エイズといった単語について、新聞、テレビ等の報道によりキーワード的な知識としては知っているが、それらがどのような病気なのか、どのように感染するのか、生活していくうえでどのような支障があるのか、社会の人々はどのように受け入れているのか等、深く掘り下げて知識を得る機会はなかった。しかし、実際の薬害被害者の生の声による特別講義を実施することで、学生は薬害問題について自ら考える機会を得ることができ、将来看護師として医療に携わることを想定すると有意義である。 また同時に薬害エイズについては血友病治療の医療技術革新の過程で生じていることや、新たに認可された薬剤も販売後に初めて新たに見つかる問題があることを学んでいた。 さらに看護職に引き寄せて薬害問題の再発予防策を考えるにあたって、薬剤の添付文書に目を通すことや、患者の訴えと文書情報を照合して問題がないかを確認するなど、育薬についても考えることができていたことは評価できる。	特別講義後の学生へのアンケートにおいては、「医療人を目指す者としての自覚が深まった」、「薬の副作用について、再考するきっかけとなった」、「薬害問題についてさらに深く知ろうという意識が芽生えた」等、真摯な姿勢による感想が多く、本学としては、当該特別講義の実施が学生にとって極めて有意義なものであったと理解できる状況である。	
神戸大学	初期体験実習	1年次	本人	サリドマイド被害	入学後の早い時期に薬害被害者の講演を聴くことにより、薬害そのものや薬害被害者が置かれる社会的状況に関する知識を深め、医療関係者になる者としての責任と課題意識をもって今後の勉学に臨めるようになることが期待される。	初期体験実習 学生からは、医療関係者になる者としての責任と課題意識をもったとの回答が多く寄せられた	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につ いての授業実施におけ る効果
鳥取大学	公衆衛生看護学Ⅱ	4年次	本人	イレッサ訴訟、サリド マイド事 件、スモン 事件、血 友病、薬 害HIV訴訟	薬害の歴史、訴訟の経過、当事者の生の声を聴くことができ、被害者の置かれた状況を具体的に知ることができる。 看護者としての態度、行動を考えることができる。	薬害被害者の思い、薬害が被害者の生活等にどのように影響を与えたか理解できた。患者に対する偏見、差別を実感した。看護職、医療職の態度、行動を考えた。	薬害は一つではないことを理解できる。それぞれに歴史があるが、薬害の起きた本質には共通点のあることを理解できる。
広島大学	周産期健康障害看護	2年次	本人	陣痛促進 剤	医療事故の重大性とその回避法について、患者の立場による捉え方を学習できる。 また、医療事故の解決を個人的な問題としてのみ捉えるのではなく、広く社会の問題として捉え、医療事故予防の政策反映を踏まえた活動について、その重要性を学習できる。	【学生の感想より一部抜粋】 ・陣痛促進剤によってお子さんを亡くされたお話しはとても聞いていてつらかったです。力強く一つ一つの言葉が私に訴えかけているようで、とても話に夢中になってしまいました。ニュースでは取り上げられないような陣痛促進剤による被害は、私は今回初めて知りました。これからもそのようなことがあったということをたくさん広めていただきたいと思います。改めて、看護師として働く責任や、医師とのかかわり方を考えさせられる講義でした。 ・教科書でもたった1ページに書かれている子宮破裂について、も、これほど深く悲しい事故があるということを知りました。教科書で学び考えるだけでは不十分だったため、今日のお話を聞くことができて良かったと感じました。 ・体験談として聞くのと凄く生々しくて聞くだけでつらかったです。凄く、この出来事をあいまいにされたような感じで、当事者にとっては非常に辛いことだと思いました。確かに、聞いても起こったことは変わらないけれど、この出来事から学ぶということは大切だと感じました。 ・陣痛促進剤にまつわる医療過誤によって多くの母子の命が奪われてきたという事実衝撃を受けました。 ・子宮収縮薬の事故のお話をしてくださるとのことで子宮収縮薬にはどうしてもリスクがつきもので残念ながら事故が起こってしまうケースもあるのかと思っていましたが、お話を聞いていくと学会のガイドラインには薬の添付文書に記載された用法・用量と大きく異なっていたことが記載されていて、医療者側に非があったということに驚きました。 ・前回の講義で遅発一過性徐脈についての胎児心拍基線の読み方を学んだが、当時の周りの看護師がこれを判断することができたら、薬の知識があり医師に訴えることができたらなど看護師にもできることは山ほどあったのではないかと感じた。そのような専門知識を持っていないことによる事故だけでなく、当事者の気持ちに寄り添うこともしないで、今学んでいる看護の在り方とはかけ離れた現場もあるのだということを学んだ。 ・陣痛促進剤による事故の例を読ませていただいて、こんなにも杜撰なお産があるのかと思いました。人の命を預かる医師行為としては考えられないと思いました。今の時代では、インフォームドコンセントが勧められていると学習しましたが、2016年の事例でも記載されていたため驚きました。医療事故を起こしてしまっても、医師免許を剥奪されることはなく、2度目の事故を起こしてしまうと知り、一度ミスをしてしまったとしても人の命を預かる仕事を続けることができることに驚きましたし、そのような人に自分の命や大切な人の命を預けることになってしまうかもしれないと考えると、とても怖いと思いました。など	
徳島大学	薬害講演	3年次	本人及び 家族	B型肝炎	薬害講演やB型肝炎の講演を聴き、総合討論を行うことで、生命の尊さを自覚させ、医療事故防止の重要性を認識させる。	例年、多くの学生が現実の身近な問題として考える機会をもち、薬害の実態を正しく理解することの重要性についての前向きな感想を述べている。	
香川大学	薬害被害者の声を聴く特別講義	4	本人	サリドマイ ド	薬害被害者の生の声を聞くことは、通常の講義とは違った角度から学びを深めることができる。また、近い将来看護師となった際の責任の重大さ、患者との関わり方などを改めて考えさせる貴重な機会となっている。	【薬害被害者の声を聴く特別講義】 ・誰でも手に入れることが可能な市販薬で発生した被害の裏側に多くの人々の目をかいぐって販売されていた薬であった事実に驚いた。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につ いての授業実施におけ る効果
愛媛大学	医療被害と看護	4年次	本人	O型肝炎			
九州大学	医療系統合教育科目「薬害」	3・4年次	本人	サリドマイド、エイズ、ヤコブ病、肝炎	薬害の多さ、薬害の歴史的背景、過ちを繰り返さないための正しい情報提供に関するシステムと限界などについて学ぶことができる。被害者本人の生の声、苦しみ、実際に受けた差別の話等を聞く事によって、薬害の真の意味の重大さを知ることができる。	被害者の実際の声を聞いて、より具体的に薬害について学び、理解が深まったという声が多かった。過去の薬害では、国の対応の遅れ、医師や製薬会社の無責任な対応、製薬会社の利益追求が原因—警告や危険情報に対する行動の遅れが問題であったことを学んだ。医療従事者は加害者にも、被害者にもなりうる。薬物は、医師・歯科医師→薬剤師→看護師とくると、もし疑問を感じたら、確認して与薬することが必要で、良いコミュニケーションをとることが必要だと感じた。企業や行政の責任が大きい、私たちが医療従事者が「最後の砦」となる覚悟を持つ必要がある。他学部(医・歯・薬)の学生と同じテーマで話すことができた。薬害を防ぐためには「幾重ものバリア」が必要で、防げる可能性がある。医師、歯科医師、薬剤師、看護師、自分の仕事はこれだけとせずに、重なる部分も自分の仕事と思ってバリアを厚くすることが薬害防止につながる。今後も医療従事者の継続的な学習が必要である。	それぞれの薬害の発生の背景、発生時の状況や対応の違い等があるため、薬害に対する理解や見識をより広めることができる。
佐賀大学	コミュニケーション論	1年次	本人	サリドマイド	薬害被害を受けた方からの視点や立場からの講演を行っていたことにより、広い視野からの「薬」や「医療」に関する認識を深めるとともに、薬害被害の現状に接することができる。	薬害についてあまり詳しく知らなかったため、私たちの身近に薬害があることに恐怖を感じた。実際に薬害被害者の方の講演を聞くことができ、考えが広まった。「薬害」があることは知っていたが、どのような薬、症状が出るかは分かっていなかった。薬害は正しい知識を身につけることで防ぐことができるので、これから被害者を増やさないためにも薬害について教育をするべきであると感じた。	
熊本大学	薬害被害講演会【特別講演会】	3年次	本人	フィブリノゲン	薬害被害の実態、被害者がどのような思いで日々を生きてこれたのか、また医療施策の問題点について理解を深めることができる。	薬害被害の存在を知ることができた、医療者としてどうすべきかを考えるきっかけとなった、との意見があった。	
札幌医科大学	社会と健康史	2年次	本人	薬害エイズ、ワクチン被害	「社会と健康史」において、薬害被害者とその家族から直接的に体験を聴かせていただくことで、被害者やその家族に対する理解を深め、薬害が起らない社会を目指してできることを考えるきっかけとなる。	「社会と健康史」において、講師の情報提供に影響を受けて、学生が「予防接種を控えようと思う」等、健康行動に影響をきたす感想があった。	
東京都立大学	慢性期看護学演習	3年次	本人	・「薬害肝炎」(フィブリノゲン等の血液製剤) ・「輸血による感染」	特別講義終了後に以下の項目①②に関してリアクションペーパーの提出を学生に求めた(①看護職としての役割について考えたこと、②当事者への偏見・差別、改善点として考えられること)。以下、メリットについて述べる。当事者の経験からの発言、罹患、告知、当時の思いやその後の活動・運動・訴訟に関して語っていただくことで、事実をリアルに受け取り、現存する課題があることの実態を如実に知ることができる点が有意義であると考えた。また、受講生にとって、昨今のコロナ禍で医療施設で実施する対面実習から学内実習に切り替わっていることが多い中、罹患、告知された当事者から、これまでの経緯、置かれている状況と課題について生の声を通して知ること、当事者理解、患者理解につながる学習の一端である。また、メディアに登場しない事実を知る機会にもなり、今後医療専門職として真実をみる目、意識を養う機会になっている。	リアクションペーパーには、B型・C型肝炎についての偏見・差別、医療者の基本的知識の習得の重要性、患者会の活動、訴訟に関しての専門職同士と当事者との連携、さまざまな角度からの感想が記されていた。実際の学生の声の一例を紹介する。「正確な知識、技術をもつことはもちろん、患者さんの人生・生活・大事にしていることにまで目を向けて、不安に思っていることはないか聞く姿勢が大事だと思いました。」「B型肝炎やC型肝炎は、テレビCMや新聞で目にすることが多いです。しかし、当事者のお話でなければ、偏見やどのような苦しみがあるのか実際に理解するのは困難だと思いました。私自身も今回のお話を聞くまでは、C型肝炎が患者や家族に与える影響が、これほど大きいもののだとは思いませんでした。今はネット環境が整っており、情報を得ることは簡単にできます。しかし、その前提として、まずはC型肝炎に興味を持ってもらうことが重要なのかなと思いました。」「(個人が特定できないよう一部改変)	
福井県立大学	臨床病態学Ⅱ	1年次	本人	集団接種によるB型肝炎	学生が薬害被害者本人より生の声を聴くことにより、薬害に関して身近なものとしてとらえ、理解を深めることができる。	授業後のアンケート結果からも強い関心を示していた。	臨床薬理学では薬害一般の歴史や補償について扱っている。

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につ いての授業実施におけ る効果
名古屋市立大学	疫学・保健統計学Ⅰ	1	本人	薬害エイズ	薬害当事者からの講義を受けることで、今後医療者になるものが、自身も薬害の加害者にも被害者にもなる可能性があることを、身をもって学ぶことができる。また薬害被害にあい、希望通りの人生ではなくなったかもしれない当事者の語りを聞くことで、薬は間違えて使われることで、人生を大きく変える影響があること、医療者は人に大きな影響を与えうる存在であることを深く考えることができる。また薬害発生の過程や社会的な動き等を学ぶことを通じ、今後、同様の被害が起こらない社会の仕組みの在り方等を考えることができる。	学生の反応はよく、特に当事者スピーカーからのリアルな声を本人から、目の前にて聞くことができるのは、大きな学びとなるとの声が多い。また質疑応答の時間を設けるとさらに、学びが深まるとの声があった。医療は過去の失敗から、多くの人の犠牲に成り立つことを学べたとのこと、また医療保険従事者は、常に患者から学び続けなければならないとの声も多い。	
大阪公立大学	看護学概論	1年次	本人	HIV/AIDS	卒業後必ずしも出会う機会が多くない薬害被害者から直接講義を受ける意義は、薬害が他人事や単に新聞の世界の話ではなく、薬害やそれに伴って生じた感染症を身近に感じ取ることができる。また、当事者からの声が心によく残り、本学の卒業生には行政や公衆衛生に関わる者も多いので、将来の行政能力の向上にも貢献できていると考える。	対面授業であり、当事者の思いが伝わったとの感想がみられた。薬害が単に薬の特性によるものばかりでなく、人間の行動や政策、政治・企業・医療従事者の腐敗によっても引き起こされる点を指摘する学生や、薬害を身近に感じ看護職としてどうあるべきかを考える学生が多かった。また、講義後のレポートでは、他の薬害にも関心を向けて調べる学生もいた。新型コロナ感染とも関連付け、差別の問題を考える学生もいた。今年度は授業終了時に講演者への感想や質問等を行う時間を設けクラス全体で共有した。また、講演者の「看護学生へのメッセージ」に対して、「看護職として社会(社会的に弱い人立場にある々)に貢献できる人材になりたい」との感想が多かった。	
和歌山県立医科大学	ケアマインド教育	1	本人	B型肝炎	薬害問題の現状と現在の対応等について、患者の視点から考える良い機会である。	講義受講前はほとんどの学生が、病気や被害者について知識のない状態であるが、講義後は医療従事者として、病気に対する正しい知識、患者や患者家族に接する際の態度や言動を身につけていきたいなど、学生の意識が高まっている。	
周南公立大学	看護学概論	1年次	本人	HIV/AIDS、C型肝炎	薬害被害者から直接講義を受ける意義は、薬害やそれに伴って生じた人生への影響を身近に感じ取ることができる。また、当事者からの声が心によく残り、看護職として薬害当事者にどう向き合うかの基本的態度の育成につながる。	「血友病やHIVに感染した人のお声を聞くことが普段なかったのでも心に刺さりました。当時の様子やご本人のこれまでの聞かせて頂いて、感染症に対する意識や対策の生々しい歴史をされました。それでもまだ誤った認識が残っており、これから看護師になる私たちにがそれらの改善をして行けたらいいと思いました。」「今までは言葉でしか聞いたことのなかった病気を実際の患者さんの話を聞くことで、すごくリアルに感じて、感情が揺さぶられる話で、このような機会があってよかったと思う。とても大変な苦労をされてきていることを知ると、とても考えさせられて、看護する立場に簡単な気持ちでなれないなと思い、気が引き締まった。」など薬害を身近に感じ看護職としてどうあるべきかを考える学生が多かった。	
高知県立大学	グローバル社会と看護Ⅰ	1年次	本人	薬害エイズ・C型肝炎	グローバル社会と看護Ⅰ：薬害というと、とかく被害者・家族の感情的な面が強調されるが、薬害をグローバル化との関連で取り上げることによって、事実を客観的に、分析的に学習することができ、多くの学生が抵抗なく学習できる。	グローバル社会と看護Ⅰ：事実として何が起こったかをあらたに学び、事件についての興味をもったとの感想が目立つ。薬害被害者本人が対面で講義を行った回では、被害者の心情を思いやる記述が増加した。	グローバル社会と看護Ⅰ：薬害エイズとC型肝炎について紹介しているが、感染症の病態および課題の複雑さ、広さを学習する機会となっている。
福岡県立大学	看護倫理学	2年次	本人	サリドマイド	実際に存在した薬害を実態を知ること、情報を論理的に理解し適切な判断を行うことで薬害を防ぐ、薬害被害に会った人の人権を守ることができると考えています。		

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につ いての授業実施におけ る効果
宮崎県立看護大学	人権論、人間常態学I-3	1年次、 4年次	本人、本 人	肝炎、肝 炎	学生が薬害に実際に会われた被害者の方の話を聞くことで医療者としてのあるべき姿について考え、薬害被害者の人生とその心身、人権について学ぶ貴重な機会と考える。	昨年度の学生の反応の抜粋であるが、「薬害による被害がおきないように、自分の行う一つ一つの行為に責任をもつことが大切であると感じた。また、薬害被害によって今も苦しんでいる人たちが多くいる。その方たちに寄り添い、心の支えになるような看護師でありたいと思った。」や「裁判が終わって、謝罪と支援金を貰えたとしても病気で苦しんだ時間は返ってこず、これからも病気と付き合っていかなければならない人がいるということを医療者として知っておかなければならないと思った。また、医療は時代と共に進化しているが、患者さんの健康だけでなく人生を奪ってしまう可能性がある」と学んだ。」など多くの感想があった。	
日本赤十字北海道看護大学	成人慢性看護学演習	2年次	本人	B型肝炎	薬害被害者の声を直接聞くことは、薬害被害者に関する正しい知識教育をするうえで大変有意義である。	今年度はこれから実施予定であるが、昨年度の実施においては活発なグループディスカッションができ、薬害被害に関する学生の理解を深めることができた。	
北海道医療大学	医療概論	1年次	本人	薬害エイ ズ	薬害HIV感染被害者の方に直接話していただくことで、薬害問題が誰の身にも起こりうる身近な問題であるのだと知り、予期せぬ医療上の問題が起こったときに医療者や行政を含めた関係者が速やかに誠実に対応していくことが何よりも重要であることを実感できるのが最大のメリットです。また、薬害HIVを知らない学生が半数を超えてきており、当事者にお話をしていただくと、問題が風化しないよう次世代に語り継ぐのに非常に有効だと思います。さらに、専門科目に入る前の低学年向けに授業を行っているのですが、HIV・エイズについて感染ルートなどを知らない学生も年々増えており、性感染症に関して学ぼうとする契機にもなっているようです。	同一講義内の他の回と比較し、集中して聴いています。また、学生からは薬害について知らなかった、感銘を受けた等、大きな反響があります。	
岩手医科大学	看護学概論 (全人的医療基礎講義含む)	1年次	本人	薬害エイ ズ	看護学概論:薬学エイズの被害者の実体験を聴くことができる。	看護学概論:医療従事者は患者に薬の有効性や副作用に関して十分に説明を行い、薬の処方後も患者の状態を観察する責任があると感じた。また、薬に関しての説明を怠らないことで患者の不安を軽減し、精神的な面のケアも徹底することが重要であると考えた。そして薬を使用する側も、どのような効果や副作用があるのか、薬に関して知ろうとする姿勢が大事であると思った。	
茨城キリスト教大学	生と死の倫理	4年次	本人	サリドマイ ド	当事者の声を聴くことで、当事者の言葉でしか語り得ない経験や苦悩を知ることができる。	具体的な体験に基づく話を聴くことで、当事者の苦悩に関する理解が深まるほか、この問題に対する関心を持つ学生も多くみられている。	
常磐大学	母性看護援助	3年次	本人	サリドマイ ド薬害	看護職として、薬害被害に関する理解を深め、被害を受けた方々に寄り添う態度を養い、また薬害防止策や安全な薬剤使用を行うための責務と行動について考察する機会となる。	・義務教育で戦争、公害、薬物乱用については習ったが、薬害について習っていない(習った記憶がない)。講義前は他人事のようにニュースを見ていたが、市販薬の薬害であるサリドマイドの講義を聞き、薬害に対する認識が変わった。 ・薬害の原因は薬ではなく「人」であることから、薬を扱う人、薬を利用する人など、薬に関わるすべての人が安全を第一に考え、薬を安心して服用できるようにすることが大切だと学んだ。 ・看護職となるうえで、薬剤や薬害に関する知識を深め、患者に正しい情報を伝えることや患者が知る権利の重要性について考えた。	
獨協医科大学	生命倫理学	1年次 (令和5 年度入 学生ま では 2年次)	本人	サリドマイ ド薬害	学生には遠い話題となったサリドマイド事件の被害者の話を直接聞くことで、薬害の恐ろしさと看護専門職者としての責任を痛感する機会となっている。		
埼玉医科大学	病むことの心理	2年次	家族	イレッサを 中心に、我 が国にお ける主な 薬害被害 。	当事者の方から直接、話を伺うことは、学生にとって極めて貴重な機会です。	学生はあらかじめ予習をして講義に臨み、講義後、講師へ質問をしています。翌週のグループワークでは、各グループそれぞれ、テーマを定めてディスカッションをしてPPTにまとめ、翌々週、全体発表と共有をします。グループのテーマは多様であり、学生たちが様々な視点から講義を受け止めていることがわかります。また、看護職として薬物療法を行う患者とどのように関わっていくか、ということも考えることができています。	薬害被害者のお話を伺い、学生間のディスカッションを通して、病むことの心理についての理解を深め、看護者としての自らの課題を見出す

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につ いての授業実施におけ る効果
大東文化大学	Daito 'Green' Ceremony -Reflection on a Nursing Journey-	3年次	本人	サリドマイ ド薬害被害	1. 薬害被害の歴史的事実を知り、看護職者として薬害被害再発 防止(医療安全)のために必要なこと学ぶことができる。特に、薬 物に関する知識の必要性、安全な薬物療法実施のための技術、 薬物療法を対象者へ説明できる必要性について学習できる。 2. 薬害被害者の声を直接聴き、病気や身体・精神・社会的な生 活上の苦痛について、認知的・情意的に共感できる能力を養うこ とができる。 3. 後遺症がもたらす日常生活への影響とその支援のあり方につ いて、看護職を目指すものとして学ぶことができる。 4. 薬害被害者や弁護士からの声を聴き、偏見や差別の実態と 権利擁護の実際と重要性について具体的に学ぶことができる。	サリドマイド薬害被害については授業でも学修していて簡単では あるが知っていた。しかし歴史的な経緯などを講演で知り、薬が 原因ではなく製薬会社や国の利益至上主義(人)によってもたら された薬害被害であることに衝撃を覚えた。薬害被害はその人 の人生だけでなくその家族を含めて大きな影響を受けることを講 演者の体験を聞いて痛感した。また奇形や障害がある人に対し て、自然と可哀想と決めつけること良くないことであり、相手をしっ かりと理解するためにコミュニケーションをとる大切さを改めて学 ぶことができた。これらの講話は障害をもつ人々への対応の仕 方や看護者としての倫理について考察する機会となった。	複数の種類の薬害を テーマとすることで、薬 害問題の多様性につい て理解を深めることがで きる。 薬害の歴史を多面的に 学修できることから、医 療従事者を目指す者とし て、薬害再発防止、薬 害被害によるスティグマ や権利擁護などの意識 をより高めることができ ると考えられる。
日本医療科学大学	臨床薬理学	1年次	本人	サリドマイ ド剤被害	日本における薬害の歴史などを、学ぶことが出来る。また、薬害 被害の当事者より直接話を聞くことにより、被害者の置かれた立 場や心理を共感的に理解できる機会となる。	単なる同情ではなく当事者自身の強さを知ることができた。薬害 を根絶することの重要性を考えるきっかけとなった。人間にとつ ての「しあわせ」を考えるきっかけとなった。	講師が日本における薬 害の歴史を含めて講演 されており、薬害根絶に 向けた患者組織につい ても、学ぶ機会となっ ている。
目白大学	総合看護学セミナー	4	本人	サリドマイ ド・C型肝炎	当事者の体験談を直接聴くことにより薬害被害の重大さを強く認 識し薬害防止に向けた取り組みを通して、将来看護職として働く うえで自分たちの役割を考えることができる。	授業後のアンケートでは、体験談を直接聴くことで、薬害につ いての知識にとどまらず、医療者の為すべきこと、そもそもの人とし ての在り方、薬害教育の在り方など学生は多くのことを深く考え ることができたと回答していました。対象が4年次生でしたが、後 輩たちにも聞かせてあげたいという意見も出ていました。	
城西国際大学	“公衆衛生看護学概論 (薬害エイズ事件の被害と 現在、今後の課題～薬害 エイズ事件を教訓に、二 度と薬害を繰り返さないた めに～)”	2年次	本人	非加熱製 剤使用に よる薬害 HIV	患者本人から生の声を聴く機会は多くないので、患者の立場で 考える機会が出来ることは、看護職者の学びにおいてとても有意 義である。 薬害エイズのことを知らなかった、言葉として知っていてもこれほ どひどいとは知らなかったと言う学生が多く、薬害エイズについて 学べる良い機会であった。	公衆衛生看護学概論の患者講演会 薬害エイズについて学べてよかった。薬害エイズについて知ること ができてよかった。今回のような機会がなければ、被害者が現在 どのような生活を送っているのかを想像すらできていなかった と思います。国によってタイムラグがあることに驚きました。。ド ラッグラグにより治療が間に合わないことや、はじめに受けた説 明より入院期間が長引き、仕事や私生活に影響が出たことなど に驚いた。看護学生として自分ならどう対応するか考えることが できた。HIVの薬害があったことは知ってはいたが亡くなった人も 多くいたという事実には驚いた。血友病を持っていると、手術の時に も出血への配慮が必要で緊急時はとても大変なのだと分かつ た。社会からだけでなく医療者からの差別もあったと具体例を聞 いて本来患者を守る立場にいるはずの医療者が差別をしていた ことは信じられない。情報開示の大切さを感じた。HIV患者がどれ だけ人権がないように扱われてきたことは知っていたけれど、週 刊誌に顔が出てしまうなど自分が思っていたよりずっと酷いもの で衝撃を受けた。私たちは理解と共感を持って、HIV患者やその 周りの人々を支援することが重要だと思います。	薬害を防ぐための医療 従事者の役割を、繰り 返し考えることが可能に なる。
東京医療保健大学 (千葉看護学部看護 学科)	臨床薬理学	2年次	本人	サリドマイ ド	授業担当講師は、6年目の担当であり、当事者としての視点だけ でなく、歴史的背景を踏まえた事実の説明が丁寧である。 それに加え、当事者および親族関係者の生き様が語られ、単 に、薬害の再発予防にむけた切実な思いのみならず、学生に、 看護専門職となることへの自覚を促す内容となっている。	事前の資料・生活の様子に関する動画視聴を経て、上肢短縮の あるご本人が、障がいの者仕様の車で来校し、下肢で顔の汗をぬ ぐう姿もオープンにし、かつ、直接学生に語り掛けるように講演を してくださった。 学生は、講師の熱意に引き込まれ、全員が講師をみつめて、集 中力高く受講していた。授業後のレポートでは、薬害そのものを もっと深く知ろうとする記述や、講師の生き様に触れたことで得ら れた自分の人生の苦悩への示唆もあり、さらに、薬害をもたらず 側になったり、早期発見する上での看護専門職としての責任を考 えたなどの記載が豊富にあった。	
和洋女子大学	成人看護援助論Ⅱ(慢性 期看護)	2年次	本人	C型肝炎	薬害被害の歴史を含めた現状を知ること、また、当事者の体験 を聞くことにより、薬害そのものへの興味関心が高まるとともに、 患者の心情などへの理解も深まる	昨年度実施した際、学生には受講後に課題レポートを課している が、多くの学生が心が揺さぶられた内容や医療に対して、また、 病の中で生きることについて等の感想や意見を寄せていた。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につ いての授業実施におけ る効果
共立女子大学	ヘルスアセスメント論	1年次	本人	輸入非加 熱血液凝 固因子製 剤	当事者の方に直接お話を聞きすることができるため、患者(当事者)の視点を疑似体験でき、よりリアルに捉えることができていた。入院歴が長い、医療従事者への患者側からの意見や感想もお話していただき、学生の持つ看護へのイメージが良い方向に変化している。 講師の先生が非常に熱心で、事前に血友病に関する調べ学習を課し、事後に感想のレポートを課しているが、すべて目を通してコメントやフィードバックをしてくださっている。	講師の体験をお聞きすることで、薬害問題に対する興味を持ち、自己学習をするようになったり、内容に感動をしてよい看護が実践できるように学習に取り組みたいといったモチベーションの向上につながっている。	
駒沢女子大学	薬害問題を語る(特別講演・4年次生参加必須)	4年次	本人	サリドマイ ド	通常の授業では、薬害当事者からお話を伺う機会はほとんどないのが現状の為、看護職を目指す者として薬害とは何かを理解する貴重な体験となっている。特に、安易に薬を服用することで、自分だけではなく子どもに影響を及ぼしてしまう怖さと悲しみを知り得たことは、将来、妊娠をする可能性がある女性として、また妊婦に関わるかもしれない看護職として、薬害は副作用ではなく人災であること、そして、障害があることで当事者の方が受けた差別や偏見の中で、「生きたいように生きてきた」と元気に明るく話される姿に「障害とともに生きること」の意味を考え、出来ないことが不幸ではないことを認識する重要な機会となっている。 また、4年生前期の時期に実施したことから、看護を目指す者として、「患者中心の看護とは」、「寄り添うとは」、「医療者の正義とは」等、統合実習を行う前に自身の看護観を見つめる絶好の機会となり、非常に有意義な授業になっていると考える。	【学生の感想】 薬害は人ごとのように感じたけれど、実際は薬害を受けた本人だけではなく家族の苦痛も一生続くことを今回の講義で学んだ。困ったことがあっても、自分なりに工夫して前向きに生活していきいと思った。 ただ優しくしないとってという思いで手伝わなくても相手にとっては嫌なことになるとわかった。私自身も患者の立場になり、考えられるように気持ちを考えながら医療者として考えていきたいと考える。薬害の正しい知識や私たちに出来ること、自分が日常生活でサポートに関してなど、より自分の知識を身につけて、サポートしたいと強く思いました。 薬害の恐ろしさ、厚生省が早期に対応しなかったことによってより多くの被害となってしまったことを知り、改めて薬について考えることができました。ありがとうございました。 薬害による様々な影響を学び世界の現状を考えることが出来た時間でした。講師の方のお母様は、服用した薬によって自分に責任があると思いついて人生を送られていたと聞いた時、全ては商品開発陣の責任なのに辛い思いをされて大変だったと察します。それでも、自分の人生を自分らしく生きておられる講師の存在は、とても頼もしく有難いものであったと想像がつかない。前を向いて突き進む講師をととても尊敬します。それと同時に、人に迷惑をかけないように生活を送られている事を聞いて、世界の現状の無力さを感じました。なぜ、障害があるだけで我慢をしながら生きなければならないのか。もっと人に興味関心を持って、自分だったらどうしてもらえれば薬に生活を送ることが出来るのかを、一人一人が考えて行動に移すことができたらいと思えます。また、講師の方や同じような障害を持つ方々が自分の人生を謳歌できるように、日本や世界がもっと薬害や障害をもつ方の生活について考える機会が増えたらいいなと思いました。 今日の講義を聞いて、はっとする場面が何度もありました。今日の気づきを持ちながら、医療職者として成長していきたいと感じます。有難うございました。 薬害により苦しんでいる人が沢山いるということを初めて知りとても衝撃的でした。また、動画で工夫しながら生活されている様子や、日常生活の話を直接お聞きすることができ、とても学びになりました。 薬害により影響を受けた方のお話を聞いて、元々身体障がいのある方は日常生活が大変そうだな、楽しく幸せに暮らせているのかなと思っていましたが、お話をきいて、不自由でも自分が幸せだと思える方法で生きていくという言葉や、みんながみんな不幸だと思っているのではなく、幸せに明るく生きている人もいますということを知ることができた。 薬害によって自身の身体に障害を持っていても、常に前向きに生き日々生活をされている講師のお話にとっても感動しました。 薬害について詳しく知らなかったが、悪いものだと分かりながら提供してしまうことで被害者の人生につながり、影響してくるため、副作用と薬害の違いを理解することができた。など (個人が特定できないよう一部改変)	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につ いての授業実施におけ る効果
帝京大学	ライフデザイン演習Ⅲ 「看護の対象者の理解」	3年次	本人	スティーブ ンス・ジョ ンソン症候 群	学生が講師の闘病体験を実際に聞くことにより、SJSの症状の重篤さや深刻さを実感することができ、薬害が生活や人生に及ぼす影響をより深く考えることができている。	授業後のレポートの記述では、「身近な薬により講師の生活や人生が一変してしまったことに衝撃を受けた」など、薬害が及ぼす影響の大きさを実感していた。 また、講師の入院中の体験談から、看護師として患者の思いを傾聴し寄り添うことの大切さを学んでいた。 講演後のグループ討議では、看護師の役割として、患者に投与されている薬剤の副作用の知識を持ち症状の早期発見に努めることや医薬品副作用被害救済制度など利用可能な社会資源を患者・家族に情報提供することなどが挙げられていた。	
帝京科学大学	基礎看護技術Ⅲ(診療の補助技術)	2年次	本人	スティーブ ンス・ジョ ンソン症候 群	薬物療法の援助の授業開始のタイミングで講義を計画しているため、薬物療法の安全について受ける側と提供する側、両方の立場になってこの問題を考える機会となっている。 当事者から講演いただくことで、学生に直接的に薬害の状況や当事者の想いが伝わる。また医療従事者へ求められること、学生自身も被害者となりうることなど、身近な問題として捉えられている。	昨年度の授業を受けた学生の感想 ・市販薬の使い方(添付文書を読んでいなかった)や、友人や家族との薬の貸し借りなど、これまでの自分の薬の使い方を見直す機会になった。 ・副作用被害の救済制度を知らなかったため、講義で学ぶことが出来て良かった。患者さんが被害にあってしまった時は、患者の理解や心のケアをしっかりと行うことや、救済制度を広めることも大切な役割だと思った。	
東京有明医療大学	入門ゼミナール、基礎ゼミナール	1年次、2年次	本人、本人	薬害エイズ、薬害エイズ	【入門ゼミナール・基礎ゼミナール(合同実施)】 ・被害の実態や偏見等について被害者自身から直接伺うことにより、被害者の気持ちに寄り添うことができる。 ・教科書や座学で得られる知識ではなく、生きた学びの機会として重要である。 ・看護師を目指す者としての医療倫理について考えさせることができる。	【入門ゼミナール】【基礎ゼミナール(合同実施)】 多くの学生が薬害エイズ問題の知識を習得するとともに、被害者本人の声を直接聞くことによって被害者の痛みや苦しみに共感したことが伺えた。自身が将来の医療者となることを意識して被害問題を考える機会となったようである。 社会からの偏見はもちろん、医師や看護師などの医療従事者の差別的な対応には特に被害者が傷つくといった話を受け、講義後に行ったアンケートにおいては、エイズをはじめ様々な病について正確な知識を身につけることの重要性や医療従事者の言動・行動が患者に与える影響の大きさを被害者の声から学ぶことができ、自分が今後看護師として働くにあたってこの講義で学習したことを活かしていきたいとの記述が多く見られた。	・本学では看護学科1・2年生合同で、年度ごとに異なる薬害被害者の声を聞く講演を実施している。それぞれの背景や被害の実態を知ること、幅広く薬害問題を考えることができる。
東京医科大学	キャリアデザインⅠ(基礎)	1年次	本人	薬害エイズ	キャリアデザインⅠ:1年生の科目なので、早期から看護師の与薬に対する責任の大きさを理解できる。薬害の当事者の支援に興味をもつ。		
東京医療学院大学	看護倫理学(令和3年度以前カリキュラム)、看護倫理学(令和4年度以降カリキュラム)	4年次、3年次	本人、本人	サリドマイド、サリドマイド	(両授業共通) ・対象者の体験をうかがうことにより実際のご苦労や世間の対応について実感できる。また、障害のある人への学生自身の態度を振り返るきっかけになる。 ・薬害被害について理解することができ、薬の承認過程などの重要性が実感できる。	(両授業共通) ・学生は講義を真剣に聞き入り、障害者に対する対応を振り返り、自身の態度を変えようと考えていた。また、医療事故を未然に防ぐ必要性についても考えるきっかけになったと感想を述べていた。 ・講師から「自分を認めることは相手を認めること」という話を伺い、自分を受け入れることの重要性に気づいた学生もいた。 ・本学は助産師養成課程もあるため、サリドマイド被害について深く考えた学生もいた。 ・薬害被害の実態から啓発活動の重要性を感じた学生が多かった。	
東京医療保健大学	臨床薬理学	1年次	本人	輸入血液製剤	代表的疾患・治療薬ならびに予防薬の作用について学習しているが、国・企業の対応、差別・偏見等について薬害被害者(家族)の方の話を伺うことで、被害状況を理解し、被害者の方が看護師に何を求めるか等を聞くことができ、患者・被害者(家族)の方の権利や医療安全(対策)についての重要性を改めて考える機会となっている。	将来看護師を目指す学生にとって、薬害被害者の方のお話を直接伺えることで、薬害について考える貴重な時間となっている。	
東京慈恵会医科大学	看護と倫理	2年次	本人	サリドマイド	当事者から直接体験を聞かせていただくことで、学生は被害者の苦痛、置かれた状況をよく理解できる	人間の尊厳、相手の立場に立つ難しさを自覚した上で、対象が置かれている立場や考えを理解することの重要性を理解する。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につ いての授業実施におけ る効果
東京女子医科大学	薬理学	2年次	本人	HIV・HCV	当該授業は薬害被害者による講義形式で行う。薬害を二度と繰り返さないためには自らが医療従事者としてどのようにすればよいのか、患者や家族との信頼関係をどのように築いていくのかなどについて学生が考えることを目的としている。薬害被害者の話を直接聞いた上で、同様の背景にある患者の治療に関わる際にどのようにすべきかを自発的に考える中で、医療人としての使命を強く意識させることができる。	レポート提出期限前のため、現時点で回答不可。	HIV／HCV重複感染の方から講義いただいている。重複感染患者の治療の難しさを知った上で、患者の治療に関わる際にどのようにすべきかを本学の理念である至誠と愛に沿って自発的に考え、医療人としての使命を強く意識させることができる。
武蔵野大学	薬効安全性学(薬学部)	3年次	本人	サリドマイド薬害	学生が被害者である患者様の声を直接聞くことにより病気に対する理解が深くなる。	患者さん本人から実際の治療の様子や被害者への偏見に対する苦悩などの話を直接聞くことでこの病気の家族など周囲に与える影響の大きさを認識した、等。	
関東学院大学	基礎看護技術Ⅲ	2年次	本人	C型肝炎	看護師を目指す学生として薬害について学びを深め、患者の服薬に関する状況の観察について重要性がわかる		
湘南医療大学	薬と毒性学入門	1年次	本人	サリドマイド	薬害について、身近に感じることができる。	近年はサリドマイドの新たな発症はないため、被害者本人から話を聞くことで、「本当にあったこと」という真実が見られた。	
昭和大学	地域医療入門	1年次	家族	イレッサ	薬害被害者遺族の話を聞くことで、医薬品適正使用の重要性や、医療従事者の責任を深く考える貴重な機会となっている。	今年度の講義後アンケートを実施した結果、学生からは以下のような反応が得られた。 「医薬品は病を治すという点がかなりの印象を占めている一方で副作用といったデメリットともっと向き合っていかなければならないと改めて思った。さらに、医薬品の開発が進められていく中で健康被害が生じないかという点をより重要視したうえで医薬品の開発研究を進めていくべきであると感じた。」	
横浜創英大学	看護管理学	3年次	本人	HIV	講演及び障害の実際の状況を知ることで、薬害について学生が深く考えることができること。通常の講義やグループワークでは学べない薬害についての知識を深められること。また、学生は、薬害問題は社会全体で考えることを認識できる。	紙面上では得られない生の声や生活上の障害を知ることによって、将来医療に携わることへの自覚が強化されたと言うリフレクションペーパーが多い。	
新潟医療福祉大学	診療看護論演習	2	本人	サリドマイド被害	診療看護論演習については、薬害による影響を、他人事ではない現実問題として実感する。被害者の体験、生活をイメージすることで、被害者の思いに気づくことができる。被害の深刻さの理解ができる。なぜ薬害が生じてしまったのかを教訓に薬害防止への問題意識、責任感などの意識づけも行われる。臨床薬理学では薬害の存在、歴史から学ぶ医薬品管理体制の理解につなげている。	診療看護論演習は講義への集中度が高い、関心を持って聴講していると思う。感想では、初めて困難な歴史があった事を知ったという学生が多い。知識を得るだけでなく、当事者の語りから被害の深刻さ、薬害を繰り返さない為に自分ができること等を考える機会になっているが伺える。臨床薬理学では、薬害の存在をこれまで知らなかったという反応が多い。	臨床薬理学では代表的な薬害について触れ、薬の効果と害の側面の理解につなげている。
朝日大学	「薬害被害者の声を聞く」 特別講演	1年次	本人	サリドマイド	薬害問題の実態に関して、その被害者から生の声を聞くことで、その被害や言われ無き偏見・差別の実態、社会としての対応のあり方のみならず、医療従事者として患者に寄り添う意識を一層高めるとともに、薬の有害性や倫理観についても理解を深めることができる。看護の対象者の人権や看護師の役割、責任を考えるうえで、効果的な学修機会となる。	薬害に対する恐ろしさ、薬害被害者本人との意思疎通方法、薬害被害者の家族の気持ち等を改めて考えることができた等の感想が聞かれた。また、講演の中の「幸せとは自分が感じるものであって、他人が考えることではない」との言葉が印象に残ったとの感想も聞かれた。	
岐阜医療科学大学	薬学概論	1年次	本人	サリドマイド	・人の健康を守るはずの薬物によって健康被害が起こることを知ることで、薬物療法に関わる看護師としての責任を考えることができる。	・サリドマイドという言葉聞いたことがあっただけだったので、具体的に何が起きたのかが知れた。 ・本来、病気をよくするための薬なのに、奇形という被害をもたらした、薬は怖いと思った。	
一宮研伸大学	公衆衛生学、公衆衛生学	1年次、2年次	本人、本人	薬害エイズ事件、薬害エイズ事件	被害者の体験談を直接聞くことによって、看護師となる上で、自ら考える機会を得ることができた。	漠然としていた薬害についての理解が深まり、学生にとって有意義なものであった。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につ いての授業実施におけ る効果
中部大学	薬理学	1	本人	サリドマイ ド	薬害被害者本人から実体験を聞くことで薬害がもたらした様々な問題について深く理解させることができる。また、ベッドサイドで患者に触れる機会の多い看護師が薬の副作用にいち早く気づくことの重要性を学生に理解させることができ、薬理学全体を通しての学習意欲向上にもつながる。また、薬害被害者として障害を抱えながらもひたむきに生きる被害者の姿が人間の生き様として、人生の先輩として、若い学生に勇気と感動を与えることにつながる。さらには、患者を守るという医療者としての自覚の涵養にもつながる。	「看護師として適切に患者に薬物の使用を行う必要があるとより感じるきっかけになった」「薬害とは人災である。副作用が強いものを薬害と言っているわけではない。」「薬のせいで身体に奇形を生じることと学びとても驚き、とてもショックでした。」「この講義を受けるまで、日本でこのような事件があったことを知らなかった。」「どれだけ気を付けていても薬害などが起こることがあるはず。その際に因果関係などにとらわれず何が患者にとって大事なのか、治る希望にかけるのか、危険性を重視するかなどを考えることが大切だと考えました。」「サリドマイド薬害は、製薬会社などが確実な証拠がないからと見逃し続けた結果、たくさんの人が被害にあうことになってしまった。利益や功績も大事だが、被害を受けることによって、その薬を使用した人の人生が変わってしまうことがあることを一番に考えることが大切だと考える。」「薬害とはと聞かれ、副作用が強いものを指すと思っていたが、人災であると聞き、確かに今回のサリドマイド薬害事件は加害者側が、臨床試験結果、社会情勢を軽視・無視し、その薬剤が多くの人に重大な健康被害を及ぼし社会問題化しているため人災的な健康被害と言えるだろうと考える。」など	
豊橋創造大学	在宅看護学原論Ⅱ、在宅看護学原論Ⅱ	2年次、 2年次	本人、家 族	B型肝炎	薬害被害者及びその家族の方から実体験を聞くことで、薬害がもたらした様々な問題について理解を深めることができる。また、これから医療従事者を目指すものとして、求められる知識や態度、行動などを考える機会となり、専門職者としての責務への自覚が高まる。	当事者の声を聞くことにより、薬害を身近な問題として考える機会となり、今まで授業で学んだ内容の理解も深まったとの意見が多く寄せられた。また、将来看護師として患者と接する立場として、薬害の当事者らの直接の声を聞いたことで、自らをあらためて省み、課題等をあげている。	当事者の声を聞くことにより、薬害を身近な問題として考える機会となり、今まで授業で学んだ内容の理解も深まったとの意見が多く寄せられた。また、将来看護師として患者と接する立場として、薬害の当事者らの直接の声を聞いたことで、自らをあらためて省み、課題等をあげている。
鈴鹿医療科学大学	臨床薬理学	3年次	本人	サリドマイ ド事件	医薬品情報の大切さ、医薬品適正使用の重要性、医薬品評価、副作用救済制度等における理解向上と看護師の役割についての認識が深まることが期待できる。	被害者の声を直接聞き、医薬品情報の大切さと薬害が確認された後の迅速な対応の重要性についての学びが講義後のアンケートに記載されていた。	看護学科カリキュラムの中で、薬害については1年次選択科目「薬の役割・薬のできるまで」を受講し、3年必修科目臨床薬理学で薬害被害者の体験と救済制度を、そして4年次に特別講義としてB型肝炎ウィルスの薬害被害・救済制度について学習している。このように薬害に関する学習機会を増やすことにより学習内容は強化され、看護の専門知識をもとにした薬害被害者の体験に関する理解が深まり、看護師として果たすべき役割がより具体的になる。

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につ いての授業実施におけ る効果
京都橘大学	キャリア開発演習Ⅳ	2	本人	血液製剤 とAIDS他	講師に薬害被害当事者の方を迎え、直接、話を伺うことによ って、その具体的な体験や思いを聞くことができる。また、そこから 自分の考えを深め、看護職(医療従事者)としての今後にいかす ことができる。	(前年度までの授業)薬害の講義の後に受講学生に次の2つの 項目に関し、リアクションペーパーを提出してもらっている。1. 薬 害の原因や実態ならびに被害者や 遺族に対する国・製薬企業 の対応の歴史についての講義内容に関して学んだこと、考えた こと、質問、意見等。2. 薬害被害者や遺族への差別や偏見の問 題について、学んだこと、考えたこと、質問、意見等。 その一例の内容として、1に関しては「今回の講義で初めて知っ たことがたくさんあった。まず、血友病という言葉を知ったことは あったが、実際にはどのような病気でどのような歴史があるのか ということは知らなかった。そこで、今回の授業を受けて衝撃を受 けたことがあった。それは、病気を良くしようと思って、摂取した薬 によって新たな病気になってしまう人がたくさんいたということだ 。血友病の人たちが少しでも症状をよくするために作られた ものが逆に深刻な死に至ってしまうような病気を招いてしまうかも しれないなど、想像もできないことである。また、それは薬を作る 工程に問題があり、加熱しなければならぬということを実地 では既に分かっていたことであつたのにも関わらず、国や医師は そのことを考慮せずに患者に使用したことを知り、私は考えさせ られた。自分が看護師になった時に、自分からさまざまな文献や 情報を取り入れていかなければ、患者を死に至らしめてしまうよ うな行為を自分もしてしまうかもしれないのだと考えた。そこ から、専門職を務めるにあたって、無知ということは許されないこ とだということも感じた。「知らなかった」では済まされないことだ る。」など。 2に関しては、「薬害被害者の差別などの話を聞いて、私はいつ の時代も同じなのだと感じた。実際に、新型コロナウイルスが 流行しだしたときもヨーロッパなどの各地で日本人らアジア人が バスやタクシーに乗れないなどの差別が相次いだ。しかし、これ らは何の根拠もないただの偏見である。薬害が起きた時にも、何 の根拠もないのにも関わらず、このような起きたのだらうなと考 えた。これは、“知識”の問題であると私は考える。知っているか、知 らないかということである。しかし、容易には感染しないとい うことを専門的に知っているであろう医師や看護師が差別して いたという話を聞いて私は少し悲しくなった。このようなことは決 してあってはならないのである。本来、患者を守る立場である医 療従事者は、患者の病気の知識を身に付け、適切に対処すること こそが一番重要である。私は、このような未知のものに遭遇した ときに、他人の意見に惑わされるのではなく、自分自身で調べ、 判断できるような看護師になりたい。また、被害者遺族が心の 内に悲しい思い、やるせない思いを秘めそれを誰にも言うこと ができなかったことを知り、やるせない思いになった。」など 今回紹介したのは93名中2名のリアクションペーパー内容である が他の学生も丁寧な内容を記載し、多くのことを学んでいる。 薬害に関してHIVのみでなくほかの薬害に関しても触れて講義 していただき、その中で当事者である方やご家族の苦しみも直 に講義を通して知ることができた。また、制度や保障に関して もどのようなものがあるのかを知る機会を得た。これらを通して、 患者さんやご家族と関わることが必要だと感じ、今後、医療者 として、看護職としてどう対応する必要があるか等、考える機 会となっている。令和6年度も昨年度と同様な内容のリアク ションペーパーを提出してもらい講師と共有予定である。 ※当該授業は後期実施のため、過去実施時の反応・感想を参 考として記載。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上 げた薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につ いての授業実施におけ る効果
同志社女子大学	母子保健看護概論	2年次	家族	陣痛促進 剤	薬学被害の視点から、医療現場に潜むリスクについて理解を深める機会となる。さらに、看護職に求められる知識や態度、行動を考える機会となり、専門職者としての責務への自覚につながる。		
四條畷学園大学	看護倫理	4年次	本人	未定	看護専門職としての倫理的責任と倫理的行動、倫理的問題に対する認識能力と感受性について、自らの実習経験をとおして考察することができる。		
摂南大学	看護倫理	4年次	家族	陣痛促進 剤による 薬害被害	薬害被害者の生の声は、看護学教育コアカリキュラムの内、 A 看護系人材(看護職)として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナリズム A-1-2) 看護の基盤となる基本的人権の理解と擁護 B 社会と看護学 B-2 社会システムと健康 B-2-2) 環境と健康 の習得に極めて強いインパクトを与え、学生のモチベーションが格段に向上すると考える。	陣痛促進剤による被害者から実体験を直接伺い、当時の医療や医療者の実態を授業によって知り得たことで、医療者としての責任の重大性を認識したとともに、専門職業人としての自覚と姿勢を新たにしたいとの感想や反応を得る事ができた。 また、薬害の被害者となる患者と最も近い位置に存在する看護職の倫理観が薬害の防止にもつながることや社会の仕組みにも目を向け、常に患者や我々の人権が尊重されているのかも問い続けることの大切さを実感できていた。	
宝塚大学	公衆衛生学		2 本人	薬害エイ ズ	薬害エイズ問題の背景を知り、HIV訴訟の原告当事者から話を伺うことで患者の置かれた立場や苦悩、当時の時代背景を含めて深く学ぶ機会となった。医療従事者を目指す本学部の学生にとって、兼ね備えておかなければならない医療の史実に関することを学び、それを深めることができた。	HIV訴訟原告団長自らが語る言葉の重みと、薬害エイズや日本の血液行政について知らないことばかりであり驚愕と共に深い学びになった。看護師を目指す上で知ってくべき内容だと思った、といった感想が寄せられた。	
関西看護医療大学	感染と免疫	2年次	本人	B型肝炎	学生の倫理観の醸成につながるとともに、学習意欲の向上に役立っている	厳しい現実を知り、医療従事者を目指すものの心構えを改めて痛感した。	
神戸女子大学	看護倫理	4年次	家族	陣痛促進 剤 無痛分娩 (麻酔薬)	ご自身が薬害被害者家族であり、長年にわたって薬害と医療事故に関する市民活動を実践ご自身が薬害被害者家族であり、長年にわたって薬害と医療事故に関する市民活動を実践してきた講師による、被害者としての体験を生の声から理解できる。また、多くの薬害の事実薬害と医療事故に関する市民活動の実践について幅広く知り、看護職としての倫理について考えを深めるために、大変インパクトのある講義となっている。	卒業を間近に控えた4年生後期の看護倫理の授業において、薬害被害者家族の切実な思いと、薬害に関する多くの事実を知り、さらに被害者の立場から看護職に望む倫理的な感性や態度、倫理に基づく実践について学ぶことができた。数か月後には看護師として実践の場に出る前にこの授業を受けることで、学生達は身の引き締まる思いを強くしていた。	
武庫川女子大学	成人看護学概論	1年次	本人	薬害筋短 縮症	・1年次の段階で薬害被害者の声を直接聞くことにより、薬害や薬害被害者が置かれる社会的状況に関する知識を深め、看護師になる者としての責任や課題意識を持って今後の学修に臨める。 ・学生の倫理観の醸成につながることに学習意欲の向上に役立つ。	授業での学生の反応や授業後のレポートでは、「これまで医師の指示や処方では絶対的に正しいものと認識していたが、指示を受け薬剤投与を行う看護師として、本当にその方にその薬剤が必要なのか、その投与方法が適切なのか、見極める必要があると思った」「おかしいと思ったこと、疑問に感じたことをそのままにせず、声に出していくことが大切だと思った」等が挙げられた。	
兵庫医科大学	母性看護学概論	2年次	家族	陣痛促進 剤被害	当事者の視点で医療制度における問題、医療のあり方における問題について考える機会となる。また、妊娠・出産における意思決定支援の重要性について学習することができる。		
畿央大学	保健医療福祉システム論 I	4年次	家族	陣痛促進 剤	薬害の被害に関する現状と問題点及び課題について、当事者の立場から直接具体的な話を聞くことにより、薬害被害に対する問題意識が高まった。	・薬害の原因は薬であると思っていたが、実際には医療の利益を考えた人災であることを知った。 ・医療者として加害者にも被害者にもならないために、事故から学んでいく必要があると学んだ。 ・通常の授業では当事者や薬害に関してあまり知る機会がなかったもので、講義していただいたことは非常に貴重な機会だったと感じます。 ・看護師として働くことが現実的になってきた4年生だからこそ、いつ自分自身が薬害を起こしてもおかしくないと思いながらの講義だったので、患者に対して安全安楽な看護を提供するという意味ともう一度考え直す機会にもなった。 ・医療者は、これから薬害を起こさないために、過去の薬害の原因について学び、再発予防策を考え実践することや、患者の権利を大切にできる倫理観を養うこと、医療品に対する正しい知識をつけることなどを組織全体で続けていく日が必要であると学びました。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につ いての授業実施におけ る効果
安田女子大学	まほろば教養ゼミ	4年次	本人	MMR	学生は、薬害被害者の声を直接聞かせて頂くことにより、薬害被害の実態、当事者の状況や思いを理解し、看護師(学生)としての薬害被害に対する認識を深めることができる。	当事者による授業を受けて、薬害による人の健康や生活への影響、また、当事者の苦悩や思いを実際的に理解する機会となったと述べている。	
宇部フロンティア大学	特別授業(薬害被害者講演)	4年次	本人	HIV	薬害被害者に直接話を聞くことができ、薬害被害者となった経緯、思い、差別や偏見の実情など、被害者でなければ伝えることができない内容である。	薬害を起こさないために、「薬害について知らない人に伝えていくことが必要だと考えた」、「失敗を繰り返さない」、「国や医療機関は事実をごまかしたり、隠さないようにする。正しい情報を本人や周りに伝える」といった声があった。 看護職として目指すものについては、「職業的良心をもち、間違いを犯したときにはその後に正当化しないよう対応していくことを心掛けること、また間違いを口に出しやすい環境を作っていくことだ」と考えた、「看護職として命を預かっているという思いをしっかりと持ち、医療ミスや事故が無いようにしたい」といった声があった。	講義が4年生ということで、全ての関連科目が終わっているため、理解がすすんだと考えられる。
人間環境大学	陣痛促進剤事故について	3年次	本人	陣痛促進剤事故	薬害の被害にあった方の実体験を聞くことで学生の薬害についての理解が深まる。		
久留米大学	生命・看護倫理	1年次	本人	サリドマイド	1. 薬害被害者に対するリアルな関心、心を寄せられるようになる。 2. 自己の健康管理への関心の向上	多くの学生が障害のある人の苦悩や不利益、その後の将来などに思いを寄せる必要性を感じ、共感以上に今後の看護職者として活かしていきたい。(前年度回答より)	
国際医療福祉大学	看護倫理学	2年次	本人	O型肝炎、サリドマイド	「薬害」について、被害者の経験や人生のかたまりを直接聴くことにより、 unnecessary 先入観を避け、学生にストレートに伝わり、理解しやすい。		薬害といっても、その発生の経緯や社会背景、国や企業の課題や役割も異なる。これにより、被害者への身体/心理/社会的影響が異なり、差別や偏見までもが変ってくる事実を知る事ができる。
産業医科大学	看護倫理学	2年次	本人	薬害エイズ事件	薬害被害の方の体験を拝聴することにより、看護専門職として、正確で丁寧なインフォームドコンセントの重要性、薬剤投与の目的・適応、使用方法・適切な投与量、副作用に対する学修の必要性、薬剤使用前・中・後の観察の重要性、患者の訴えや気持ちに寄り添うことで薬害の予防ができること、また専門職としての責務について理解が深まると考えます。 また、薬害エイズ問題が過去のもとなり、20歳前後の学生は、知らない、過去の問題となり風化しつつあり、さらに、ケアギバーの高齢化問題、未婚率の高さなど、これからの医療を人材には新たな課題が提示される。	昨年度より、対面の講義となり、自分たちがいつ経験するかかわらない場面であることが理解できた。しかしながら、学生にとっては、薬害エイズの被害は過去の出来事であることから、継続して教育する必要性があることがわかった。 本年度に関しては、開講時期が後期科目であることから、現時点では学生の反応についてのお答えはできません。	

大学名	授業科目 (特別講義) または特別講演	履修 年次	講師 区分	取り上げ た薬害等	メリット (有意義な点・利点等)	学生の反応・感想	複数の種類の薬害につ いての授業実施におけ る効果
福岡大学	薬のはたらきと薬物療法	2年次	本人	薬害C型 肝炎	学生が医療者としての責任を自覚できる。また直接、薬害被害者の話を聴くことで、看護者として薬害が繰り返されないために、他人の痛みを自分の痛みとして感じる感性や想像力をもつことの重要性を認識でき、薬物投与における倫理的感受性を高めることができる。	・今日の授業で薬害について学んだ。薬害は被害者本人だけでなく、その家族や周りの人もつらい思いをすることに繋がると感じた。今日の授業で、ゲストスピーカーさんの次男が長男と喧嘩をしたときに、長男に「お前が生まれたからお母さんが病気になったんだ」ということを言われた話が印象に残っている。きっと長男はそんな風に思っていなかったと思う。お母さんが病気になってしまったことに対する怒りをどこにもぶつけないことができず、つらかったのだと思う。そして、それを長男に言われた次男も、その喧嘩のことを知ったお母さんもつらかっただろうと思う。そう思うと話を聞いていて泣きそうになった。これ以上、薬害によって被害者もその周囲の人もつらい思いをしなくていいように、将来医療従事者を目指す私は薬を患者さんに投与する時は、この薬を投与しても問題ないかどうかを確認して、投与しなければならないと思った。 ・C型肝炎は聞いたことがあったが、中身までは知らなかった為どういう病気であるかを知ることができました。又、病気の中身だけでなく、その病気に罹患してしまった方々の気持ちや生い立ち、社会環境といった深い中身まで知ることができました。改めて、薬害とは何か、薬害によってどのような方々が苦しんでいるのか、又、医療従事者としてどのように薬を提供していくのかを考えていきたいと思いました。又、一つの行為が多くの人を苦しめるといった現実を受け止めることができました。よって、行動一つ一つに責任を持って行っていきたいです。 ・今回の授業で私は初めてC型肝炎の訴訟について知った。私も看護学科に入る前にB型肝炎のワクチンを受けたため、自分も切り離して考えるほど遠い話では無いなと思い、聞けてよかったなと思った。出産時に投与された薬によって、C型肝炎になったというはなしを聞いて、どこでなるのかは予想もつかないものだなと考えた。また、そのせいで家族にも責任を感じさせ、生きる意味について考えさせられたものだった。これについて私は責任の所在をはっきりさせ、今まで社会的にも孤立を感じ、その家族にも被害を受けている人々に平和が訪れて欲しいと思った。 ・薬害という言葉を初めて聞いて、国や製薬会社が薬をつくる際の過失や、医療従事者がそのような医薬品の有害性に関する情報を軽視することで、患者を一生苦しめてしまうという恐ろしいものであるとよく分かった。私たちが薬学を学んでいるのは、患者の看護を行うにあたり、禁忌な食べ物や起こりうる症状を踏まえて適切なケアを提供するために、薬の有害性や副作用をしっかりと理解する必要があるからだと分かった。このような事件が今後二度と起こらないように、将来の1医療者として、薬害の根絶に交換できたらいいなと思った。	
令和健康科学大学	看護倫理	2年次	本人	薬害エイズ	看護倫理 ・実際の薬害被害者の話を聞く事により医療者としての責任意識を強く自覚できるようになること。 ・病気を治すための薬が原因で病気にかかってしまうということは、学生達にとっても想像もつかないため、講師の体験談を聞くことで、学生達はなぜ薬害が発生するのか、なぜ同じような薬害が何度も繰り返されてきたのは、長年にわたる病との闘い、偏見による苦しみ、医療に対する期待と不満・不安などを実感することができ、患者に寄り添える医療者になろうという自覚が生まれる。		

薬害問題に対する各大学の取組状況（令和６年度 薬学部）

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

○国立（１４大学１４学部）

N0	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	北海道大学	○	○	薬学概論、医薬品情報学（薬学科）、医薬品情報学（薬科学科）、医薬品開発論（薬学科）、医薬品開発論（薬科学科）、臨床薬学事前演習（薬学科）、薬事関連法規（薬学科）、薬事関連法規（薬科学科）、医薬品安全性学（薬学科）、医薬品安全性学（薬科学科）	薬学概論
2	東北大学	○	○	薬学概論２、薬理学３、衛生化学１	薬学概論２
3	千葉大学	○	○	専門職連携Ⅰ、医療行政学、医療薬学Ⅱ、医薬品臨床開発、基礎医療薬学、医薬品安全性学	専門職連携Ⅰ
4	東京大学	○	○	医薬品安全性学、医薬品評価科学	薬学特別講義
5	富山大学	○	○	医療学入門	医療学入門
6	金沢大学	○	○	医薬保健学基礎Ⅱ、薬学関係法規Ⅰ、毒性学、医薬品安全性学	医薬保健学基礎Ⅱ、医薬品安全性学
7	京都大学	○	○	医療社会学	薬害再発防止のために薬害エイズの経験から
8	大阪大学	○	○	薬学入門１、薬学入門３、薬事関係法規・薬局方概論、薬物治療演習、現代の生命倫理・法・経済を考える、衛生薬学３	薬学入門３
9	岡山大学	○	○	医薬品開発学、臨床準備教育A、臨床準備教育C	臨床準備教育C
10	広島大学	○	○	医薬品情報学（薬学科）、医薬品情報学（薬科学科）、患者志向型合宿勉強会事前講義「薬害を考える」（薬学科）、患者志向型合宿勉強会事前講義「薬害を考える」（薬科学科）、薬学概論（薬学科）、薬学概論（薬科学科）	患者志向型合宿勉強会
11	徳島大学	○	○	医療における人間学、基礎医療薬学、医薬品情報学、社会薬学、実務実習事前学習	SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～
12	九州大学	○	○	薬害	薬害
13	長崎大学	○	○	薬学概論Ⅱ、医療倫理Ⅰ、医療倫理Ⅱ	薬学概論Ⅱ
14	熊本大学	○	○	医療倫理学Ⅰ	医療倫理学Ⅰ

合計	1	2
行っている	14学部	14学部
検討中	0学部	0学部
行っていない	0学部	0学部

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

○公立（５大学５学部）

N0	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	岐阜薬科大学	○	○	医薬品安全性学、免疫学、公衆衛生学	医薬品安全性学
2	静岡県立大学	○	○	医薬品安全性学、薬物動態学Ⅰ、薬剤学、毒性学、創薬科学	薬学講座
3	名古屋市立大学	○	○	医薬看連携地域参加型学習、薬理学Ⅳ、薬理学Ⅱ（上記薬理学Ⅳと合同）	医薬看連携地域参加型学習、薬理学Ⅱ、薬理学Ⅳ
4	和歌山県立医科大学	○	×	社会薬学Ⅲ、毒性学、医薬品安全性学、社会薬学演習、医療倫理、医療安全学Ⅰ	
5	山口東京理科大学	○	検討中	薬学倫理A、医療安全学２	

合計	1	2
行っている	5学部	3学部
検討中	0学部	1学部
行っていない	0学部	1学部

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

○私立（５９大学６２学部）

N0	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
1	北海道医療大学	○	○	基礎薬学概論、医療薬学概論、社会薬学Ⅰ、毒性影響と評価、医薬品安全、実務社会薬学複合演習	毒性影響と評価、実務社会薬学複合演習
2	北海道科学大学	○	○	医療倫理学、薬と社会、医薬品開発論、薬事関連法制論Ⅰ	薬と社会
3	青森大学	○	○	薬倫理学	薬倫理学
4	岩手医科大学	○	○	医薬安全性学、医療倫理とヒューマニズム、薬事関係法規・制度２	早期体験学習（全人的医療基礎講義含む）、医療倫理とヒューマニズム
5	東北医科薬科大学	○	検討中	薬学入門演習、病原微生物学Ⅱ、医薬品安全性学、薬物管理概論、薬品毒性学	

N0	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
6	医療創生大学	○	○	健康と薬、イグナイト教育2B 及びイグナイト教育3（合同）、薬事関係法規、医薬品開発概論、薬品安全性学、ファーマドリルファイナル（社会）	イグナイト教育2B及びイグナイト教育3合同
7	奥羽大学	○	○	公衆衛生2、医薬の歴史	公衆衛生学
8	国際医療福祉大学	○	○	早期体験実習、衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）、OTC医薬品概論、薬学演習Ⅲ、医薬品安全性学、医薬品情報学Ⅰ	早期体験実習
9	高崎健康福祉大学	○	○	薬学と社会	薬学と社会
10	城西大学	○	○	病原微生物学、毒性学B、有機化学A、病態学A、栄養生理学、医薬品開発論、基礎有機化学、薬理学B、公衆衛生学	薬学概論
11	日本薬科大学	○	○	患者の安全と薬害防止、医薬品の安全性	患者の安全と薬害防止
12	国際医療福祉大学（成田薬学部）	○	○	早期体験実習	早期体験実習
13	順天堂大学	○	○	医療における薬学	医療における薬学
14	城西国際大学	○	○	薬学概論A、公衆衛生学、医薬品化学、医療薬剤学B、毒性学、薬事関係法規	薬害エイズ事件の被害と現在・今後の課題
15	千葉科学大学	○	○	ヒューマニズム、薬剤師の責務、薬事関係法規	ヒューマニズム
16	東京理科大学	○	○	薬学入門（6年制、4年制）、疾病と病態総論（6年制、4年制）、医療安全学（6年制）	薬学入門（6年制、4年制）
17	東邦大学	○	○	法学、薬学入門、プレゼンテーション、衛生薬学実習、医薬品開発Ⅰ、薬事関係法規・制度Ⅱ、ヒューマニズムⅣ、臨床衛生学、社会薬学総合演習	薬学入門、ヒューマニズムⅣ
18	日本大学	○	○	早期臨床体験、法学入門、医療倫理、医療と法、健康リスク評価概論	早期臨床体験
19	北里大学	○	○	医薬品安全性学Ⅱ、薬事行政、薬と仕事Ⅱ、社会薬学実習	薬と仕事Ⅱ
20	慶應義塾大学	○	○	医療・薬剤師倫理、薬事関係法規1、薬物治療学2、化学物質の生体影響	医療・薬剤師倫理
21	昭和大学	○	○	地域医療入門、生と死、薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ、ファーマシューティカルケアプログラム（医薬品の副作用・有害事象）	地域医療入門、生と死
22	昭和薬科大学	○	○	医療倫理学、医薬品の安全性	医療倫理学
23	帝京大学	○	○	医療社会学、医療品安全性学	医薬品安全性学
24	帝京平成大学	○	○	薬学概論、フレッシュセミナーⅠA（薬剤師の果たすべき使命）、医薬品の安全性	フレッシュセミナーⅠA（薬剤師の果たすべき使命）
25	東京薬科大学	○	○	人間と薬学Ⅰ、社会と薬学、医療倫理学、医薬品安全性評価学、薬局・病院薬学、医療薬学演習Ⅱ 医薬品開発と臨床試験、医療薬物薬学特論Ⅱ データ解析集中講座	人間と薬学Ⅰ
26	星薬科大学	○	○	薬学の心構え、薬学と社会Ⅰ、疾患・有害事象の症候、医薬品開発と生産のながれ	薬学の心構え
27	武蔵野大学	○	○	病態学1、薬効安全性学、キャリアデザイン1	病態学1、薬効安全性学
28	明治薬科大学	○	○	医療倫理、薬学と社会Ⅰ、レギュラトリーサイエンス、医薬品開発、臨床薬学基礎実習、事前実務実習、総合人文社会科学、医薬品管理学	総合人文社会科学
29	湘南医療大学	○	○	薬学入門Ⅰ、薬と毒性学入門	薬と毒性学入門
30	横浜薬科大学	○	○	薬学概論Ⅰ、医療と法律、薬事関連法規・制度、医薬品情報学、医薬品副作用学、医療倫理学	薬学概論Ⅰ
31	岐阜医療科学大学	○	○	薬事関連法規、公衆衛生学、薬理学Ⅲ、薬学概論、医薬品副作用学	薬学概論
32	新潟薬科大学	○	×	薬害・医療事故被害者から学ぶ	
33	北陸大学	○	○	医療人、早期体験学習、薬学と社会、臨床統計学、薬毒物代謝学	早期体験学習、臨床統計学
34	愛知学院大学	○	○	薬学概論、医薬品毒性学、生体予防薬学特論、基礎薬学演習Ⅰ、統合型学習	薬学概論、医薬品毒性学
35	金城学院大学	○	○	薬学概論（1）、基礎薬学演習B、衛生化学（2）、感染症学、薬事関係法規・制度	基礎薬学演習B
36	名城大学	○	○	プロフェッショナリズムⅠ	プロフェッショナリズムⅠ
37	鈴鹿医療科学大学	○	○	薬学への招待、薬害・副作用学、医薬品・食品安全学、化学物質安全管理学、基礎薬学演習	薬学への招待、薬害・副作用学
38	京都薬科大学	○	○	医療の担い手としてのこころ構えB、天然医薬品学B、医療薬学A、臨床情報学、医薬開発論、薬事関連法規、漢方医療薬学	早期体験学習
39	同志社女子大学	○	○	早期体験学習Ⅰ、臨床薬学概論、薬の発明・発見史Ⅱ、病態生化学Ⅰ、薬事関連法規・制度、医療安全性学	早期体験学習Ⅰ、医療安全性学
40	立命館大学	○	○	薬学概論、薬学応用演習、薬事法規・薬事制度	薬学応用演習
41	大阪医科薬科大学	○	○	薬物治療学3、多職種連携論3－医療倫理、薬事関連法・制度、コミュニティファーマシー、臨床導入学習2、医薬品安全性学	多職種連携論3－医療倫理
42	大阪大谷大学	○	○	医薬品開発学A、毒性学、薬学概論、医療情報薬学、医療倫理学演習	医療倫理学演習
43	近畿大学	○	○	生命倫理、薬学概論、医薬品情報学、医薬連携学習、医療・薬事関係法規2	早期体験学習（薬害講演会）
44	摂南大学	○	○	生命倫理学、薬学基礎演習Ⅰ、患者安全、医薬品情報学、社会薬学	薬学基礎演習Ⅰ
45	神戸学院大学	○	○	医療の中の薬学、ヒューマニズム、医薬品化学Ⅱ	医療の中の薬学
46	神戸薬科大学	○	○	薬学入門、社会薬学Ⅱ、初期体験臨床実習	社会薬学Ⅱ、初期体験臨床実習

N0	大学名	1	2	1. に該当する授業科目名	2. に該当する授業科目名又は特別講演名
47	姫路獨協大学	○	検討中	薬学概論、医療倫理、実務実習事前特別講義、薬物副作用論	
48	兵庫医科大学	○	○	医薬品安全性学、新・医薬品開発学、基礎有機化学Ⅰ、有機化学Ⅰ、医薬品化学	医薬品安全性学
49	武庫川女子大学	○	○	初期演習Ⅱ（薬学科）、ヒューマニズム論Ⅰ（薬学科）、医薬品化学（薬学科）、医薬品開発論（薬学科）、臨床薬学基本実習Ⅰ（薬学科）、医薬品情報学（薬学科）、生命倫理学（健康生命薬科学科）、健康生命薬科学概論（健康生命薬科学科）、医薬品開発論（健康生命薬科学科）	初期演習Ⅱ（薬害被害について）（薬学科）
50	就実大学	○	○	新薬開発論、薬学対話演習、臨床微生物学	薬学対話演習
51	広島国際大学	○	○	医薬品の開発と生産、病態と薬理総論、社会集団と健康、薬学と社会・薬事関係法規、医薬品情報、薬学へのいざない	薬学へのいざない
52	福山大学	○	○	生命倫理	生命倫理
53	安田女子大学	○	○	薬剤師論、臨床薬剤学Ⅰ、臨床薬剤学Ⅱ、薬事関係法規、医薬品情報学Ⅰ、薬理学Ⅰ	薬害を知る（「まほろば教養ゼミ」内）
54	徳島文理大学	○	○	社会薬学	社会薬学
55	徳島文理大学（香川薬学部）	○	○	薬事関係法規Ⅰ、薬事関係法規Ⅱ、医薬品開発学、医療倫理学	医療倫理学
56	松山大学	○	○	薬剤師と医療、医療倫理Ⅰ、社会の中の薬剤師、病原体としての微生物、臨床調剤、実践社会薬学	薬剤師と医療、医療倫理Ⅰ、Ⅱ
57	第一薬科大学	○	○	医療概論、生命・医療倫理学、早期臨床体験、薬事関係法規・制度	医療概論
58	福岡大学	○	○	医薬品安全性学、医療情報学、医薬品開発・経済学、薬事関係法規論、薬事行政論	医薬品安全性学
59	国際医療福祉大学（福岡薬学部）	○	○	早期体験実習、薬学概論	早期体験実習（薬害講義）
60	長崎国際大学	○	○	薬事関係法規、医薬品情報論、裁判化学、薬学入門	薬学入門
61	崇城大学	○	○	薬学概論、医薬品安全性学Ⅰ、実務実習事前学習Ⅰ	薬学概論
62	九州医療科学大学	○	○	薬学入門、薬学と生命倫理Ⅰ、薬学と生命倫理Ⅱ	薬学入門

合計	1	2
行っている	62学部	59学部
検討中	0学部	2学部
行っていない	0学部	1学部

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施
2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）の展開

○国公立（78大学81学部）

合計	1	2
行っている	81学部	76学部
検討中	0学部	3学部
行っていない	0学部	2学部

1. 薬害被害について学ぶ授業の実施状況（令和6年度 薬学部）

- ①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目名
②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目名

○国立（14大学14学部）

NO	大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
1	北海道大学	○	薬学概論、医薬品情報学（薬学科）、医薬品情報学（薬科学科）、医薬品開発論（薬学科）、医薬品開発論（薬科学科）、臨床薬学事前演習（薬学科）、薬事関連法規（薬学科）、薬事関連法規（薬科学科）、医薬品安全性学（薬学科）、医薬品安全性学（薬科学科）	薬学概論、医薬品開発論（薬学科）、医薬品開発論（薬科学科）
2	東北大学	○	薬学概論2、薬理学3	薬学概論2
3	千葉大学	○	専門職連携Ⅰ、医療行政学、基礎医療薬学、医薬品安全性学	専門職連携Ⅰ、医薬品安全性学
4	東京大学		医薬品安全性学、医薬品評価科学	
5	富山大学	○	医療学入門	医療学入門
6	金沢大学	○	医薬保健学基礎Ⅱ、薬学関連法規Ⅰ、毒性学、医薬品安全性学	医薬保健学基礎Ⅱ、薬学関連法規Ⅰ、医薬品安全性学
7	京都大学		医療社会学	
8	大阪大学	○	薬学入門3、薬事関係法規・薬局方概論、薬物治療演習、現代の生命倫理・法・経済を考える、衛生薬学3	薬物治療演習、現代の生命倫理・法・経済を考える、衛生薬学3
9	岡山大学	○	医薬品開発学、臨床準備教育A、臨床準備教育C	医薬品開発学、臨床準備教育A、臨床準備教育C
10	広島大学	○	医薬品情報学（薬学科）、医薬品情報学（薬科学科）、患者志向型合宿勉強会事前講義「薬害を考える」（薬学科）、患者志向型合宿勉強会事前講義「薬害を考える」（薬科学科）、薬学概論（薬学科）、薬学概論（薬科学科）	患者志向型合宿勉強会事前講義「薬害を考える」（薬学科）、患者志向型合宿勉強会事前講義「薬害を考える」（薬科学科）、薬学概論（薬学科）、薬学概論（薬科学科）
11	徳島大学	○	医療における人間学、社会薬学	医療における人間学
12	九州大学	○	薬害	薬害
13	長崎大学	○	薬学概論Ⅱ、医療倫理Ⅱ	医療倫理Ⅱ
14	熊本大学	○	医療倫理学Ⅱ	医療倫理学Ⅱ

①に該当する授業科目がある	14学部
②に該当する授業科目がある	12学部
①②両方該当する授業科目がある	12学部

- ①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目
②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

○公立（5大学5学部）

NO	大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
1	岐阜薬科大学	○	医薬品安全性学、免疫学、公衆衛生学	医薬品安全性学
2	静岡県立大学	○	医薬品安全性学	医薬品安全性学
3	名古屋市立大学	○	医薬看連携地域参加型学習、薬理学Ⅳ、薬理学Ⅱ	医薬看連携地域参加型学習、薬理学Ⅳ、薬理学Ⅱ
4	和歌山県立医科大学	○	社会薬学Ⅲ、医薬品安全性学、社会薬学演習、医療倫理	社会薬学Ⅲ、医薬品安全性学、医療倫理
5	山口東京理科大学	○	薬学倫理A、医療安全学2	薬学倫理A、医療安全学2

①に該当する授業科目がある	5学部
②に該当する授業科目がある	5学部
①②両方該当する授業科目がある	5学部

- ①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目
②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目

○私立（59大学62学部）

NO	大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
1	北海道医療大学	○	基礎薬学概論、医療薬学概論、社会薬学Ⅰ、毒性影響と評価、実務社会薬学複合演習	基礎薬学概論、医療薬学概論、毒性影響と評価、実務社会薬学複合演習
2	北海道科学大学	○	薬と社会	薬と社会
3	青森大学	○	薬倫理学	薬倫理学
4	岩手医科大学	○	医薬安全性学、医療倫理とヒューマニズム、薬事関係法規・制度2	医薬安全性学、医療倫理とヒューマニズム
5	東北医科薬科大学	○	薬学入門演習、病原微生物学Ⅱ、薬品毒性学	薬学入門演習、病原微生物学Ⅱ、薬品毒性学
6	医療創生大学	○	イグナイト教育2B及びイグナイト教育3（合同）、薬事関係法規、医薬品開発概論、薬品安全性学	イグナイト教育2B及びイグナイト教育3（合同）、薬事関係法規、医薬品開発概論、薬品安全性学
7	奥羽大学	○	公衆衛生2、医薬の歴史	公衆衛生2、医薬の歴史
8	国際医療福祉大学	○	早期体験実習、衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）、OTC医薬品概論、薬学演習Ⅲ、医薬品安全性学、医薬品情報学Ⅰ	早期体験実習、薬学演習Ⅲ
9	高崎健康福祉大学	○	薬学と社会	薬学と社会
10	城西大学	○	毒性学B、公衆衛生学	毒性学B
11	日本薬科大学	○	患者の安全と薬害防止	患者の安全と薬害防止
12	国際医療福祉大学（成田薬学部）	○	早期体験実習	早期体験実習
13	順天堂大学	○	医療における薬学	医療における薬学
14	城西国際大学	○	薬学概論A、公衆衛生学、医薬品化学、医療薬剤学B、薬事関係法規	薬学概論A、毒性学、薬事関係法規
15	千葉科学大学	○	ヒューマニズム、薬剤師の責務、薬事関係法規	ヒューマニズム
16	東京理科大学	○	薬学入門（6年制、4年制）、疾病と病態総論（6年制、4年制）、医療安全学（6年制）	薬学入門（6年制、4年制）
17	東邦大学	○	薬学入門、ヒューマニズムⅣ	薬学入門、ヒューマニズムⅣ
18	日本大学	○	早期臨床体験、医療倫理、医療と法	早期臨床体験
19	北里大学	○	医薬品安全性学Ⅱ、薬事行政、薬と仕事Ⅱ、社会薬学実習	薬と仕事Ⅱ、社会薬学実習
20	慶應義塾大学	○	医療・薬剤師倫理、薬事関係法規1	医療・薬剤師倫理、薬事関係法規1
21	昭和大学	○	地域医療入門、生と死、薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ、ファーマシューティカルケアプログラム（医薬品の副作用・有害事象）	地域医療入門、生と死、ファーマシューティカルケアプログラム（医薬品の副作用・有害事象）
22	昭和薬科大学	○	医療倫理学、医薬品の安全性	医療倫理学
23	帝京大学	○	医療社会学、医療品安全性学	医療社会学、医療品安全性学
24	帝京平成大学			
25	東京薬科大学	○	人間と薬学Ⅰ、社会と薬学、医療倫理学、医薬品安全性評価学、薬局・病院薬学、医療薬学演習Ⅱ 医薬品開発と臨床試験、医療薬物薬学特論Ⅱ データ解析集中講座	人間と薬学Ⅰ、医療倫理学、医療薬学演習Ⅱ 医薬品開発と臨床試験

N0	大学名	①②両方	①に該当する授業科目名	②に該当する授業科目名
26	星薬科大学	○	薬学の心構え、薬学と社会Ⅰ、疾患・有害事象の症候、医薬品開発と生産のながれ	薬学の心構え、薬学と社会Ⅰ、疾患・有害事象の症候
27	武蔵野大学	○	病態学Ⅰ、薬効安全性学、キャリアデザインⅠ	病態学Ⅰ、薬効安全性学、キャリアデザインⅠ
28	明治薬科大学	○	医療倫理、薬学と社会Ⅰ、レギュラトリーサイエンス、医薬品開発、総合人文社会科学、医薬品管理学	総合人文社会科学
29	湘南医療大学	○	薬学入門Ⅰ、薬と毒性学入門	薬学入門Ⅰ、薬と毒性学入門
30	横浜薬科大学	○	薬学概論Ⅰ、医療と法律、薬事関連法規・制度、医薬品情報学、医薬品副作用学、医療倫理学	薬学概論Ⅰ、医療と法律、薬事関連法規・制度、医薬品情報学、医薬品副作用学、医療倫理学
31	岐阜医療科学大学	○	薬事関連法規、公衆衛生学、薬学概論、医薬品副作用学	薬事関連法規、公衆衛生学、薬学概論
32	新潟薬科大学	○	薬害・医療事故被害者から学ぶ	薬害・医療事故被害者から学ぶ
33	北陸大学			早期体験学習、薬学と社会
34	愛知学院大学	○	薬学概論、医薬品毒性学、生体予防薬学特論、基礎薬学演習Ⅰ、統合型学習	薬学概論、医薬品毒性学、生体予防薬学特論、基礎薬学演習Ⅰ、統合型学習
35	金城学院大学	○	悪学概論（Ⅰ）、基礎薬学演習B、衛生化学（Ⅱ）、薬事関係法規・制度	悪学概論（Ⅰ）、基礎薬学演習B、感染症学、薬事関係法規・制度
36	名城大学	○	プロフェッショナルリズムⅠ	プロフェッショナルリズムⅠ
37	鈴鹿医療科学大学	○	薬学への招待、薬害・副作用学、医薬品・食品安全学、化学物質安全管理学、基礎薬学演習	薬学への招待、薬害・副作用学、医薬品・食品安全学、化学物質安全管理学、基礎薬学演習
38	京都薬科大学	○	医療の担い手としてのこころ構えB、臨床情報学、薬事関連法規	臨床情報学
39	同志社女子大学	○	早期体験学習Ⅰ、臨床薬学概論、薬の発明・発見史Ⅱ、病態生化学Ⅰ、薬事関連法規・制度、医療安全性学	早期体験学習Ⅰ、臨床薬学概論、薬の発明・発見史Ⅱ、病態生化学Ⅰ、薬事関連法規・制度、医療安全性学
40	立命館大学	○	薬学概論、薬学応用演習、薬事法規・薬事制度	薬学概論、薬学応用演習
41	大阪医科薬科大学	○	薬物治療学Ⅲ、多職種連携論Ⅲ－医療倫理、医薬品安全性学	多職種連携論Ⅲ－医療倫理
42	大阪大谷大学	○	医薬品開発学A、毒性学、医療情報薬学、医療倫理学演習	医薬品開発学A、毒性学、医療情報薬学、医療倫理学演習
43	近畿大学	○	生命倫理	生命倫理
44	摂南大学	○	生命倫理学、薬学基礎演習Ⅰ、患者安全、医薬品情報学、社会薬学	生命倫理学、薬学基礎演習Ⅰ、患者安全、医薬品情報学
45	神戸学院大学	○	医療の中の薬学、ヒューマニズム、医薬品化学Ⅱ	医療の中の薬学、ヒューマニズム
46	神戸薬科大学	○	薬学入門、社会薬学Ⅱ、初期体験臨床実習	薬学入門、社会薬学Ⅱ、初期体験臨床実習
47	姫路獨協大学	○	薬学概論、実務実習事前特別講義、薬物副作用論	医療倫理、実務実習事前特別講義、薬物副作用論
48	兵庫医科大学	○	医薬品安全性学、新・医薬品開発学、基礎有機化学Ⅰ、有機化学Ⅰ、医薬品化学	医薬品安全性学
49	武庫川女子大学	○	初期演習Ⅱ（薬学科）、ヒューマニズム論Ⅰ（薬学科）、医薬品化学（薬学科）、医薬品情報学（薬学科）、生命倫理学（健康生命薬科学科）、健康生命薬科学概論（健康生命薬科学科）、医薬品開発論（健康生命薬科学科）	初期演習Ⅱ（薬学科）、ヒューマニズム論Ⅰ（薬学科）、生命倫理学（健康生命薬科学科）、医薬品開発論（健康生命薬科学科）
50	就実大学	○	新薬開発論、薬学対話演習、臨床微生物学	薬学対話演習
51	広島国際大学	○	医薬品の開発と生産、医薬品情報、薬学へのいざない	薬学へのいざない
52	福山大学	○	生命倫理	生命倫理
53	安田女子大学	○	臨床薬剤学Ⅰ	臨床薬剤学Ⅰ
54	徳島文理大学		社会薬学	
55	徳島文理大学（香川薬学部）	○	医療倫理学	医療倫理学
56	松山大学	○	薬剤師と医療、医療倫理Ⅰ、社会の中の薬剤師、実践社会薬学	薬剤師と医療、医療倫理Ⅰ
57	第一薬科大学	○	医療概論、生命・医療倫理学、薬事関係法規・制度	医療概論
58	福岡大学	○	医薬品安全性学、医療情報学、医薬品開発・経済学、薬事関係法規論、薬事行政論	医薬品安全性学、医療情報学、薬事行政論
59	国際医療福祉大学（福岡薬学部）	○	早期体験実習、薬学概論	早期体験実習、薬学概論
60	長崎国際大学	○	薬事関係法規、医薬品情報論、裁判化学、薬学入門	裁判化学、薬学入門
61	崇城大学	○	薬学概論、医薬品安全性学Ⅰ、実務実習事前学習Ⅰ	薬学概論
62	九州医療科学大学	○	薬学入門、薬学と生命倫理Ⅰ、薬学と生命倫理Ⅱ	薬学入門、薬学と生命倫理Ⅰ、薬学と生命倫理Ⅱ

①に該当する授業科目がある	60学部	①薬害の原因や実態だけでなく、被害者や遺族に対する国・製薬企業の対応の歴史について取り上げている授業科目
②に該当する授業科目がある	60学部	②被害者や遺族への差別や偏見の問題を取り上げている授業科目
①②両方該当する授業科目がある	59学部	

○国公立（78大学81学部）

設置者別	①②両方	①に該当する科目がある	②に該当する科目がある
国立	12学部	14学部	12学部
公立	5学部	5学部	5学部
私立	59学部	60学部	60学部
合計（国公私）	76学部	79学部	77学部

2. 薬害被害者の声を直接聞く授業（特別講義など）又は特別講義等の実施状況（令和6年度 薬学部）

○国立（14大学14学部）

N0	大学名	授業科目名 （特別講義名） 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名 称	授業を実施するメリット （有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
1	北海道大学	薬学概論	2年次	本人	サリドマイド スモン 薬学エイズ 薬害肝炎	講師は薬害被害者であると同時に、医学系大学の教員であり、科学的・医学的見地から講義をおこなっている。そのため、講義内容はより客観的で薬学を学ぶ学生向けに十分考慮されている。また、国・製薬会社との和解確認書により設立された公益財団法人の理事長でもあることから、情報が個人レベルに留まらず、豊富かつ有意義なものとなっている。	非常に良好であった。	講師は医学系の教員でもあることから、自身が被害を受けたサリドマイドに留まらず、種々の薬害について、医学的な見地により講義を実施している。そのため、薬学を学ぶ学生向けに考慮された内容となっており、医薬品リスク管理を知るうえで有意義な講義となっている。
2	東北大学	薬学概論2	2年次	本人	京都スモン	薬害による後遺症が、その後の本人と家族の人生に与えた影響の大きさを、本人からの言葉として伝えられたことで、薬害の原因、発生を防止するための仕組み、人の運命をも変える生物活性物質である薬に携わる医療人、研究者としての心構えについて真剣に考える貴重な機会になっている。	例年薬害講義を実施することにより、医薬品がもたらす負の部分に真摯に向き合い、医療倫理について深く考えたレポートが多く提出されている。優れた医療人材育成のためには、薬害を通した倫理教育が大変重要であると感じている。	該当なし
3	千葉大学	専門職連携Ⅰ	1年次	本人	サリドマイド薬害	被害者の生の声を聴くことで薬害が人々にどのように影響するのかが具体的にわかり、薬学の役割についての理解が深まり問題意識が育成される。	学生レポート抜粋： 事前学習で調べた際には、サリドマイドはつわり止めとして販売されたと書かれていたが、実際の被害者のお話を聞くと妊娠に気がつく前に使用された例が多いと聞いて、驚いた。複数の資料を見て調べるようにしていたが、やはり実際に体験した方のお話を聞かないとわからないこともあるのだなと感じた。ネットで検索しただけで事件について全て理解したと思込まないように注意したい。また、公害や薬物乱用については義務教育ですっかりと学ぶのに、薬害については学ぶ機会が少ないという意見には深く同意した。実際、高校の保健の授業でしか薬害について学んでいないので、将来薬害について広めていきたいと思った。「話を聞いて医療に携わる者として患者の視点に立つことの大切さを実感した。また、薬学部として薬害の話は深く受け止めなければいけないと感じ、これから薬と関わるにあたり、薬剤師としては患者さんと薬の最後の砦としての役割をしっかりと果たし、製薬の面ではしっかりと安全性と効果のはっきりとした新薬の開発ができるよう知識と患者中心の考え方を養っていきたい。サリドマイドの話では悪いのは薬だけでなくそこにかかわった人であるということが特に心に残り、過去の国や製薬会社、薬局のずさんさは繰り返してはならないもので、また使用する一般の人への教育も大切であると知り、私たちは今日学ぶことができたが、〇〇さんがおっしゃっていたように義務的に教育に組み込み、広く認知してほしいと思った。	該当なし
4	東京大学	薬学特別講義	3年次	本人	サリドマイド	薬害は教科書の知識で歴史上のことと理解している学生が多かったが、薬害被害者が直接真摯に語ることを聴き、将来創薬や医療に携わることの心構えに大きな影響を及ぼしている。このような機会は少ないので、選択科目（ただし、薬学科希望者は必修）であるが、ほとんどの学生が履修している。	薬害の原因は人であるという言葉が強調されていた。一方で薬害を防げるのも人である。公害や薬物乱用と同レベルでの中学校や高校における教育や患者さんの尊厳を重んじつつ薬剤を管理できるシステムが求められていると思った。今回の講義では、薬害被害者の苦しみや政府や企業との闘いについて焦点が当てられており、薬害被害の凄惨さを理解することができた。このような被害を食い止めることが製薬に関わるためには不可欠なことである。薬学部に入る以前に自身が薬害について知る機会がほとんどなかったことに気づかされた。自身に情報が届くのを待つのではなく、積極的に薬害について知ろうと行動しなければならぬ。	複数種類の薬害について学習することにより、行政システム、マスコミ、アカデミア、製薬会社、社会背景に潜む、二次被害を含む薬害が生じる原因の共通した要因に気づき、より考察を深めることが出来る。
				家族	B型肝炎			
5	富山大学	医療学入門	1年次	本人	薬害エイズ	医療倫理の基本的原則を学ぶことができる。 1）患者の立場を一般的に理解する態度を養う。無危害原則。 2）一歩進んで、患者の悲しみを追体験し、他人の身になって考える態度を養う。善行原則 3）無思想性を脱却し、現代社会に対して、批判的に思考できる態度を培う。自律原則。 4）社会正義の視野を培う。正義原則。 5）弱者、マイノリティに対する理解。尊厳原則。 6）友達の間を聞いて、自分と同世代の人がいかに考えているかを学ぶ。連帯原則。	大変よい。課題としてレポートを提出させているが、それぞれ皆、薬害が起こる構造について、おおむね理解しているようだ。	該当なし
6	金沢大学	①医薬保健学基礎Ⅱ	1年次	本人	サリドマイド薬害	被害者本人から語られることで、受講生が薬害を薬学領域における重要課題として真剣に捕らえることができる。	受講生（1年生）の年代ではサリドマイド薬害のことを知っている人はわずかであり、はじめて知って驚いた、という反応が多く、またこのようなことが二度と起きないように自分が就いた職業で努力したいと感想を述べていた（昨年度全員に提出を求めた授業内容のレポートによる）。	直接、被害者の声を聞くことにより、薬害に対してより理解が深まると考えられる。
		②医薬品安全性学	4年次	家族	イレッサ薬害	イレッサは、薬害の原因とされているにもかかわらず、特定の遺伝子型を持つ非小細胞肺癌がんの第一選択薬でもある。即ち、他の薬害物質のほとんどは、社会から無くなっているが、イレッサは学生が社会に出た時、遭遇する医薬品なのである。その医薬品の副作用で家族を亡くした患者ご家族の話聞き、意見交換することは実社会で多くの医薬品を扱う場面で、副作用回避の重要性を認識させるためにも大いに意義深いと考える。	例年、聴講生には、感想文を書かせている。全ての学生は、薬害患者の家族の話を書く経験をしたことに感謝すると同時に、このような薬害（副作用）を起こさない薬の開発や医療体制にしたい、との前向きな姿勢を述べている。	薬害の種類による背景や経過、社会に与えた影響の違いに気づくことによってより深い理解が得られ、学んだ知識の応用力の涵養につながる。
7	京都大学	薬害再発防止のために薬害エイズの経験から	4年次	本人	薬害HIV	薬学教育モデル・コアカリキュラムのA基本事項（1）薬剤師の使命 において、「医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける」とあり、薬害、法律と制度という観点から講義だけではなく、実際に薬害被害者の方からの薬にまつわる過去と現在の問題点や薬剤師への希望と期待について生の声を聞くことで、薬剤師ならびに医薬品開発従事者の責任の重みを感じるとともに将来への励みに繋がった。	特になし。	該当なし

N0	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
8	大阪大学	薬学入門3	1年次	家族	MMRワクチン薬害事件	実際に薬害に遭われた患者の家族から、直にお話を伺うことで、より真摯に問題認識を共有できる。これにより、創薬研究を目指す学生は、より安全な薬品開発の必要性を実感し、その後研究に役立てることができる。また、臨床を目指す学生は、副作用の早期発見や重症化を防ぐことの必要性を痛感し、その後、臨床に臨む際の注意力を養う原動力となる。	・副作用被害救済制度があることを初めて知った。この制度の周知と充実の必要性を感じた。 ・医薬品の安全性確保や薬害被害者を生まないために、医療者ができることは何かを考える機会となった。	該当なし
9	岡山大学	臨床準備教育 C	4年次	本人	サリドマイド薬害	本講義で、薬害被害者の話を直接聴かせ、また薬害により生じた四肢をはじめとする骨格や臓器異常を当事者が直接見せることで、数十年前の薬害が未だに被害者の健康と生活を蝕んでいることを、薬学や薬科学を学ぶ学生、そして特に長期実務実習を控えた4年次生に強く印象づけることができる。また、こうした講義内容が、彼ら彼女らに薬剤師としての使命・職責を自覚させる良い機会となっている。これに加え、今日でも新たな薬害が生じ、また今後も生じ得ることを理解させ、薬害を未然に防ぐことや、万が一発生した場合でも被害拡大を抑止することの重要性を、学生に認識させることができる。更に、医薬品の安全性確保の重要性や適正使用の重要性、そして薬剤師としてそれを積極的に実践することの大切さも、本講義を通じて理解させることができる。	毎年のことであるが、受講学生からは「薬害被害者を初めてみました」「薬害被害は予想以上に激しく、ひどいものである」「薬害は起こしてはならない」との感想が挙がる。薬害講義では、学生の率直な思いを知る目的で、講義終了、直ちに講義レポートを書かせているが、それによると、薬害によるアザラシ肢症（四肢形成異常症）を直接目にするなどで、これまで現代社会とは無関係な遠い昔の話であると感じていた薬害が、急に身近で且つ重大な問題であることに気づくようである。	（現時点でお招きしている薬害被害者は、サリドマイドの薬害被害者の方のみである。）
10	広島大学	患者志向型合宿勉強会	3年次	本人	サリドマイド被害者、C型肝炎被害者、薬害エイズ被害者、陣痛促進剤被害者、MMRワクチン被害者、イレッサ被害者、ヤコブ被害者、スモン被害者	学生は薬害に遭われた方の姿を直接見て、生の声、特に精神的肉体的に様々な障害や困難を持ちながらも前向きに生きている話を聞くことができ、実体験に近い経験を得ることが可能であり、より強い使命感と倫理観を持つことができる。	薬害被害に関する考え方が変わった、患者さんの立場になって物事を考えることができる薬剤師・研究者になりたい、など。	薬害は、様々な薬害に同時に触れることにより、「薬害」という一つの言葉で括られるものではなく、各々の薬害で様々な背景、経過、困難な状況を抱えている現状があり、その一方で、薬害の原因には共通した人為的問題があることが理解できること。さらに、それに伴い、被害への対応については個々の観点が重要であるが、薬害発生の防止や根絶という観点では根本的な原因を排除する努力が必要であることを実体験に近いものとして得られる効果があると考えられる。
			3年次	家族	ヤコブ被害者、MMRワクチン被害者			
11	徳島大学	SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～	1年次	本人	B型肝炎	これから医療人を志す新入生にとって非常に重要な内容である。将来、医療の担い手の一員である薬の専門家を目指している学生に対し、薬害が起きた原因、被害者及びその家族の痛みや苦しみ、国や製薬会社の対応など薬害に関する基本的知識を得ることができる。また、1年生を対象とすることにより、これから受ける薬学専門教育の意義を感じ、学習意欲を一層高めることができる。	薬の専門となるための薬学専門教育に関する学習意欲の向上につながったと考えている。	薬学被害が起こる要因、被害者のおかれた立場や状況、行政や製薬会社の対応など、共通する事項や相違点を知り、薬害の実情を把握することができる。
12	九州大学	薬害	3年次	本人	サリドマイド エイズ C型肝炎 ヤコブ病 PMDA	大学教員、被害者の家族、被害者本人、行政官庁職員の計6名による講義、講演ならびに学生によるディスカッションを通して、被害者に寄り添い、薬害に対してより理解が進むことが期待される。	被害者の声を聞いて良かったという声が多い。	それぞれの状況で対応の違い等も認められ、より見識を深めることができる。
13	長崎大学	薬学概論Ⅱ	1年次	本人	C型肝炎	1年次生を対象に行うことで、早期に倫理観を養うことができる。薬学を学ぶモチベーションを高めることができる。	毎年、実施した際には、学生は真剣に講演を聞いている。講演に関するレポートでは、薬学を学ぶ上での心構えや、製薬企業、研究者の社会責任について触れることが多く、薬害を起こさないためにはどうあるべきかを常に意識して勉強する動機づけになっているようだ。	該当なし
14	熊本大学	医療倫理学Ⅱ	3年次	本人	C型肝炎ウイルスで汚染したフィブリノゲン製剤による薬害	講師の方は、フィブリノゲン製剤で重篤な健康被害を受けましたが、その後、インターフェロン療法で健康を回復されました。薬の光と影の両面を体験された講師のお話は、創薬・育薬を目指す学生にとって貴重です。	講師の方のお話の後で、学生と意見交換を行い、学生から積極的に素直な意見が聴けます。さらに、講師のお話を参考に実施する小グループ討論では、講師のお話を反映した具体的な薬害防止策ができてきます。	該当なし

○公立（5大学5学部）

N0	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
1	岐阜薬科大学	医薬品安全性学	4年次	本人	HIV	医薬品開発の過程で、医薬品の安全性確保は有効性追求よりも重要であることを実例をもって知ることができる。臨床現場における医薬品の適正使用において、副作用の確認の重要性を実例をもって知ることができる。 上記2項目から、薬学を学ぶ全ての学生に医薬品の安全性確保が最優先であることを認識させることができる。	医療系の学部の学生として、薬学被害のことを再認識することができた。自身の進路について参考になった。 薬学被害について薬学知識のない一般の方が新聞やTVから正しい知識をえることは難しいと思うが、いずれにしても誤解から差別を生むようなことはいいないと思った。	該当なし
2	静岡県立大学	薬学講座	1-5年次	本人	薬害ヤコブ病	被害者の声を生で聞くことで、学生が薬害を身近に感じ、薬学の防止や早期発見に果たすべき薬学出身者の役割を再確認することができる。	講演終了後に感想を学生が提出し、講演者にも見てもらっているが、薬害に対する薬学部出身者の責務をひしひしと感じていと察せられる。	毎年異なる薬害をテーマに講演会を実施しており、卒業までに種々の薬害問題の現状を知ることができ、薬害を防ぐための心構え、行動力を多面的に修得できていると考える。
3	名古屋市立大学	医薬看護連携地域参加型学習	1年次	本人	薬害エイズ	今回は、まだ薬害と認定されているわけではないが、学生にとっても身近な新型コロナワクチンを取り上げること、より真剣に、医薬品の有害反応や、それに遭遇した時の社会制度について学ぶことができた。	新型コロナワクチンで、多数の有害反応が報告されている事実そのものを知らない学生が多かった。また、副反応疑い報告制度などについては、初めて聞く学生が多く、とても勉強になったという感想が多かった。	1年次の医・薬・看の合同講義に加えて、2年次、3年次には、薬学部独自に外部講師の特別講義を聞かせることで、いろいろな講師の話を聞けるように工夫をしている。
		薬理学Ⅱ 薬理学Ⅳ	2、3年次	本人	新型コロナワクチン			

N0	大学名	授業科目名 （特別講義名） 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット （有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
4	和歌山県立医科大学							
5	山口東京理科大学							

○私立（5 9 大学 6 2 学部）

N0	大学名	授業科目名 （特別講義名） 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット （有意義な点・利点）	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
1	北海道医療大学	毒性影響と評価 実務社会薬学複合演習	4年次 6年次	本人 本人 家族	サリドマイド 薬害エイズ	薬害の被害者であり、薬害研究の第一人者である講師の講義は、ある程度薬学的な知識も修得した実務実習前の4年生にはとても有意義な講義であると思われる。薬剤の審査過程の試験の意味だけではなく、限界も知りながら、実際にサリドマイド被害が起こった経緯などを学ぶことができ、また、副作用管理に携わる薬剤師の存在価値、さらに薬剤師としてどのようなことを意識して現場で働くべきかを考えるとても良い機会であるため、実務実習を意識しモチベーションを上げる効果もあると思われる。 1. 本学では「薬害教育」に関して、それぞれ関連する授業において取り上げられてはいるものの、やはり被害者及びそのご家族の方から被害状況を実際に見聞きすることは、医薬品の安全性を知る意味からも非常に有意義なものであると考える。 2. 第6学年の学生は長期実務実習を終え、一通り薬学の専門知識を身につけており、薬害被害者による講演の機会を6年前期に設けることで、様々な側面から薬害について考察することができ、学生の関心度も非常に大きい。	「毒性影響と評価」の課題では、「薬害と疑われる健康被害の情報を知ったとき、薬剤師あるいは薬の専門家として何ができるかを考えてみよう」という課題について取り組むことで、現場を意識することができ、「モチベーションが上がった」、「自分なりの薬剤師像を考えるきっかけになった」という意見が多かった。また、薬剤師以外にも、研究者、医薬品の承認制度、社会的背景、社会的な問題に関する事例を知ることができ、幅広い視点で考えることができたという学生も多くいた。	過去の薬害による健康被害の事例を踏まえ、医薬品の開発から承認制度、あるいは医薬品情報学や医薬品適正使用の観点から、市販後の育薬に関する薬剤師の活動を統合的に学修することができる。
2	北海道科学大学	薬と社会	3年次	本人	サリドマイド スモン 非加熱血液製剤 ソリブジン等	教員が薬害を学んで得た知識を基に講義するだけでなく、薬害被害者であり、支援活動を行っている講師が講義を行うことで、より確かな情報・被害者の実情を学生が学ぶことができる点。加えて、レポートの作成を通じて学生が今後の薬剤師職能を考える貴重な経験となっている。	レポートなどの提出物、グループ発表の中で、「薬害の恐ろしさ」、「薬害における薬剤師の責任」についてなど、様々な刺激を受けたことを感じている学生が散見された。	薬害は過去のものではなく、最近でも発生していることを知ること、我が国でいかに多くの薬害が発生し、その原因の多くが早めに処置すれば被害の拡大を防止できた点などを知り、薬剤師になった時の薬害防止への意識向上とそのための行動に寄与するものと考えている。
3	青森大学	薬倫理学	3年次	本人	サリドマイド	講師自らの体験に基づく講義で、薬害の恐ろしさを知り、医療若しくは医薬品等の研究開発・製造・販売（調剤を含む）における倫理の重要性の認識の向上を図る。	使用回数が少なくても起こってしまう薬害の怖さを認識できた。	該当なし
4	岩手医科大学	早期体験学習（全人的医療基礎講義含む） 医療倫理とヒューマニズム	1年次 4年次	本人 本人	薬害エイズ サリドマイド	教科書を使った授業の内容より、本人からの声を聴かせることが重要。薬害が発生した背景とプロセス、薬害被害者の心身の苦痛、薬害訴訟の実態、薬害をなくすために必要な道義的・社会的・医学的観点について、体験者の生の声を通じて理解を深めることができる。また、なぜ薬害は起こったのかを深く考えることで人間の持つ様々な価値観や倫理観を養育し、医療者と患者双方の視点で医療について俯瞰的に考える姿勢を身に着けることも重要である。実例を通し、薬害が起きないためには何が必要かを討議させることで、多様な意見を共有し、様々な視点から問題解決へのアプローチを考える機会となる。	学生は熱心に聴講している。「全人的基礎講義」においては、薬害に負けず「いのちが守られる社会」の実現のために精力的に活動している講師の姿を目の当たりに、医療人を志すものとして薬害をなくすための学びと意識を持つことの重要性を強く認識したとの感想が例年寄せられている。講義後に講師のHPから活動を調べる学生や、講師の著作を手にとる学生もいる。「医療倫理とヒューマニズム」では、薬害が広まった経緯や、サリドマイドが他の疾患の治療薬になっていくことを知り、複雑な思いを抱く学生もいる。本人からの問いかけに必死に答えようとする姿勢が多くる学生にみられ、真剣に話についていく姿があった。講演を通して、薬害は単なる副作用ではなくその背景には人災があったことを理解し、薬害に対する認識が変わっているようだ。	薬害が及ぼす様々な被害を理解することができる。薬害には、外見などの分かりやすい部分に現れるものも、外見には影響せずとも体内の機能に深刻な障がいを残してしまうものもある。薬に係る者の一つのミスが、様々な形で、その人の生命と暮らしを壊してしまう可能性があるということを学ぶことができる。また、薬害が決して特殊な環境によって生まれるものではないということを理解することができる。
5	東北医科薬科大学							
6	医療創生大学	イグナイト教育2B及びイグナイト教育3合同	2、3年次	本人	サリドマイド	薬害の被害者から直接話を聞くことで、より印象に残る授業を展開することができる。また、授業の中で講師の普段の生活を動画で視聴することで、薬害被害者も普通の人と変わりなく生活できることを知り、被害者に対するより一層の理解に繋がる。	・医療は人を救うためにあるものだけれど、薬害によって人を苦しめることもある。そのことを私たちは忘れてはいけないと思います。 ・薬害被害者を作り出さないために、医師・看護師・薬剤師・製薬会社など多方面と連携を取ることが大切だと思った。 ・薬害を起こさないために、薬を扱う薬剤師が積極的に行動を起こさなければならないと思う。 （昨年度の授業での学生の感想）	該当なし
7	奥羽大学	公衆衛生学	3年次	本人	サリドマイド	講義で学習した薬害について偏見、差別的な扱い、被害者心情を実際の被害者から講演して頂く事により机上の話では無く、現実感を持ってより被害の深刻さと社会に及ぼす影響と医薬に関わる者としての倫理感の醸成に寄与する。	真摯に講演を拝聴している様子から医療倫理について現実感を持って理解する一助となっている感が強い。	該当なし
8	国際医療福祉大学	早期体験実習	1年次	本人	サリドマイド	学生が被害者の生の声が聴けること。	被害者からの直接の声を聴くことに対して、多いに刺激を受けたようで、「将来、薬剤師を目指す自分にとって大変貴重な機会となった」などの意見があった。	該当なし
9	高崎健康福祉大学	薬学と社会	2年次	本人	サリドマイド	薬害被害者の声を直接聞くことで、より知識・理解を深めることができる。	「座学として学ぶ機会はあったが、薬害被害者の『生の声』は聞いたことがなく、衝撃的であった。」、「薬学に取り組む姿勢をあらためて考えさせられた。」等	該当なし
10	城西大学	薬学概論	1年次	本人	サリドマイド	薬剤師の使命を認識、患者目線を理解（1年生）	医薬品の安全利用に対する意識の向上が伺える。現在報告書内容を解析中。	該当なし
11	日本薬科大学	患者の安全と薬害防止口	3年次	本人	薬害肝炎（C型肝炎）	薬の持つ正の面である治療効果ばかりではなく、負の面であるところの薬害問題にしっかりと向き合って学ぶ機会が得られるのは、学生にとって意義深いものと感じる。実際の薬害被害者による講演を聞いた学生は、その生々しい体験や歴史に触れて一様に衝撃を受けるが、医療人として必要な姿勢について真剣に考える良いきっかけになっている学生が多い。	学生の反応としては、実際に薬害の被害者の方の話を聞き、討論することにより薬害に関する理解が深まったようである。特に医療従事者を指すものとして、学問の重要性や責任というものを強く感じとり、薬剤師になることへの自覚が促されたと考えている。	該当なし
12	国際医療福祉大学（成田薬学部）	早期体験実習	1年次	本人	サリドマイド	直接、被害者の方の生の声が聴けること。	今年度新設された学部のためまだ実施経験はないが、同様の授業を実施している本学の大田原キャンパス薬学部からは貴重な機会となっていると聞いている。	該当なし
13	順天堂大学	医療における薬学	1年次	本人	肺がん治療薬イレッサによる薬害被害	薬害経験のない教員が過去の事例を用いて説明しても、薬害被害者が自身の薬害での健康被害の程度やその経過、被害者として認定されるまで経緯などの様々な方向からみた薬害被害の状況や被害者の思い理解することは不可能である。その観点からも、被害者から直接話を聞く機会を持つことは有意義なことであると考える。また、被害者からの話を聞くことで、将来、薬物治療に薬剤師として係る際に自身の判断が薬害被害の防止につながることで、あるいは逆に被害者を生み出してしまう可能性があることを1年次から理解させ、今後の薬学教育を受けていく心構え及びその意義を明確化させるのにつながると考える。	多くの学生は高校時代までに受けた薬害の授業ではなぜ臨床試験までして認可された薬害が起きるのかという患者の立場だけからしか薬害を考えられなかったようであった。薬害患者のご家族の話を聞くことで薬害の悲惨さを理解するとともに、医薬品開発プロセスにおいて第2・3相試験でも妊婦や授乳中、腎臓病など一部の患者は対象外であることで実際に医薬品が発売されるまで間接的に起こる副作用に気づくことができず薬害を未然に防ぐことが難しいという現実を理解することができたようである。多くの学生は副作用（薬害を含む）を無くすというのは不可能かもしれませんが軽減することならできと思うので順天堂大学薬学部で学び、薬剤師として薬害を含めた医薬品の副作用をより少なくする医療に貢献したいとする意識が芽生えたようである。	今後実施を検討する予定である。

N0	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
14	城西国際大学	薬害エイズ事件の被害と現在・今後の課題	1年次	本人	薬害エイズ	実際に薬害被害者の生の声を拝聴でき、1年生にとって薬の使用がメリットだけでは無いことを学習できました。	薬学生は医薬品使用のメリット、デメリットを学び、また、医療人ですら患者さんに差別を行ってしまうこと、薬害の後遺症で今でも苦しんでいる人がいること、現在ではチーム医療で患者さんを支えることが求められていることなど様々なことを学ぶことが出来ました。	該当なし
15	千葉科学大学	ヒューマニズム	2年次	本人	薬害肝炎	実際に薬害被害者の話を聞くことで、薬害に対する認識をより強く持つことができる。	薬害に対する認識をより強く持つことができ、薬剤師になった時にそういった薬害被害を回避するために何をすれば良いのかを考えるようになった。	該当なし
16	東京理科大学	薬学入門	1年次	本人	サリドマイド薬害	薬害被害者の生の声を聞くことによって、薬害を知識としてではなく、薬害が人の命や人生、家族の絆に如何に重大な影響を及ぼすかを知り、薬剤師の使命の重大さを実感する。	毎年受講者全員に感想文を提出させているが、重大な障害を持った被害者を実際に目の前にするのが初めての学生がほとんどで、その姿と前向きな生き方についての講演内容に、衝撃的な感銘を受けた模様が記述されている。講演を聴いて、人の命を預かる薬剤師の使命の重大さを認識し、今後の勉学に取り組む糧にしたいと述べる学生がほとんどである。	該当なし
17	東邦大学	薬学入門	1年次	家族	イレッサ	薬害被害にあわれた方の意見・体験等を直接聴く機会を設けることで、倫理観と豊かな人間性を養い、社会に貢献しうる医療人育成の一助となっている。	「被害者の苦しみを知ることができ貴重な体験となった」 「医薬品副作用被害救済制度の認知度を高めることが必要」との意見が多くあった。	学年を変えて複数の種類の薬害講演を聴く機会を設けることで、薬剤師としての持つべき倫理観を継続的に学ばせる機会となっている。
		ヒューマニズムⅣ	4年次	本人	サリドマイド			
18	日本大学	早期臨床体験	1年次	本人	サリドマイド	1年生を対象としており、今後、様々な薬に関する授業において、作用面とともに副作用面を強く考慮・意識することに役立っている。	実際の薬害患者に来て頂いているので、授業内容が強く印象に残るようである。 また薬剤師になるための学習意欲、使命感及び責任感を高めている。	該当なし
19	北里大学	薬と仕事Ⅱ	2年次	本人	サリドマイド	①薬害ということに目を向けられるようになる。②薬は適切に使用し、対応しなければ害となり得ることを実際の被害を通して理解できる。③被害者ご本人が講演されることで、教員が講義するよりも説得力があり、薬害への認識が高まる。④いろいろな立場からの講義を聞く中で、被害者にも加害者にもなり得ることを実感できる。⑤薬害の起こった背景を理解し、これを繰り返さないように自分達ができることを考える機会となる。⑥医療に関わる上で必要な倫理観、命の重みを感じることができる。	①経験者からしか聞くことの出来ないことを聞けて、貴重な経験になった。 ②薬害だけでなく人として、医療人としてどう考えるべきかを学ぶことが出来た。 ③被害者の方は、被害を受けたにもかかわらず前向きに活動されており、学生自身が生き方を改めて考える機会となっている。 ④大学に入るまで薬害についてほとんど知らなかった。中学、高校等、もっと早い段階から薬害の授業を取り入れるべき。	該当なし
20	慶應義塾大学	医療・薬剤師倫理	3年次	本人	サリドマイド 薬害エイズ スティーブン・ジョンソン症候群	これまで自分の中で想像していたこととは全く違う現実に直面し、薬害の被害の重大さに気づく。防げるはずのことをなぜできないのか、薬の研究開発に携わるものとして、あるいは患者に薬を渡す最後の医療者としての倫理観を考えることができる。さらに、薬学を学ぶ意味について改めて考え、主体的に学習するようになる。	学生は真剣に被害者の話を聴いており、被害者の生の声を真摯に受け止めている様子がワークシートへの記載やグループワークの様子からうかがえる。また、多くの学生が、授業アンケートの中でこのように患者から学ぶ授業の重要性について述べている。	学生は複数の種類の薬害について学ぶことで、個々の薬害の特徴をつかむとともに、薬害発生要因の本質を考えるようになる。
21	昭和大学	地域医療入門	1年次	家族	イレッサ	薬害被害者遺族の話聞くことで、医薬品適正使用の重要性や、医療従事者の責任を深く考える貴重な機会となっている。	今年度はまだ実施していないが、昨年度の講義後アンケートを実施した結果、学生からは以下のような反応が得られた。 「薬害についての講義を聞き、薬害で苦しんでいる人々の思いや願いを知ることができました。医薬品は生命を救うこともあるけれど、奪うこともあるということを学び、使用に際しては細心の注意を払うことが重要だと感じました。また、使用開始前の患者・家族への説明においても副作用について十分に説明し、副作用が起こったとしても早急に対応できる体制を整えていく必要性を感じました。医師の志すものとして、患者さんやご家族に寄り添った治療をしていきたいと強く思いました。」	
		生と死	2年次	本人	サリドマイド	将来、医療を担う薬学生として、医薬品を含む化学物質の有用性の影に潜む危険性を薬害被害者の体験談から学び、ヒトの生命に関わる職責の重大さを改めて認識するとともに、高い倫理観を醸成することにつながることが期待される点。	医薬品の適正使用や薬害を起こさないために、学生としての学修の重要性や薬剤師としての心構えへの言及が多かった。また、障がい者に対する差別・偏見を持たないことの大切さや普段からのコミュニケーションにおいて気をつけるべきことを再認識した学生が多かった。	
22	昭和薬科大学	医療倫理学	2年次	本人	B型肝炎 サリドマイド スモン エイズ	・薬害が発生した背景、構造は同じではなく、様々な要因が介在しているが、共通している点は生命倫理に対する軽視が伺われる点である。また、薬害は健康被害の面だけではなく、被害を受けた方に対する日常生活上の偏見も存在し、人権の尊重に対する教育の機会にもなる。 ・机上で勉強を行うことと、被害者の話を直接聞くことは、説得力が全く異なり、被害者や家族の立場にたつて事実と向き合うことができる点。薬学出身者は将来薬に係る様々な仕事をする立場になるが、このような体験を通して、各々が薬害をけっして繰り返さないという強い意志を有し、行動することに繋がる。	昨年度の講演には、B型肝炎被害者本人と、薬害担当の介護士、またサリドマイド被害者本人に来ていただいた。薬そのものでなく投与方法でも健康被害が広まった事を知らなかった、差別はいけなしい差別されていると感じることの無い様にしなければいけない、などの感想が学生より寄せられ、被害者の方からの直接の講義の重要性が再確認されるものであった。	薬害が発生した背景や構造が異なっているので、薬害発生の多様な要因が身近なところにあることを学ぶことは学生にとって大変意義がある。
23	帝京大学	医薬品安全性学	4年次	本人	SJS	学生の感想文を読むと、薬害や副作用被害については、授業で学んでいるものの、実際に被害にあわれた方の講演を聞くこと、授業では具体的に伝わらなかった患者の苦しみ、仕事、家族など日常生活に与える影響について改めて医療者として薬害や副作用被害救済に努めなければならないという気持ちが強くなるようである。特に、実務実習の直前という時期であることから、医療事故を決して起こしてはならないという決意を抱かせるために効果が強いと思われる。	まず、講演者に対する感想文を読むと、講演者へのいたわりと自分の経験を話してくれたことに関する感謝の気持ちが感じられる。グループセッションの結果、薬剤師の役割としてあがってくる意見は非常に多様であり、どれも実際の医療現場で必要なものが多い。特に、患者とのコミュニケーションや薬剤師以外の医療職の方々とチームワークに関しては、その重要性に関して、改めて気づいたものも多いようである。	該当なし
24	帝京平成大学	フレッシュセミナーⅠA（薬剤師の果たすべき使命）	1年次	本人	サリドマイド	他の授業よりも学生の印象に残り、薬害を起こしてはならないという意識向上につながっている。	健康被害が被害者とその家族の人生に与える影響、薬のリスクについての理解が深まっている。	該当なし
25	東京薬科大学	人間と薬学Ⅰ	1年次	本人	サリドマイド	実際に薬害にあわれた方の体験など直に聴くことにより薬害被害者やその家族の方の痛みを知ることができ、二度と同じ過ち（薬害）を起こさないための薬剤師の責任の再認識と社会制度づくりなどを考えるきっかけとしている。	実際の生の声を聴くことにより、薬の専門家ややがて指導者となる学生達に大きな印象、影響を与えている。薬の有効性と危険性の表裏一体であることを改めて実感し、薬を扱う薬剤師として責任感、知識、態度、倫理など再認識できたとの感想が多く聞かれた。	該当なし
26	星薬科大学	薬学の心構え	1年次	本人	サリドマイド	薬の専門家を目指す学生たちにとって、薬学被害者の実体験を聞くことにより薬剤師または医薬品開発者としての社会的責任を意識する良い機会である。	この授業を受けて、薬害についての深刻さを学び、しかもそれが度々起こっていることを知り、がっかりした。薬害が起きる理由や被害拡大の理由に、事実の隠蔽があると思うので、隠匿をさせないことが必要であると感じた。薬害について知る機会は今まで無く、悲惨な実態にとっても驚いた。また、実際にサリドマイド薬害の被害者である講師の話の聞いて、もう二度とこのような事件を起こしてはいけないと強く感じた等、レポート提出により学生の反応や感想が得られた。	該当なし

N0	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名 称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
27	武蔵野大学	病態学 1	2年次	本人	B型肝炎	学生が被害者である患者様の声を直接聞くことにより病氣に対する理解が深くなる。	患者さん本人から実際の治療の様子や被害者への偏見に対する苦悩などの話を直接聞くことで、この病気の家族など周囲に与える影響の大きさを認識し、今後の薬剤師としての役割を痛感したとの感想が多かった。	現在の様々な規制が何故定められているのか、その経緯や背景を複数の薬害被害者の声を通じて知る事が出来た事は重要である。これらの講演会を通じて学生の医薬品に対する意識が変わり、その責任を自覚する機会となっている。
		薬効安全性学	3年次	本人	サリドマイド薬害			
28	明治薬科大学	総合人文社会科学	6年次	本人	サリドマイド	アザラン肢症を晒した講師のお姿から、サリドマイド薬害の酷さが目に焼き付けられるとともに、講師の言葉に深い説得力を感得することができた。	履修者全員にレポート（感想文）提出を課しているが、講師から生きる勇気をいただいたという趣旨の反応・感想などが特徴的である。学生感想文のうち、十数編を講師にフィードバックしている。	該当なし
29	湘南医療大学	薬と毒性学入門	1年次	本人	サリドマイド SMON ソリブジン	これから薬学を学ぶ学生が、薬の功罪を知り、サリドマイド被害者から直接講義を受けることにより、今後の薬学の勉学姿勢に大きな影響を与えたと言える。	サリドマイド被害者にお会いするのが、初めてで薬がこのような奇形を引き起こすことへの驚きと二度とこのような薬害を起こしてはならないという思いを多くの学生が感じていた。	
30	横浜薬科大学	薬学概論 I	1年次	本人	サリドマイド	薬害についてほとんど知識のない学生も、講師の姿とサリドマイドをめぐる政府、会社、薬局、家族、友人等の態度等の話を聞くことにより、薬害の恐ろしさ、本人、家族の苦しみを知ることができ、薬学を学ぶものとしての責任について強く考える機会となる。	本講義を受講前まで薬害問題の捉え方には学生間で大きなばらつきがあるものの、共通して第三者目線的な理解であったようである。しかしながら、受講者が理解し易いように配慮された講師の説明を拝聴するにつれて、自身のこれまでの理解と気遣いが必ずしも正しいものでなかったことを認識した受講生がほとんどで、驚きを隠せない様子であった。講義終盤、今後、一人の人として、あるいは将来薬剤師として、薬害被害者の方々に適切に対応するため、また薬害の発生を防ぐために今、自身が何をすべきかを考える姿は印象的であり、本講義を受講することによる学びの成果一つであるように感じられる。	該当なし
31	岐阜医療科学大学	薬学概論	1年次	本人	サリドマイド	サリドマイドによる薬害自体の他、薬害発生の状況、被害拡大につながった対応の遅れなどの問題について理解を深めるとともに、薬剤師として薬害防止にどのように関わっていけるのかを考える機会を提供できる。	講義後のアンケートでは、薬害の拡大に至った行政の対応の問題、患者さんの苦痛の大きさ、など、聞くことのなかった状況を知ることができ、よかったとの回答が多かった。また、講師を務めていただいた方の、想像を絶する苦勞をされてきたと思われるにも関わらず、前向きな姿勢で活動されてこられたことに感動した学生も多かった。	
32	新潟薬科大学							
33	北陸大学	早期体験学習	1年次	本人	サリドマイド	日本ではこれまでに数多くの薬害事件が発生し、大きな社会問題となっている。薬害被害者から薬害の実態、被害状況や遺族への差別・偏見、国や製薬企業の対応について聴講できることは大変有意義である。	将来、薬剤師を志す者にとって、非常に有意義であり、社会的重要性も理解できたと毎年好評である。	該当なし
		臨床統計学	3年次	本人	サリドマイド			
34	愛知学院大学	薬学概論	1年次	本人	スモン	薬害被害者（ご家族）の方からの生の声を聞き、問題を提起してもらうことにより、単なる薬の副作用についてだけでなく薬害の問題点、将来の医療従事者としての心構えについて真剣に考えることができた。	薬害問題について理解を深め、薬剤師の責任の重大さ、国内外の情報収集の重要性、そして患者への丁寧な説明の必要性などを強く意識していたことが印象的であった。	薬害被害を受けた方から直接話を聞くことにより、薬の副作用が与える苦しみやその後の偏見についても知ることが出来、薬害の再発防止を強く意識付けすることができる。また、将来の薬剤師になるための動機付けにも効果があると考える。
		医薬品毒性学	4年次	本人	スモン			
35	金城学院大学	基礎薬学演習B	1年次	本人	C型肝炎ウイルス	直接薬害被害者からの訴えに耳を傾けることで、薬害被害者の苦痛を理解し、回避することの重要性を認識させることが出来る。	授業後の感想文から、学生への影響が大きかったことが伺える。	該当なし
36	名城大学	プロフェッショナルリズム I	1年次	本人	サリドマイド	薬害被害者を招聘して薬害の原因や実態および薬害と社会との関係について、理解を深める機会になる。	昨年度までの実施から、被害者に対する国・製薬企業の対応や被害者への差別や偏見の問題について知る機会になっている。薬害が身体だけでなく精神的にも様々な被害をおよぼすことを知ること、薬の専門家として薬害防止の大切さを理解するきっかけになっている。	授業を通して、薬害スモン、薬害エイズ、ソリブジン薬害、薬害ヤコブ、C型肝炎の概要について、学習活動として学生自ら調査し、グループ内での共有を経て、薬害防止のための薬剤師のが果たすべき役割について考えさせている。
37	鈴鹿医療科学大学	薬学への招待	1年次	本人	サリドマイド	薬害や医療安全に関する講義や演習を通して、医薬品情報や医薬品適正使用の重要性ならびに医薬品評価、副作用救済制度等に対する理解度が向上することを認識が深まることが期待できる。また、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における薬剤師の役割と使命について考えることができる。	講義後のアンケートの感想より、被害者の声を直接聞くことで、医薬品情報や医薬適正使用の重要性について学ぶことができた。また、薬害防止や医療安全に関する薬剤師の役割と使命についての考えを深め、意識づけの機会となる。	薬害被害の実態を直接聞き、薬害被害・差別偏見問題への理解を深める機会を設け、学年を跨ぎながら知識や認識を深めている（3年次生は、1年次にスモン事件の被害者による講演を聞く機会をすでに得ている）。
		薬害・副作用学	3年次	本人	サリドマイド			
38	京都薬科大学	早期体験学習	1年次	本人	サリドマイド	講義を傾聴することにより薬害を根絶するために医療人として薬剤師は「何をしなければいけないのか」、「何を期待されているのか」を学ぶ。将来の医療人としての自覚を高めるとともに、「生命の尊厳」、「やさしさ、おもいやり」など豊かな人間性を涵養する。	薬害の被害者であるご本人の話を聞くことによって、多くの学生から以下のような感想が寄せられ、将来、医療に携わるものとしての自覚と責任の重さを感じ取ってくれたようです。「患者を中心とした医療が提供できるように、薬の専門家として、正しい行動をしていかなければならない。」「薬剤師は医療人の一員として良心のある対応を心掛け、責任のある立場であることの自覚をもって日ごろから行動したい」「薬剤師だからこそ分かる薬の成分やその働きについて考え、それを基に自分の意見を伝えていくことが重要だ。」「医療人としての責任感、その中でも薬剤師は薬の専門家として、より強い責任感を持つことが求められている。」「薬の専門家である薬剤師は、過去の薬害被害を受けた人たちの話や経験から目を背けることなく、十分な知識と能力を身につけて真の医療人になりたい。」「患者の疑問や不安に真摯に対応・寄り添える薬剤師になりたい。」「医療従事者として働くことになった時、自分の判断一つで患者の人生を変えてしまうという局面に立たされるかもしれない。その時、自分の行動が患者の未来にどのように関わっていくのか冷静に考えられる医療人になりたい。」	該当なし
39	同志社女子大学	早期体験学習 I	1年次	本人	血液製剤によるHIV感染	医薬品による有害作用の内容については繰り返し講義で触れているが、現実には被害者を目の当たりにすると、学生にとって、非常に強い当事者意識をもつこととなる。本学では、1年次の「早期体験学習」において、あまり専門知識を必要としない内容で、薬には負の面もありうるという事例として、4年次においては、実務実習を目前にした薬剤師の卵として、より専門的な面から、薬害被害者の方に実体験を語っていただいている。薬害の歴史について2コマで学修した後、薬害被害者の声を直接聞くことにより、学生の薬害を起こさない取り組みへの使命感が強まると考えられる。	例年、学生のレポートから、強い感銘を受けたことが伝わってくる。「早期体験学習」では、単純に「薬害というものがあるのだ」と初めて知ったという感想が多いが、4年次生では、実務実習の準備段階である事前学習の最中であり、より自分のこととして、また将来の薬剤師としての業務と直接結びつけた決意を表明する学生が多い。異なる薬害被害者の方からの発言で共通しているものの一つに、「薬害を防ぐのは薬剤師が最後の砦です」というものがあり、「薬害は行政や製薬会社の責任」とする安易な姿勢に流されず、これに向き合って、当事者意識を強く持ったというレポートが数多く提出されることが印象深い。	薬害の種類によって、医学・薬学的専門知識が必要な場合と、問題の理解にはそれほど専門知識が必要ないものがあり、専門科目の進捗度に合わせ、低学年・高学年にわけて行うことは、教育効果が高いと考えられる。また、一口に薬害と言っても、医学・薬学的問題以外に、社会的問題などが関係して多種多様であり、それぞれについての理解を深めるには、講義ではカバーできない点も多く、できるだけ多くの例を紹介すべきだと考える。
		医療安全性学	4年次	本人	MMR(新三種混合)ワクチン被害			
40	立命館大学	薬学応用演習	2年次	本人	サリドマイド HIV CJD スモン 肝炎 筋短縮症	薬害被害者の方やご家族の苦痛について直接お話をいただき、グループ学習に加わっていただくことで、学生の理解がより深まり、将来の医療人として二度と薬害が起こらないようにとの自覚が高まる。発表会にも薬害被害者の方が参加していただき、学生の発表に対してもコメントしていただけのので、有意義な会となっている。	学生から提出されたミニレポートより一部抜粋 ・多くのことを学べた ・更に理解が深まった ・事前の発表準備で担当の薬害について調べ、どのような被害があり、医療関係者が薬害を防ぐため何ができるか考えていた。しかしお話を伺う中で、被害者や家族の方々は、実際に被害に遭っていない人には全てを推し量ることができない、苦痛や憤りを感じているとわかった。そして、薬害の根絶の重要性を痛感した。 他	薬害ごとにグループ分けし、各グループに薬害被害者の方や教員が入りグループ学習を行う。最後に発表会を行うことで共有しているため、効果的である。特に、薬害被害者の方々からのコメントは有意義である。

N0	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
41	大阪医科薬科大学	多職種連携論 3－医療倫理	3年次	本人	サリドマイド薬害	周産期医療における薬害の実情を、陣痛促進剤の被害者家族の方から直接伝えてもらうことで、薬が両刃の剣として人間の生命と生活に大きな影響を及ぼすことを具体的に理解することができる。講師の方の切実な体験とそこから得た逞しい人生観、さらに薬と医療に対する真剣で前向きな意見を知ること、薬の持つ重みを確認することにも繋がる。学生一人ひとりが、薬剤師および薬のプロとしての自覚と責任を自ら培うために最適な教材となる。また、サリドマイド薬害における国や製薬企業への対応の歴史、被害者に対する社会の差別や偏見の問題を被害者自身がエピソードを交えて語れることは、それに関する情報とは違って「生きた歴史」であり、生の声でしか伝わらない問題の深刻さと重要性である。学生たちにとってきわめて有意義な講義である。	薬害被害者の生身の姿と切実な声に触れることは、学生にとって衝撃的な体験であるようで、学生が被害者への心遣いを示すとともに、薬の重要性を発見して、薬のプロとなる自らの将来について構想していた。	当授業は3年次前期に実施するが、3年次後期の「医療と法」、4年次生の「制度経済」と「コミュニティ・ファーマシー」と連携することで、社会制度論・地域医療的な観点を含む全人的視野で薬害と医療を捉え直すことができると期待される。5年次からの「病院実務実習」・「薬局実務実習」で患者1人ひとりと真摯に向き合うことの大切さを自覚するという点においても、当授業の波及効果は大きい。
		多職種連携論 3－医療倫理	3年次	家族	陣痛促進剤			
42	大阪大谷大学	医療倫理学演習	2年次	本人 家族	注射による筋拘縮症 MMRワクチン	被害者及びその家族の声を直接お聴きすることは、将来医療従事者として医療の現場に出る薬学生たちにとってかけがえない経験になると考える。また、医療の倫理的側面に目を向け、自分自身の倫理観や正義感、人間性を深めさせる上で非常に有効であり、薬学生として、単に知識や技術を修得すればよいのではないことを認識する機会となる。さらに、安全性を確保するための医薬品の開発及び供給に係るシステムやレギュレーション、救済の制度を含めた総合的な知識の修得、理解を促し、医療専門職としての薬剤師に求められることや、患者とそこへご家族の真の救済のために果たすべき役割、社会的使命に対する自覚を促す契機となる。	例年通り、学生達の授業に取り組む姿勢は通常の授業より緊張感・真剣味が感じられ、質疑においても各講師の講演に対して感謝するところから始めるなど、課題や討論に真摯に向き合う態度が認められた。また今年度は、例年よりも積極的に質問がでて、各講師との議論の盛り取りの深まりが見られ、総合討論やレポートで学生から多く見られる意見や感想は、以下のようなものである。 ・薬害について副作用とどのような差があるのかなどあまり理解していなかったが今回の講義を通して理解することができた。 ・患者本人の感覚では重い症状であったとしても医者や国の判断によって判断されることから本人の苦しみを反映することができていない現状を知ることができた。 ・筋拘縮の人が日常生活において歩く、走るなどの動作が他の人と違うことで悪口を言われたり、態度が悪いと誤解されたりしていると聞き、筋拘縮を多くの人に知ってもらい、その症状に対して差別や偏見がされることがないようにしないといけないと思った。また、このような被害が出ないように、薬剤の知識などをしっかり学ばないといけないと思った。 この他、とくに当時の製薬企業や行政、医師や学会の対応に対する憤りなど、学生たちの純粋な正義感を示す意見が多くみられた。 ・副作用被害救済制度について勉強し、将来、副作用の被害者に出会った際に救済制度があるということをしっかりと説明できるようにしたいと思った。	前年度は、「薬害SMON」（被害者）と「予防接種禍」（被害者家族、元PMDA運営評議会救済委員）の組合せて、「筋拘縮症」（被害者）と「MRワクチン」（被害者家族、PMDA運営評議会救済委員）の組み合わせで、総合討論を含め対面により実施した。本年度は、講師（薬害被害者）が遠方（北海道）居住のため、ZOOMによるリモート（Live）授業とのハイブリッド型で実施した。今年度は、「注射による筋拘縮症」（被害者）と「予防接種禍」（被害者家族、元PMDA運営評議会救済委員）の組合せて、本授業デザインの特徴は、薬害被害者とその家族という異なった視点からの話を拝聴し、総合的に討論できる点と、副作用被害者救済制度の普及・活用を含めた、多角的視点を与え討論できる点である。2回分の授業を同日・連続した授業として実施しているため、総合討論の際にも、学生からの質問に対しても複数の外部講師の意見を聞くことができ、学生に常に多角的視点を与えることができる点で効果的であると考えている。また、授業のテーマの課題である「薬害の防止や被害者及びその家族の（真の）救済において薬剤師はどのような責任や役割を果たしていくべきか。」という問に対する解答及びヒントを求める機会を学生に与えることができる。一方、講師を務められる被害者及び家族からは、毎年、医療専門職となる学生たちが薬害の被害者の話に耳を傾け、薬害の背景について学び、真剣に議論・質疑する姿を目の当たりにする機会が得られたことに対して感謝する声をいただいている。このように、こうした教育活動への参画自体が、薬害被害者に対しても、他の啓蒙活動や被害者救済活動への参画とは違った格別の効果を有しており、重要な役割を果たしているものと思われる。
43	近畿大学	早期体験学習 (薬害講演会)	1年次	本人	サリドマイド	薬害被害者本人から薬害による健康被害の実情や種々の苦しみ、また社会生活の現状について、直接、聞くことのできる機会は、将来、医療の担い手の一員として薬剤師を目指す学生が、社会において信頼される医療従事者となるべく実学教育を実施する上において、非常に有益である。	講師の方は「薬害の原因は何か」という問に対し「人間である」と回答された。薬は原因物質にすぎず、その正しさ、安全性の確認をする人間にこそ責任があり、そこに原因があるということである。薬害が起こらないようにすることのするのは、医療安全を管理する人間にしかない。今後、一切の薬害事件を引き起こさないために、私たちにできることは薬の知識と判断力をつけることであろう。フランス・ケルシー女史のように「疑わしきことがあれば納得できるまで調べぬくこと」これが安全に薬を使用する上で最も重要であると考える。（学生の感想より）	該当なし
44	摂南大学	薬学基礎演習Ⅰ	1年次	家族	陣痛促進剤被害	薬害被害者の生の声は、薬学教育モデルコアカリキュラムのうち、とくにB-1-1「薬剤師に求められる倫理観とプロフェッショナルリズム」やB-1-2「患者中心の医療」の修得に極めて強いインパクトを与え、学生のモチベーションの向上に寄与する。	昨年度まで（旧カリ）は同講義を「薬剤師になるために」の科目内で実施していた。事前調査の時間を設け、調査課題をレポートとして提出させていた。講義後のレポートから、薬害被害者の声を直接聴かせることにより、事前調査では十分に養えない「薬害被害者への偏見の問題」「命の大切さ」「薬の適正使用の重要性」「臨床に従事する心構え」等に対する学習意欲を効果的に涵養できたように感じられた。今年度から（新カリ）は「薬学基礎演習Ⅰ」の科目内で実施し、講演後にグループワークを実施する予定である。	該当なし
45	神戸学院大学	医療の中の薬学	2年次	本人	サリドマイド	薬害被害者の方のご講演は、学生が、薬剤師のあり方や倫理規範等を考える上で大変貴重な機会になっていると思われる。また、学生が薬害被害者の方（または患者様）とふれあい、社会のニーズを肌で感じることににより、学生の学習モチベーションや、医療専門職としての自覚・責任感が向上していることが推察されます。	学生からは、概ね良好な反応が得られています。	さまざまな薬害について深く学ぶことは、医療職としての適正なかかわりを見出す上で、常にそれによいのかという振り返りの姿勢の元ともなっています。
46	神戸薬科大学	社会薬学Ⅱ	4年次	本人	Stevens - Johnson症候群	被害患者ならびにその家族の声を直接聞くことで、これまで事象として捉えていた薬害被害というものを学生自身が感じ取る機会となっている。それによって、学生がこれから目指す医療とは、医療人とは、を考察する良い動機づけとなっている。薬害の実態を聞くことによって、薬害防止のためには、薬を作る製薬会社、薬を承認する国、薬を処方し調剤する医師や薬剤師等の関係性や役割の違いを知ることができる。そのことによって薬剤師の果たすべき役割が明確になり、将来薬害が起こらない社会の実現に貢献できると考えられる。被害者の話より、国民（消費者）としての関わりも理解でき、そのサポートを行うことができるようになる。（例えば、消費者が自分の薬に関心を持つ、国・製薬会社・医療機関の役割や行動に目を向け、それをチェックしたり制度を利用する等）	対面で講演を受けているため、コミュニケーションがとりやすく学生の反応も良好である。実際に薬害の被害にあわれている方と接する機会を貴重に捉えている。	
		初期体験臨床実習	1年次	本人	サリドマイド			
47	姫路獨協大学							
48	兵庫医科大学	医薬品安全性学	4年次	本人	スモン	学生が肌で感じる機会を提供することにより、教員から教わるのとは違った視点で問題を考えることができる。すなわち、薬害をより身近な問題として捉えることができ、薬害防止に関する意識の向上が期待できる。	学生は、非常に真剣な態度で講師の話に耳を傾けていた。講義後のレポート（感想文）では、副作用から薬害へ拡大を阻止することも薬剤師の職務であり、そのためには、患者や医療従事者との良好なコミュニケーションが大切であるとの意見・感想が多かった。	該当なし
49	武庫川女子大学	初期演習Ⅱ (薬害被害について)	1年次	未定	未定	薬学科に学ぶ学生が、過去の薬害についてその原因と社会的背景を学び、今後薬剤師として社会に貢献する時、薬害発生を未然に防止することは、薬剤師の社会に対する大きな責務の一つである。薬学を学ぶ初期の段階でこの点について学ぶ事は大変重要である。薬害被害の方から、実際の生のお話を伺う講義討論会を開催することは、将来、薬剤師となる学生にとって大変有意義であると考えられる。	薬害・副作用被害の防止に努めるためにまず薬害の現状を知ることが大切だと思った。医薬品の適正使用の重要性を感じた。薬の知識だけでなく、過去にあった薬害と向き合うことの大切さを痛感した。将来、薬剤師として、薬に関しての正しい知識を身につけ、患者さんに十分な説明をしたい、自分の利益より患者さんの健康の安全を優先できる薬剤師になるべきだと感じた。医療チームの一員として、自分が異変に気がついたら声をあげられるような勇気を持つことが必要だと思った。積極的に患者さんと関わり、患者さんの立場に立って考える必要があると思った。（2023年度実施の学生レポートより抜粋）	
50	就実大学	薬学対話演習	2年次	本人	肝炎(B型及びC型)	実際に薬害被害者の話を聞けるとともに、質疑応答によって当事者からの答えを直接得ることができる。	実際に話を聞いた、という経験が学びになったという声が多い。また、薬剤師を目指すにあたり、意識の持ち方のプラスになったと言う意見も多かった。	

N0	大学名	授業科目名 (特別講義名) 又は講演名	履修年次	講師の 立場	取り上げた薬害の名称	授業を実施するメリット (有意義な点・利点)	学生の反応・感想	複数種類の薬害について 授業を実施することの効果
51	広島国際大学	薬学へのいざない	1年次	本人	サリドマイド	薬害被害者が御自身の身体の不完全な状態を示されての講義となるため、学生は薬害問題をより深刻に受け止めることができる。	被害者の方からの直接のお話は、学生の感情にリアルに働きかけるようであり、薬害の恐ろしさを実感するとともに、薬害を起こした原因が人であるとの講義内容から、医療者となる者にとっての責任を大きく感じるとする感想が多い。	複数の問題を同時期に考える機会となるため、薬害は特殊な問題ではなく常に考慮しなければならない常在的な問題であることが自覚できる。
52	福山大学	生命倫理	3年次	本人	サリドマイド	本学では3年生を対象とした講義であり、この学年から臨床現場も意識した授業を学び始めます。サリドマイド被害者の方から直接お話を聴くことにより、薬害に対して強く認識することができるとともに、「薬剤師として何をすべきか」を考え始める機会を得ることができていると考えております。	今年度はまだ実施していません。 例年、サリドマイド被害者の方への敬意、薬剤師が薬害を知ることの大切さ、今後の自身が持つべき心構え、について言及した感想が多く見られます。医療や医薬品をデータの視点から評価するだけでなく、一個人の思いや考え方を尊重することの必要性を認識した、という旨のコメントも複数得られています。	本学では、サリドマイド薬害被害者による講義の前後に、教員による他の薬害（スモン、ヤコブなど）に関する講義を行い、学生が薬害に関してより深く理解できるように授業計画を工夫しています。その結果、知識の蓄積とともに、自らがイメージしていたこととの相違も認識できた等の学習効果が得られています。
53	安田女子大学	薬害を知る (「まぼろば教養ゼミ」内)	3, 4, 5, 6年次 (5, 6年は特別講演として聴講)	調整中	調整中	医薬品を適正に使用することの重要性を学び、医療従事者に求められる良識的かつ公正な態度を醸成するための良い機会となっている。		
54	徳島文理大学	社会薬学	4年次	本人	B型肝炎	患者本人の声が直接聴けること	患者の苦しみを正確に把握でき、大いに考えることが出来た	サリドマイド、キノホルム、アンブル入り風邪薬、筋肉縮症/幼児大腿四頭筋短縮症、クロロキン、薬害エイズ、ソリブジン、薬害ヤコブ病、薬害肝炎、ライ症候群、TGN1412事件について講義並びにSGDを実施し、より理解を深めている
55	徳島文理大学（香川薬学部）	医療倫理学	2年次	本人	サリドマイド	薬の効果について、あまり深く意識せず過ごしている学生に、薬はそれによって人の生命・健康維持に大きく貢献しているが、一方で使用を誤ると生命に直接影響を及ぼすものであるということを深く印象付けることができる。加えて、被害者自身による講義は、薬剤師あるいは薬の創製をめざす学生に、責任ある職種であることの自覚喚起をもたらすものである。	サリドマイド被害者を目の当たりにして、本来人間の健康を守るはずの薬が、健康を損ない、奇形を発生し、場合により死に至ることを学生達は実感する。このサリドマイドが多発性骨髄腫の治療薬として2008年に日本で再び承認された事実を知り、驚きを隠せない様子である。しかし、サリドマイドはハンセン氏病に伴う皮膚炎の治療薬として既にアメリカで販売が承認されており、薬の持つ2面性と、これに係わる研究者、製薬企業、薬剤師の倫理観の重要性を改めて理解することができる。また、サリドマイドには光学異性体であるR体とS体が存在し、R体に鎮静・催眠作用があることがわかったが、当時この分離法が成熟していなかったため悲劇に繋がった。しかし、後にR体も体内でS体に変化することやサリドマイド投与による動物種差が明らかになり、この事件をきっかけに新薬の構造・物性評価がより厳密に行われるようになった。これにより、人類は貴重な教訓を得ることになり、薬剤師として将来活躍する学生にとっても薬害問題、創薬及び市販後調査について真剣に考える機会を与える講義となっている。	該当なし
56	松山大学	薬剤師と医療	1年次	本人	サリドマイド	特別講師の実体験をもとに薬害について学べることは、医療機関等における体験学習など同様に、直接的な関心・感動をもたらし、将来の医療人としての自覚を醸成する上で極めて有意義である。医療人としての自覚、薬の問題点に対する認識、副作用被害に対する国の制度に関する知識、薬剤師としての対応などについて低学年から学ぶことで薬学部で学ぶ意義を再認識し、勉強に対するモチベーションを高めることができる。	薬害を学ぶことの意義については、概ね肯定的な感想が得られている。たとえば、「実際の患者さんの話も聞きながら、薬害防止についても学べる貴重な体験をした。患者さんとのコミュニケーションや医師との連携を大切にし、副作用が少しでも防げたら良い。薬剤師は患者様の体調や異変に気づき、適切な治療が受けられるように受診を勧めることが大切だ」との感想、「将来の薬剤師となる上で『決して薬害を起こしてはならない』という基本的な心構えが出来た」という感想、「薬害被害者の講演に続けて、グループ・ディスカッションを行うことによりさらに理解が深まった」といった感想があった。	1年次2年次3年次と続けて、異なる種類の薬害について学ぶメリットについて肯定的な感想が学生から寄せられている。
		医療倫理1, 2	2、3年次	本人	薬害エイズ			
57	第一薬科大学	医療概論	1年次	本人	サリドマイド C型肝炎	実体験を踏まえた講義を受けることにより、薬害に対する問題意識や薬剤師の使命・医療人との関わり等についてイメージしやすい。	未実施	
58	福岡大学	医薬品安全性学	3年次	本人	スモン	薬害被害者から薬害に関する生の声を聞くことによって、学生へ薬害について真剣に考える機会を与えることができる。そして、医薬品の適正使用における薬剤師の役割を理解し、医療、社会における薬学の役割、薬剤師の使命を知ることができる。	薬害被害者の生の声を聞くことで、薬害について真剣に考えるようになった。そして、今後薬剤師として生きていく自身の責任の重さを痛感し、良質な医療人になることへの強い意識を見ることができた。	該当なし
59	国際医療福祉大学（福岡薬学部）	早期体験実習 (薬害講義)	1年次	本人	C型肝炎	薬害の事例を学ぶことで、学生は薬剤師としての倫理観や責任感を早期に育むことができ、医薬品の安全性と患者の健康に対する意識を高め、薬剤師としてのプロフェッショナリズムの基礎を培うことができる。薬学部1年生に対する薬害の講義は非常に有意義であり、将来の薬剤師としての基礎を築くための重要な教育となり得る。	C型肝炎など、日常生活ではなかなか実感できない「薬害」について学び、薬害が起こらない社会の実現に向けて理解を深めることができた。学生からは「薬害に苦しんでいる人がこんなにも多くいることを初めて知った。薬害問題を繰り返してはいけないと強く感じた」といった感想が聞かれ、人権問題をふまえた発展的な学習ができたと考える。	臨床薬学、薬学概論や医薬品関連法規など、異なる視点から薬害について学ぶことで、学生は薬害の複雑さと多面的な影響を深く理解することができると考えられる。すなわち、臨床薬学、薬学概論では患者の視点から薬害の影響を学び、薬事関連法規では法的な側面や規制の重要性を理解していくことが可能となる。
60	長崎国際大学	薬学入門	1年次	本人	B型肝炎	まず弁護士の方に薬害に対する被害者団体の活動についてご説明いただき、ご自身の体験について語っていただいている。毎年、被害者団体・被害者の状況を生の声として学生に伝えていただいている。この講演は、薬剤師を目指す学生にとって有意義であり、学生も真剣に聞いている。薬害問題等、薬の負の部分の理解の一助になっている。	被害者本人の生の声、被害者や家族に関する意味の無い偏見を聞くことによって、薬害の真の意味の重大さと薬害を無くすためには、薬剤師として何をすべきかを考えさせる端緒となっている。	過去に、C型肝炎、スモン、HIV被害者やワクチン被害者の親等を招いて、講演をして頂いたが、内容によって反応は違う場合はあるが、薬学を学ぶとする学生にとっては薬害の真の意味を理解するには一様に意義のある講演であると理解している。
61	崇城大学	薬学概論	1年次	本人	C型肝炎	学生が薬害について関心を持ち、真剣に考えるようになった。	薬学概論8回の授業終了後に課されるレポートで、例年多くの学生が、上記授業内容に感銘を受けたという意見を書いている。	該当なし
62	九州医療科学大学	薬学入門	1年次	本人	HIV薬害被害 サリドマイド薬害被害 イレッサ薬害被害	学生の薬害への関心・理解を深めることができる。また、将来薬剤師となったときに、薬の薬効について患者の意見を十分聞く大切さを理解させることができる。	(過去の授業で得られた反応・感想では)始めて薬害を理解できたことや薬剤師としての患者の症状を聞く大切さを理解したようである。また、薬剤師は科学者として症状を分析できる能力が必要であることを理解した学生もいる。	様々な薬害があり、多くの事例を知ることにより、薬の薬効に対する薬剤師としての判断が変わってくることで、常に副反応に注意を向けなければならないことと理解したようである。また、今年的小林製薬の機能性食品による被害についても興味を持たせることができる。

令和6年度全国薬害被害者団体連絡協議会の要望に関する調査の集計結果(附属病院関係)

① 薬害被害者や医療被害者、全国薬害被害者団体連絡協議会の関係者を講師に招いた職員研修等の実施状況

(調査対象:42国立大学病院(医系本院))

令和2年度 10/42大学
 令和3年度 12/42大学
 令和4年度 12/42大学
 令和5年度 13/42大学
 令和6年度 10/42大学(令和6年7月時点での実施予定)

② カルテ開示請求の周知状況 (調査対象:42国立大学病院、8公立大学病院、31私立大学病院(医系本院))

カルテ開示請求ができる旨を周知している大学 81/81大学

③ カルテ開示請求の開示状況 (調査対象:42国立大学病院、8公立大学病院、31私立大学病院(医系本院))

請求者	令和3年度(令和3年4月～令和4年3月)				令和4年度(令和4年4月～令和5年3月)				令和5年度(令和5年4月～令和6年3月)			
	請求件数	開示件数	不開示件数	未確定件数	請求件数	開示件数	不開示件数	未確定件数	請求件数	開示件数	不開示件数	未確定件数
	A=B+C+D	B	C	D	E=F+G+H	F	G	H	I=J+K+L	J	K	L
患者本人 (法定代理人を含む)	4,898	4,715	167	16	5,044	4,865	157	22	4,897	4,749	127	21
家族	616	596	17	3	667	651	15	1	677	655	20	2
遺族	866	820	44	2	890	848	40	2	969	907	62	0
代理人(弁護士等)	2,841	2,607	231	3	3,212	2,936	272	4	3,622	3,230	392	0
その他	962	961	1	0	1,007	960	47	0	1,391	1,378	13	0
合 計	10,183	9,699	460	24	10,820	10,260	531	29	11,556	10,919	614	23

※未確定件数とは、開示に必要な手続きが完了していない件数である。

④ カルテの開示手数料及びコピー代 (調査対象:42国立大学病院、8公立大学病院、31私立大学病院(医系本院))

(1) カルテの開示手数料(税込)

	無料	1,000円～	2,000円～	3,000円～	4,000円～	5,000円～
国立大学病院	(42) 42	-	-	-	-	-
公立大学病院	(8) 8	-	-	-	-	-
私立大学病院	(2) 2	(1) 1	(2) 2	(11) 11	(2) 2	(13) 13

(上段:令和5年度)
下段:令和6年度

(2) 白黒コピー代(1枚あたり)(税込)

	無料(※)	10円～	20円～	30円～	40円～	50円～
国立大学病院	-	(1) 1	(34) 32	(5) 6	(1) 2	(1) 1
公立大学病院	-	(6) 6	(2) 2	-	-	-
私立大学病院	(2) 2	(8) 8	(10) 9	(4) 4	(1) 1	(6) 7

(上段:令和5年度)
下段:令和6年度

※ カルテ開示手数料に含まれるため、コピー代のみの価格設定なし

令和6年度全国薬害被害者団体連絡協議会の要望に関するカルテの保存年限に係る調査の集計結果(附属病院関係)

カルテの保存年限

(調査対象:42国立大学病院、8公立大学病院、31私立大学病院(医系本院)。令和6年7月時点)

(1)紙媒体の外来カルテの保存年限(現在の運用状況。”最終受診日から”の年限含む)

	5年	6～10年	11～15年	16～20年	20年以上	永年※	その他※※
国立大学病院	11	17	1	9	0	3	1
公立大学病院	1	3	0	1	0	3	0
私立大学病院	10	12	1	4	0	1	3

※「運用上、永年保存」、「廃棄予定なし」などの回答

※※「電子カルテのみで紙カルテを保有していない」、「診療科等により保存年限が異なる」などの回答

(2)紙媒体の入院カルテの保存年限(現在の運用状況。”最終受診日から”の年限含む)

	5年	6～10年	11～15年	16～20年	20年以上	永年※	その他※※
国立大学病院	10	16	0	13	1	1	1
公立大学病院	1	3	0	1	0	3	0
私立大学病院	5	13	0	8	0	2	3

※「運用上、永年保存」、「廃棄予定なし」などの回答

※※「電子カルテのみで紙カルテを保有していない」、「診療科等により保存年限が異なる」などの回答

(3)電子媒体の外来・入院カルテの保存年限(現在の運用状況。”最終受診日から”の年限含む)

	5年	6～10年	11～15年	16～20年	20年以上	永年※	その他※※
国立大学病院	4	5	0	5	1	26	1
公立大学病院	1	1	0	1	0	5	0
私立大学病院	0	1	0	1	0	28	1

※「運用上、永年保存」、「削除予定なし」などの回答

※※「電子カルテ導入後全てのデータを保存しているが、今後保存年限について検討」との回答